

## 平成24年3月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

3月のNHK九州地方放送番組審議会は、15日（木）、NHK福岡放送局において、8人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前回の審議会での答申を受け「平成24年度九州沖縄地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「平成24年度九州沖縄地方向け地域放送番組編成計画」について、説明があった。

次いで、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、4月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （（株）西日本新聞社監査役）            |
| 委員   | 下竹原啓高 | （（株）指宿白水館代表取締役社長）         |
|      | 竹田 勉  | （（福）熊本県身体障害者福祉団体連合会 常務理事） |
|      | 田中丸弘子 | （（株）佐世保玉屋代表取締役社長）         |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

<目撃！日本列島「僕は沖縄と出会って…～20歳の不発弾処理～」

（2月18日（土）総合 前11:30～11:53 沖縄局制作）について>

- 長崎県出身、自衛隊に入ってから5年目の岩永暢一さんにとって、沖縄出身で自衛隊の同期だった下地祥太郎さんは益者三友の1人だと思った。岩永さんは沖縄の歴史を知識として学ぶだけでなく、下地さんを通して実感していると思った。次第に自衛隊員としての目線だけでなく、沖縄住民の目線も感じ取れるようになり、短い番組の中でも岩永さんの感情の変化が感じられたと思う。下地さんは自衛隊を辞めてしまったとのことだが、その理由にも触れてほしかった。
- 短い番組の中に、ドキュメンタリー的な要素や、ルポルタージュ的な要素を盛り込むというのは、相当難しいと思う。20歳の岩永さんが、不発弾処理活動や沖縄住民

の話を書く中で、改めて仕事の重みを感じたり、沖縄について考えるとといったテーマ性はよく理解できる。話の展開がよくできすぎた印象を受けた。また、友人の下地さんが自衛隊を辞めた理由や、下地さんにとっての沖縄とは何なのか、というところにも触れてほしかった。テーマは非常に面白いが、うまく表現しきれていない印象だった。

- 緊張感があまり伝わってこなかった。今まで自衛隊の不発弾処理作業で事故があったのか、処理するのがどれくらい危険なのか、もう少し説明があった方が緊張感も伝わったのではないかと思う。岩永さんが感じた恐怖感や使命感のようなものが浮き彫りになると、もっと印象深い番組になったと思う。
- “不発弾処理”というテーマ自体が、視聴者にはなじみがない気がする。番組を何度も視聴したが、どこかつかみどころがない印象だった。もっとストレートに沖縄住民の本音の部分を伝えたらよかったのではないか。沖縄の現状について詳しく説明があれば視聴者にもわかりやすかったと思う。
- 番組が淡々としているように感じられた。都道府県別に不発弾の処理数のグラフを表示するだけでも、視聴者の関心が高まったと思う。また、カンボジアやベトナムなど海外での不発弾や地雷の処理の例を取り上げると、制作者の問題意識の広さが感じられたと思う。
- 不発弾が2,200トンもあって、処理するまでに70年かかるというのには驚いた。沖縄で戦争を体験した人やその家族にしかわからない感情がたくさん詰まっていて、そこに長崎出身の20歳の岩永さんが不発弾処理隊として関わるのだが、沖縄になじむのが難しいというのが感じられた。沖縄出身の下地さんが、戦争は怖いものとしてとらえているのに対して、岩永さんが戦力的に自衛官の視点でとらえていることが交わるのが難しいことを表していたと思う。同じ日本人であっても、大きく意識が違っていることがよくわかった。今の子どもたちに戦争のことを理解させていくことは難しいと感じた。今後、岩永さんがどのように成長するのか、どう変化していくのか気になった。
- 番組全体としては、不発弾処理というテーマをもとに沖縄の現状を伝えるという点でとてもよい企画だったと思う。時間をかけて取材をし、丁寧にまとめていた。アメ

リカ軍が上陸した読谷の海を背景に、岩永さんと下地さんが話をしているところが、心に残るすばらしい場面だった。自衛隊の不発弾処理で事故が起きたという話は聞いたことがないので、安全に対する配慮や技術について取り上げてよかったのではないかな。番組は、いろいろなことを考えてみようと思う、といったさりげない岩永さんの言葉で終わっていたが、それで十分だったのではないかと感じた。20歳の若者が自然にそのようなことを感じたのなら、すばらしいと思った。

- 短い時間の中で、岩永さんの成長を描ききれていなかったように感じられた。沖縄の戦後から今までの背景がわかるように取り上げてよかったのではないかな。岩永さんの同世代の若者にも見てもらい、沖縄の問題を考えてほしいと思う。
- 「人の役にたつ仕事をしたい」として自衛官を志す若者がいることにまず驚いた。「沖縄なら海」というイメージしか抱けなかった若者が、沖縄の地で不発弾処理隊に所属し、生命の危機と隣り合わせの不発弾処理をすることを通して、また同期の友達の仲介で沖縄の住民感情を知ることを通して、次第に自らの仕事の何たるかに目覚める過程を描く番組で興味深くはあった。しかしちょっともの足りなさも感じた。長崎出身の若者なのに、原爆投下を経験した県で生まれ育ったという特別な意識はなかったのか。沖縄生まれの同期の友達は、地域住民の思いに逆らって自衛官を目指し、親にその思いを後押ししてもらってまで自衛官になったはずなのに、なぜ辞めたのか。それでいて、長崎出身の若者の、違和感ある思いを変えさせたいと思わせたのは何か。また、地域住民の思いに逆らって息子の思いを後押しした親は、息子が自衛官を辞めることに対して何も思わなかったのか。いくつかの疑問がわいた。2人の若者の、自衛官のあるべき姿をめぐる葛藤のようなものを、むしろ知りたいとも思った。また、不発弾処理の全容と手順なども知りたかった。

(NHK側)

最初は不発弾処理隊の仕事を通じて、全国の人、さらに沖縄の人にも改めて沖縄の現状を知ってもらうことを目的に番組を制作していた。しかし、取材を進めていくと、不発弾処理隊と沖縄住民は意外と遠いところに存在していることがわかり、このような現状も番組に盛り込んだ結果、多くの要素を入れ過ぎて印象の薄さにつながったのかもしれない。ただ、大きな変化がないのが今の岩永さんであり、今の沖縄であるとの思いで、番組を制作した。

<放送番組一般について>

- 2月22日(水)のあさイチ「女性に急増！サクラ・サイト詐欺」は、出会い系詐欺の中でも一番新しい分野の詐欺ではないかと感じた。こういった報道は何度でも繰り返して伝えてほしい。
- 2月26日(日)の「“がれきの街”からのエール～神戸から南三陸町へ～」(総合 後4:45～5:28)は、阪神大震災で被災した男性が、自分たちの経験を生かしてアドバイスしている姿に感銘を受けた。こういった番組を行政の人たちにも見てもらい、被災者たちの助けになるような何らかの手を考えてもらいたいと思う。
- 2月26日(日)のBS世界のドキュメンタリー選「プーチンの野望 第1回 新大統領 誕生」は、当事者のインタビューを通して、政権の裏側が如実に描かれていた。本当にすばらしい番組だった。
- 2月28日(火)のクローズアップ現代「思いが伝わる声を作れ～初音ミク 歌声の秘密～」は、映像で作り出された初音ミクという歌手のキャラクターは多くのファンがいて、コンサートも大盛況であるとのことであった。まったく新しい世界を知ることができて興味深かった。
- 3月3日(土)から11日(日)まで毎日報道された「東日本大震災から1年」にかかわる「NHKスペシャル」が秀逸であり、NHKならではの見応えのあるものであった。一連の「NHKスペシャル」は、NHKの総力を結集した検証と提言番組であり、いずれもが胸を打つものであった。しかし、3月9日(金)のNHKスペシャル 3.11 あの日から1年「南相馬 原発最前線の街で生きる」や、3月10日(土)のNHKスペシャル 東日本大震災「もっと高いところへ～高台移転 南三陸町の苦闘～」では、被災地の子どもたちの現状が少し報告されていたが、本年度、新学習指導要領の完全実施となった小学校、来年度から完全実施となる中学校での学びへの影響や、とくに福島原発の影響で、外で遊べない子どもたちの心と体に及ぼす影響、それを支える教師や保護者、地域の現状を描く特集番組がほしかった。学校は、地域コミュニティを支える重要な場所でもある。未来を開く子どもたちを導く教育現場とそれをとりまく環境の、そのとき・その後を、十分な取材と報告で描いてほしい。
- 震災報道については、総合テレビ、Eテレ、BS、ラジオに至るまで、いろいろな

メディアを駆使して報道しており、非常によかった。1年、あるいは2年という節目のたびに検証を続けていくことは非常に大事なことだと思う。中でも、3月3日(土)のNHKスペシャル「原発事故 100時間の記録」(総合 後9:00~9:58)は、消防団員、町長、看護師の3人を主人公にして、当時どのような行動をしたのかを追跡しているのだが、自分の身に置き換えて考えることができ、非常によい番組だった。映像メディアは、新聞や雑誌などに比べると速報性が強みだと思うので、今後も強化してほしい。

- 3月4日(日)のNHKスペシャル「映像記録 3.11~あの日を忘れない~」(総合 後9:00~9:59)は、これまで見たことのない映像が相当あり驚いた。特に、福島第一原発の津波に襲われた直後の建屋はまだきちんとしていて、水素爆発がいかにかひどかったのかということがわかった。こういった映像を記録することは非常に大事だと思うのできちんと残して行ってほしい。
- 3月6日(火)のNHKスペシャル 3.11 あの日から1年「気仙沼 人情商店街」(総合 後10:00~11:49)を見た。商店街とは、人々にとってなくてはならない心のよりどころ、生活のよりどころであるということを感じることができた。家も仕事も失い、折れそうな心を奮い立たせて、立ち向かおうとするすばらしいリーダーの姿もよく取材していたと思う。行政の柔軟とは言えない対応など、現実がよくわかり、複雑な気持ちになった。仕事がない人が一番つらいという青年会会長の言葉が非常に印象的だった。
- 3月6日(火)~7日(水)のBS世界のドキュメンタリー「ホットコーヒー裁判の真相~アメリカの司法制度~」は、訴訟社会であるアメリカの現実をまざまざと見せてくれ、非常に興味深い番組だった。
- 3月8日(木)の地球イチバン「地球でイチバン“子どもにやさしい”教育」は、幼稚園のときから子どもが自分で時間割を選ぶというオランダの教育方法が丁寧に紹介されて、大変よい番組だった。
- 3月9日(金)の特報フロンティア「震災から1年 原発事故に備えよ」は、12月16日(金)の特報フロンティア「原発依存~九州電力、自治体、そして巨額マネー~」をフォローする内容で大変意義のある番組だと思う。

- 3月10日(土)にラジオ第1の「カケダセ！」という番組に出演していた女性タレントの言葉遣いが気になった。3.11から1年の節目を前に、他の番組では特別番組が組まれており、社会的事象に配慮した言葉遣いが望まれる。
- 3月11日(日)の東日本大震災1年「この町で暮らしたい～障害者・地域福祉の復興へ～」(Eテレ 後6:00～7:30)は、被災地の障害者の話をリアルタイムで聞いていくという構成が大変すばらしいと思う。NHKは社会的弱者への取り組みを強化すべきだと思っていたが、この番組で実現していたと思う。また、九州沖縄地方でこうした自然災害が起こったときに、我々がどう対処すべきかを番組で特集してほしい。
- 3月11日(日)のドキュメンタリーWAVE「世界からみた福島原発事故」(BS1 後6:00～6:49)は、非常に興味深い番組だった。世界の原発に関するいろいろな情報を日本の原発関係者も把握していれば、今回の事故も被害を小さくできたのではないかと感じた。
- 3月11日(日)の「復興へ、あしたのために～東日本大震災から1年～」では、志津川病院で最後まで入院患者に寄り添い治療に当たった医師の言葉が重々しく響いた。「助かったからと言って、悔やまないでください」という、まさにそのとき、責任あるその場所にいた人の、偽りない言葉として重く受け止めた。
- 日本赤十字社を通じて東日本大震災の義援金を寄付しているが、そのお金がどういう形で誰に支払われているのかがよくわからないので報道してほしい。
- 「3.11」の関連番組をたくさん見た。NHKはたくさんの貴重な映像を持っているので、これらを風化させることなく、計画的に放送してほしいと思う。
- NHKオンラインはニュースの内容が充実していて大変よい。難しいのかもしれないが、ぜひ画像も掲載してほしい。
- 最近、韓国、北朝鮮の地名、人名などは原音読みされているようだが、中国の地名、人名については日本語読みされているようで、視聴者としては混乱する。私は、日ごろからスポーツをしているが、中国の選手の名前が日本語読みされ、どの選手のこと

かわからずに混乱した経験がある。人の名前や地名というのは日本語読みではなくて、その国の読みに合わせてほしい。

(NHK側)

中国の地名、人名については、原則として漢字で表記して、日本語読みとしている。韓国と北朝鮮の地名、人名などは原則としてカタカナで表記し、原音読みとしている。視聴者に伝わりやすいようにするには何がふさわしいか、というところで今後も検討課題になるとは感じている。

- ニュースのトップにアメリカ大統領選挙の共和党候補のニュースが取り上げられていたが、日本国内にも報道することが多くあると思うので、構成を考えてほしい。また、「ためしてガッテン」で取り上げられた話題が「あさいち」でも取り上げられることがあるが、内容を再度確認できるので大変よいと思う。

(NHK側)

ニュースの構成は、編集責任者が決めている。今年は、台湾、ロシアなど各国のトップリーダーを決めるという非常に大きな年でもある。中でもアメリカは、日本にとって重要なパートナーであるという位置づけであり、視聴者にとっても大きな関心事であると判断して報道しているのだと思う。

- 先日地震が起こったときに、NHKではすぐに担当の記者が出演して説明をしていた。こういったことがNHKの使命だと思う。九州においても、火山、口てい疫など災害報道に強い人材を育て、視聴者の安心につながるような速くて正確な報道ができるような体制を作ってほしい。
- 「ラジオビタミン」は、関心を持って聴いている。ウェブと連動していて、大変意欲的な番組だと思う。今後のラジオ番組が大きく成長していく可能性を感じる番組だった。「ここはふるさと旅するラジオ」でも、同じようにウェブと連動させて各地を回ったら、地域活性化にもつながるのではないかと感じた。聴取者はラジオで音を楽しみ、ウェブで画像を楽しむことができ、さらに参加感も得られるのではないかと感じた。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成24年2月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

2月のNHK九州地方放送番組審議会は、16日（木）、NHK福岡放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「平成24年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について説明があった。引き続き、「平成24年度九州沖縄地方向け地域放送番組編集計画（案）」の諮問にあたって、説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。

続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、3月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （（株）西日本新聞社監査役）            |
| 委員   | 下竹原啓高 | （（株）指宿白水館代表取締役社長）         |
|      | 鈴田 滋人 | （染織作家・重要無形文化財保持者）         |
|      | 竹田 勉  | （（福）熊本県身体障害者福祉団体連合会 常務理事） |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 原田 緑  | （（株）七尾製菓代表取締役専務）          |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 古野 隆雄 | （農家）                      |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

<「平成23年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について>

- 先日、「N響アワー」が終了するというのを知った。「N響アワー」を見ている人たちというのは、恐らくかなり熱烈なクラシックファンが多いと思う。「ららら♪クラシック」という番組が「N響アワー」に代わる番組と考えてよいのか。このところ毎回、「中学生日記」など、長寿番組の終了のしかたについて意見を述べているが、今回の「N響アワー」についてもやめ方が唐突な印象を受ける。番組の寿命というもの、やはりあると思うが、やめるにあたってはきちんと議論をした上で、そのプロセスを視聴者に公開すべきではないかと思った。「N響アワー」が終了することで、



N響を放送で取り上げる時間が減っていくと思う。N響は、一般の演奏会だけでなく、放送を通じて音楽を普及するという大きな使命を持っているということを忘れないでほしい。

(NHK側)

「中学生日記」については、中学生にアンケートをとり2年がかりで決断した。制作している名古屋放送局でも、中学生役のオーディションを一旦取りやめるなど、徐々に周知していった。今の中学生にとって、どういう情報の伝え方が心に響くのか、ということを試行錯誤しながら今後も番組制作にあたっていきたい。

また、「ららら♪クラシック」については、今「N響アワー」を見ていただいている視聴者にも満足してもらえる内容にしていきたいと考えている。幅広いオーケストラの演奏をしっかりとお楽しみいただくことを第一に番組を制作している。N響の定期演奏会については、BSプレミアムの「プレミアムシアター」という番組で、長時間の演奏をお楽しみいただきたい。

- 編集の基本方針については、社会的弱者やジェンダーの視点も取り入れるべきではないか。重点事項の「2. 東日本大震災を検証し、復興を支援する番組」とあるが、東日本大震災の経験を踏まえて、よりよい社会をつくるため九州沖縄はさらにどうすべきか、というところも考えてほしいと思う。
- これからは、ワンセグやインターネットを活用した番組が重要になってくる。たとえば、「NEWS WEB 24」はその一つの試みだと思う。クロスメディア型の番組で、非常によい試みなので、もう少し早い時間に編成したり、構成をさらに工夫するなどして、もっと多くの視聴者に見てもらおうようにしてはどうか。

(NHK側)

社会的弱者やジェンダーの視点が大切だという意見はおっしゃる通りだと思う。Eテレでは、現代社会で生きづらさを抱えるすべての人たちを対象にした「ハートネットTV」や、「バリバラ～障害者情報バラエティー～」といった福祉番組を新設する。また、ジェンダーの視点でいうと、何かにつまずきながらも、それを乗り越えて今活躍している各地の女性たちを紹介するドキュメンタリー番組「グラン・ジュテ～私が跳

んだ日～」を現在も放送している。こうした人たちについて今後も放送で取り上げていくので、ご理解いただきたいと思う。

東日本大震災については、1月1日(日)の「新世代が解く！ニッポンのジレンマ～震災の年から希望の年へ～」(Eテレ 後 11:00～(2日)前 2:00)を放送し、1970年以降生まれの人たちが、これからの日本をどうするのかというテーマで討論した。3月末にも続編を放送する予定である。九州沖縄各局でも、この編集計画を受けて東日本大震災に関連した番組を企画制作していく予定である。

また、「NEWS WEB 24」については、新しいネット時代に向けて、放送局としてどういったことができるのか、ということを試行錯誤しながらお伝えしていく番組になると考えている。今後、より多くの視聴者にみてもらえるような番組に育てていきたいと考えている。

- 番組編集の方針についてはすばらしいと思う。これだけ多様な情報から必要な情報を視聴者がどのように整理していくのか、NHKは中心的な役割を担っていくと思うので、その期待に応えられるような放送を期待している。また、税金についてもっと番組で取り上げてほしいと思った。人々が、自分たちのお金で国を支えているのだという意識を持てるような番組を制作してほしい。
- アメリカの大統領予備選挙のニュースが取り上げられるが、全体のニュースの割合から考えると大きく取り上げすぎではないか。他にも伝えるべきことが日本国内にたくさんあると思う。
- パラリンピックの放送について、まだまだオリンピックと比較すると視聴者の関心も低いというのが現状だと思う。パラリンピックが、競技性も重視された大会であることをもっと番組で取り上げて視聴者に興味を持ってもらえるようにする必要があるのではないか。また、録画放送が多いのでリアルタイムで放送してほしい。オリンピックと同じくらい放送時間も確保してほしいと思う。
- 2009年の「NHKスペシャル」で「MEGAQUAKE 巨大地震」という番組が4回シリーズで放送された。私は番組を見られなかったので本を読んだのだが、このような番組をまたぜひ制作してほしい。「MEGAQUAKE 巨大地震」が、もっと当時の政府の中枢や電力会社の人たちに見られていたら、東日本大震災のダメージが軽減できたのではないかと感じられ、非常に残念に思う。NHKの使命として、防

災対策を人々に啓蒙していく番組を制作してほしい。

- シンポジウムやフォーラムをよく放送しているが、番組に出演しているゲストに公共放送として使用してほしくない言葉や用語の説明をしているのか。例えば、“父兄”という言葉は“保護者”という言葉に置き換えるなど、ジェンダーの視点を含めて気をつけてほしい。
- BSプレミアムをよく見るが、新年度から「美の壺」や「旅のチカラ」、「極上美の饗宴」の放送時間が見やすい時間帯に変わるので大変よい。これらの番組もそうだが、見ると非常によい番組なのに、番組自体を知らない人が多いのではないか。見ていない人にPRするのが一番大切だと思った。
- 東日本大震災の報道の時に特に感じたことだが、テロップが上に出たり、下に出たりして見にくいので位置を統一してほしい。
- 選挙報道について、開票前に当選確実の情報が出るのは、視聴者にとっては納得しにくい面があると感じている。

(NHK側)

「MEGAQUAKE 巨大地震」は、「NHKスペシャル」のシリーズで伝えたものである。パラリンピックについては、先日「福祉ネットワーク」の中で、注目の選手を30分のドキュメンタリーで紹介し、さらに大会の様様もお伝えしていく予定である。こうした番組やBSプレミアムの番組が視聴者にあまり知られていないのではないかと、というお話があったが、その点は大変苦労している。もっと多くの方に見てもらえるように、番組広報にもさらに力を入れていきたい。

また、税金のことも含めて、さまざまな情報をNHKに整理してわかりやすく伝えてほしい、とのご意見については制作現場にも伝える。

<「平成24年度九州沖縄地方向け地域放送番組編集計画（案）」について>

- 編集計画についてはバランスがとれていてよいと思う。ただ、多くの人にとって最大の課題はこれからどうなるのだろうということだ。地域の経済、中小企業、農業、

商店街の現状など、地域の持続性が最大の問題であり、関心事ではないかと思う。もちろん、東日本大震災を受けて、原発の問題などもあるが、地域の持続性の問題についてもきちんと取り上げてほしい。

- NHKはトキやコウノトリなどの希少生物や、生物多様性について取り上げているが、身近な自然の持続性についても取り上げてほしい。最近、スズメやヒバリをほとんど見かけなくなっているので、身近な地域の話から自然界に異変が起きていないか検証する番組を放送してほしい。
- NHKも早く公共放送というよりも、“公共メディア”になる必要があるのではないか。放送と通信の融合の時代なのにまだその発想が視聴者には伝わってこないように感じる。九州沖縄各局で良質な番組を制作しているが、他の県で放送された番組を見ることができない。それができるのはテレビではなくて、インターネットであると思う。各局に1つウェブサイトを作って、そこにアクセスすれば番組が見られるような仕組みがあればいいと思う。
- 大型番組は、本部一極集中で制作していると思うが、各局でも制作できるようにもっと番組制作費を与えるべきだと思う。そうすればさらに良質な番組を地方主体で制作することができるのではないだろうかと感じる。
- 次期総選挙は、これまでに経験したことのない大接戦になることが予想されるので、その対応は滞りなくやってほしい。
- 大分県では、ケーブルテレビが発達しており、小さなお祭りの話題などを取り上げていて、非常に地域に密着している。NHKでもこのような話題をどんどん取り上げてほしい。
- 北九州市は災害がないというような意識で住んでいたが、小倉東断層があって、地震が起こる可能性があることを知り、非常に驚いている。番組でも継続して取り上げてほしい。
- 諮問された「平成24年度九州沖縄地方向け地域放送番組編集計画（案）」については、委員から出された意見の趣旨が具体的な番組編成のうえで生かされることを前

提に、番組審議会として原案を可とする答申をしたい。

- 異議なし。

(NHK側)

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、3月の審議会で編成計画についてご説明したい。

<放送番組一般について>

- 1月4日(水)の仕事学のすすめ「唐池恒二 お客様に誠実であれ」は、全4回シリーズで安全とサービスの問題や、交渉術、異業種への参入、九州の魅力発信などを扱っていたが、我々企業人、社会人から見てもいろいろ参考になる、異業種の実態がよくわかって非常によい番組だった。番組の構成も、再現ドラマを入れるなど工夫されていて、わかりやすかった。この番組は、中学生、高校生、大学生、これから就職活動する若者にもぜひ見てもらいたいと思った。また、JR九州というのは鉄道会社でありながら、農業にも力を入れており、目まぐるしく変化する企業の姿がよくわかり非常に興味深かった。
- 沖縄県域で放送された「復帰40年企画 NHKが映した沖縄」について、2月3日(金)の「ドル円切り替えXデー 沖縄復帰秘話」(総合 後10:00~10:50)や、1月20日(金)の「730大作戦~沖縄・交通方法変更~」(総合 後10:00~10:45)は、当時のことを思い出しながら見て、懐かしく感じられた。若い世代に残したい番組だと思った。
- 1月30日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「時代を超えろ、革命を起こせ~デザイナー・石岡瑛子~」は、亡くなった石岡さんをしのんで放送されたものだが、NHKが、こういったすばらしい人に光を当てて報道することは大変意義があると思った。
- 2月1日(水)の歴史秘話ヒストリア「“相棒”はお前だけ~西郷隆盛と山岡鉄舟 明治をつくった熱い絆~」は、2人の知られざる関係が紹介されて大変興味深い番組だった。

- 2月5日(日)のくまもとの風「オレはやめない～熊本・荒尾競馬場廃止 ある騎手の生き様～」(熊本県域 総合 前7:45～8:10)は、荒尾競馬場の80年の歴史を振り返って、「始まったものはいつか終わる」という少しもの寂しいドキュメンタリーだった。しかし、騎手たちが仕事を失い、生活が厳しくなったりする中で、奮闘する若手騎手の姿に感動した。非常によい番組だったと思う。
- 2月5日(日)の日曜美術館「水流は銀箔(ばく)だった～尾形光琳“紅白梅図屏風”に新事実～」の再放送が2月12日(日)にあったが、昨年12月19日(月)に放送された、極上 美の饗宴「黒い水流の謎～尾形光琳“紅白梅図屏風”」を再編集した番組になっていたのではないか。今回の番組を見て、再放送をする意義が感じられた。最初に検証された番組の内容が回を追うごとに精度を高めていく面白さを感じた。
- 2月5日(日)のNHKスペシャル「天空の棚田に生きる～秘境 雲南～」は、NHKらしい、よい番組であった。現代社会に欠けているものを問いかけられているようで、非常によかった。ただ、稲刈りのときも水を張っている理由がはっきりと説明されていなかった点が気になった。また、ハニ族が1300年前にチベットから来たと紹介していたのだが、彼らがどこで稲作を学んだのかについて、番組の中で触れてほしかった。
- 2月6日(月)のあさいち「驚き！がんワクチン治療最前線」は、大変衝撃を受けた。朝いろいろな視聴者が見ている時間帯で放送したことは大変よいと思う。こんなすばらしいワクチンが開発されているということならば、ぜひ特集番組でも取り上げてほしい。
- 2月10日(金)の特報フロンティア「数式“X”が暮らしを変える」は、非常に啓発的な番組で大変勉強になった。
- 2月11日(土)の週刊 ニュース深読み「“恋愛しない”若者たち 大丈夫？ニッポンの未来」は、人材プロデュース会社の社長が出演していたが、“共稼ぎ”という言葉を使っていた。“共働き”の方がふさわしいのではないかと思う。難しいとは思いますが、NHKからも出演者に言葉遣いについて気をつけるように配慮してほしい。

- 2月12日(日)のサキどり↑「“ほめると伸びる”って…どうほめる？」は、教育の世界でも、子育てにも応用でき、また、会社で上司が部下を鍛える上でも参考になり、非常によい番組だった。途中でポイントがいくつか箇条書きで表示されたが、書きとろうと思ったらすぐに消えてしまい残念だった。もう少し長めに画面に出しておいてほしいと思った。
- 2月12日(日)のかごしま大作戦「指宿で“たまたま箱”を探せ！」(九州沖縄地方総合 後 4:56~5:39)は、番組の指令を受けた女性レポーターが、体を張ってレポートしていた。舞台となった指宿に以前行ったことがあったこともあり、興味深く見たり、もう一度行きたいと感じられるとてもよい番組だった。また、“街角探偵”のコーナーも大変よかった。
- 2月14日(火)のさかのぼり日本史「第2回 藤原道長の栄華」を初めて見た。タイトルが地味で、教育番組のような印象だったためなかなか見る機会がなかったが、今回たまたま見たところ「歴史秘話ヒストリア」の短縮版のようで大変興味深かった。もっと魅力的な番組タイトルにしたらいいのではないかと思った。せっかくよい番組なのでもったいないと感じた。
- 2月15日(水)の歴史秘話ヒストリア「“カワイイ”に恋して~中原淳一と“カーネーション”の時代~」では、中原淳一氏が、すてきな女性の生き方を提案して、啓蒙した人だったということを知ることができて感激した。いつもはかなり古い時代を扱うことが多いように感じるが、今回はとても身近でよかった。
- 各局でニュースを制作しているので、どこでもインターネットにアクセスすればNHK各局のニュースが見られるようにしてほしい。韓国ではそれができているので、九州沖縄各局、NHKでも実現してほしい。
- NHKは、よい番組をたくさん制作しているが、番組の宣伝がうまくないと思う。「歌うコンシェルジュ」では、午前10時台に番組のPRをしているが、効果が薄いのではないかと感じる。もっと別のPR方法も考えてほしい。
- 障害者について番組で取り上げる場合には、患者、家族、医師、行政、マスコミや患者団体を含めるなど複合的な観点から、視聴者が生きることの意味を考えられるような丁寧な番組作りを期待している。

- アジアへの番組発信をもっと増やしてほしい。「ASIAN PASSION～アジアを駆ける日本人～」などの番組は九州各局が取り組んでほしい。
- 社会が潜在的に抱える課題、例えば少子高齢化などの課題を九州各局の番組で取り上げてほしい。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局



## 平成24年1月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

1月のNHK九州地方放送番組審議会は、19日（木）、NHK福岡放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、事前に視聴した、特報フロンティア「原発依存～九州電力と自治体、そして巨額マネー～」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、2月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （(株)西日本新聞社監査役）            |
| 委員   | 鈴木 滋人 | （染織作家・重要無形文化財保持者）         |
|      | 竹井 成美 | （宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長） |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 原田 緑  | （(株)七尾製菓代表取締役専務）          |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 古野 隆雄 | （農家）                      |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

<特報フロンティア「原発依存～九州電力と自治体、そして巨額マネー～」

（12月16日（金）総合 後7:30～7:55 福岡局、鹿児島局、佐賀局制作）について>

- 取材が難しかったのだと思うが、もの足りなさを感じた。まだまだこのような原発マネーの問題はたくさんあるのだろうと思った。佐賀県の玄海原発に関しては、ほとんど何も見えてこなかったのではないだろうか。私が今回非常に驚いたのは、九州電力の組合の中にも原発反対派がいたということだ。当初は内部でも問題視されていたのに、いつのまにか原発依存が進んでしまうという、今の日本の原発の在り方を集約したような、非常にリアルな話が出てきてよかったと思う。鹿児島県薩摩川内市の寄付金の問題に少しでも具体的に迫っていったことは、次につながると思う。取材だけでは限界があると思うので、大学の研究施設とタイアップして調査をするなど、いろいろな手法で真実に迫ってほしい。原発問題に関しては、九州管内だけでなく広い視

野で長期の展望を持って取材を続けてほしい。

- 九州電力と自治体との関係が寄付金によって作られているのではないだろうか。また、自治体の交際費の動きについても情報公開制度を利用して、さらに徹底的に調べられるのではないかと感じた。住民の理解を得るための手段として、寄付金を渡すことは当たり前だということだが、番組でも言っているように原発マネーの不透明さが問題なのではないか。迷惑料として寄付金を位置づけるならば、オープンにすべきものだ。オープンになれば、寄付金の支払われるタイミングが不自然なことを外部からも突っ込んでいけると思う。また、原子力に振り回されない構造をいかにして作るか、ということが大事だと感じた。原発マネーをさらにオープンにしていく報道を期待している。
  
- このような非常にデリケートな問題に対して、真正面から取り組んでいることに対して敬意を表したいと思う。九州電力の原発の運転がすべて停止する直前に放送され、非常にタイムリーな企画であった。視聴者が改めて原発について考える1つのきっかけになったのではないかとと思う。自治体が原発や原発マネーに依存しているという面だけでなく、電力会社も原発に依存しているという両方からの側面がきちんと描かれていてよかった。しかし、九州電力が番組の中で公式なコメントをしていないのには違和感があった。「取材を申し入れたが最終的にこういう回答だった」ということは番組内で触れた方がよかったと思う。これだけ大きな額の寄付金が議会の中でどう処理されていたのか、また、今後自治体が原発依存を続けていくのか、あるいは自立の道を模索していくのか展望のようなものも取り上げてほしい。今まで取り上げられた原発マネーというのは、ある意味では地域経済に恩恵を与えるようなお金だと思う。しかし、原発はいずれ廃炉にしなければならない。その費用を地域住民に出させるようなことになれば、今までとは逆の循環が起こるかもしれないので、これも1つのテーマとして取り上げてほしい。
  
- 九州電力と佐賀県玄海町、薩摩川内市、それぞれの自治体が電力とお金の双方で、過度に原発に依存していることが、具体的によくわかった。しかし、出演していた一橋大学の橘川武郎教授の話は、目新しい内容ではないような気がした。自治体と九州電力の関係やお金の問題について具体的に迫ってほしいと思った。今後も継続して取材してほしい。

- 自分たちが使う電力に関して、知っているようで知らなかったことが多かったと認識させられた。原発を受け入れた玄海町、薩摩川内市のそれぞれが、電源三法によって巨額な寄付金を受け取っていたことも想像はしていたが、その金額の多さに驚いた。一橋大学の橘川教授のコメントはわかりやすくよかったが、具体的な改善策をもっと示してほしいかった。九州電力以外の電力会社の取り組みも紹介して、比較できるようにしてもらえると、私たち視聴者ももっとしっかり考えることができたのではないだろうか。
- よい番組だと思ったが、内容がもの足りなかった。原発のない沖縄を除けば、日本全国で共通する問題だと思うので、九州ならではの問題を取り上げるなど、番組に地域性を出してほしいかった。どんな番組を放送しても、原発推進派、脱原発派の両方から意見が来ると思うが、番組制作者の意図があまり見えないからこそ、もの足りなさを感じた。原発推進派、脱原発派のどちらかではなく、アジアなど他の地域や国の取り組みを紹介しながら、改善策を提案してもよかったと思う。また、日本全国に共通する問題だからこそ、本部で集約して北海道から九州まで情報をリンクさせ、各地域放送局が参加して最後に討論するような番組ができればいいと思った。
- 原発は微妙な問題なので、1つ1つ情報を整理し、積み重ねていくようなデータベースを作りたいと思っている。つまり、いろんな取材チームが、いろんなところで取材した内容を集約して今の時点でわかっていることや今後の課題、またその課題を各地で起こったこととすり合わせることで、全体が把握できるようなデータベースを作っていきたい。番組の放送が終わっても、もっと知りたいと思った視聴者がアクセスできるようにすることで、新しいテレビメディアの仕事にもなっていくのではないかと感じている。
- 番組で紹介された内容は、おおよそ予測されていたことが多く、少しもの足りない感じがした。番組の中で、住民の暮らしぶりや住民の声が組み込まれていれば論点がもう少しわかりやすかったのではないかと思う。九州だけの情報ではなく、日本全体で考えていくことが大切だと思った。
- この番組は、九州電力を例にして、電力会社と原発を受け入れる自治体との悪しき関係性を明らかにしていたように感じられた。最初は、九州電力の中にも少数だが原発反対派の社員がいて、原発は新エネルギー開発までの代替案だと認識していたのに、いつの間にか原発依存へと変わってしまったという部分をもっと掘り下げてほし

かった。お金や虚構の豊かさの前に、人間の英知や正義感といったものが折れてしまいうむなしさを感じたので、そのようなアプローチでこの問題を取り上げてよかったと思う。また、原発を受け入れさせた当初の九州電力の社員や受け入れた自治体の職員は、今の状況をどう感じているのかを聞いてほしかった。

- 番組を見て、改めて納得することが多かった。一番大事なものは、今後どうしていくかだと思う。専門家の先生からいろいろと意見を聞き、国民がもっと具体的に議論するような機会が必要だと感じた。そのような意味でも、今後も継続して原発問題取材し、全国の視聴者が考えるための情報が得られるような番組を放送してほしいと思う。
- よく取材されていて、さまざまな交付金・寄付金の情報を関係者への直接インタビューを通して集めたと感心した。今回取材班が、原発の寄付金などを当てにした利権がらみの地方行政の在り方を浮き彫りにしたことは実にすばらしい。原発は、あくまでも新エネルギーシステムが開発されるまでの過渡期の発電手法であるとの基本的な考え方が次第に忘れ去られ、九州電力が原発依存を高めていった背景をよく理解することができた。また、一橋大学の橘川教授の説明も大変わかりやすかったと思う。地域住民の安心・安全よりも九州電力の組織としての利益が優先された結果、やらせメール問題などが起こったということもよくわかった。今後とも問題の深層に迫る番組を期待している。
- 難しいテーマであるにもかかわらず、よく取材された番組であったと思う。原発依存となっている電力会社と自治体の関係がわかりやすくまとめられていた。原発依存体質により巨額マネーが動いていることを問題として取り上げるだけでなく、日本のエネルギー政策をどう改革すれば問題解決が見えてくるのかというところまで、掘り下げてもらいたかった。

(NHK側)

原発をめぐる状況というのは、構造を含めて安全面、お金の部分、社会的制度など、ほとんど知られていない問題が多いと今回取材して感じた。視聴者がオープンな議論ができるように今後も継続して番組を制作したいと思う。

<放送番組一般について>

- 12月11日(日)のE TV特集 シリーズ 大震災発掘第1回「埋もれた警告」は、今回の震災の被害を少なくすることができたであろう研究者の警告が、どうして消されていったのかを丁寧に検証した番組だった。震災被害は経済至上主義が生んだ人災だったということに改めて気付かされたことは有意義なものだったが、研究者たちが強く後悔する様子を見るにつけ、報道する側も研究者と同じような思いを持って取り組んでもらいたいと強く思った。
- 12月26日(月)のきょうの料理×きょうの健康スペシャルコラボ「豪華おせちで健康祈願！」(Eテレ 後9:00~9:54)は、時間のない人や初めておせちを作ってみようとする人には参考になると思った。来年はぜひ、カロリーや塩分制限をしている人向けの簡単なおせちの紹介をしてほしい。
- 12月31日(土)の「第62回NHK紅白歌合戦」(総合後7:15~11:45)と1月1日(日)の「ウィーン・フィル ニューイヤーコンサート2012」(Eテレ 後7:00~9:55)は、新しい年を迎える気持ちを盛り上げてくれてありがたい。
- 1月1日(日)のNHKスペシャル「目指せ!ニッポン復活」や1月13日(金)に再放送のNHKスペシャル プロジェクトJAPAN 最終章「日本復興のために」は、素晴らしい提言番組だった。とくに「プロジェクトJAPAN」は、災害があったときに過去の成功例から復興させるという提言が非常によかった。
- 1月4日(水)の「ワールドWave トゥナイト 2012年 世界はどう動く」(BS1 後10:00~10:45)はタレントの力を借りずに、久しぶりにNHKの底力を見たような感じがした。このような番組をどんどん制作してほしい。
- 1月4日(水)のハイビジョン特集 につぼん 微笑みの国の物語「時代を江戸に巻き戻せば」(BSプレミアム 後10:30~11:59)は、江戸の職人技のすばらしさと美意識の高さを改めて感じ、誇らしく思えた。また、1月5日(木)のハイビジョン特集 につぼん 微笑みの国の物語「海の向こうに遺(のこ)された江戸」(BSプレミアム 後10:30~11:59)で、民具の収集にあたり、モースが「この国のあらゆるものは日ならずして消え失せてしまうであろう」と語った言葉がキーワードとなっていて、心に残る作品

だったと思う。

- 1月5日(木)の「親子でナットク イチから、Q！」(総合 後7:30~8:43)は「週刊こどもニュース」の特集版のようで、図解や模型、CGを使っていてわかりやすく、非常によい番組だった。残念ながら「週刊こどもニュース」は終わってしまったが、このような特集番組の形で今後も放送してほしい。また、「週刊ブックレビュー」は、新聞によると今年の3月で終了するという事なのだが、前回「中学生日記」についても指摘したとおり、いろんな視聴者が番組を見ているので、特に人気のある長寿番組については、NHKとして放送終了に至った経緯を視聴者にきちんと説明すべきではないかと思った。

(NHK側)

「親子でナットク イチから、Q！」は、「週刊こどもニュース」のスタッフが制作した番組だ。今後も、年に何回かまとめて、このような親子で楽しめるニュース番組を放送していきたい。「中学生日記」は、ずっとドラマの手法で放送してきたが、制作者側もどうしても発想が硬直化してくるので、ドラマという手法にこだわらずに考えてみたいと思っている。「週刊ブックレビュー」についても、番組終了を受けて多くの視聴者から信頼を得ていたのだと改めて感じた。要望が多ければ、また制作することもあると思う。

- 1月11日(水)のあさイチ「女のカネ 今こそ知りたい“医療保険”」で「女のカネ」という表現が気になった。「女性と保険」などの表現に変えてほしい。
- 1月11日(水)のひるブラ「あっぱれ！庭園で肥後の殿様気分～熊本市水前寺～」はお茶の間にいながらにして観光地気分を楽しめた。また生中継なので、臨場感が伝わってきたような気がする。水前寺公園は聞き慣れた観光スポットであり、これまでは特別な場所という気がしなかったが、丁寧な取材で紹介されると、新鮮な発見があって改めて興味がわいた。また、東海道五十三次を模した庭園やわき水の池の紹介を聞くと、しっかりしたコンセプトに基づくものは時代を超えて輝き続けるという思いを新たにすることができた。男性アナウンサーの進行もスムーズで、ゲストの夏川純さんの話もリズムがよく、よい番組であったと思う。ただ、スタジオの野間口徹さんは最後まで現場の空気感に入り込めずにいたように感じた。水前寺公園に限らず、公園の緑と水の色を楽しむにはやはり、緑の芽吹く季節の方がその魅力を最大に堪能

できる気がするので、そのころにまたこのような公園の紹介してもらいたい。

- 最近「あさいち」を見る機会が多いのだが、いつも明るい話題で、日本全国に元気を与えていると思っていた。しかし、1月12日(木)のあさいち「見過ごすな!“過去”からの津波の警告」を見て、このような少し硬い話題もやるのだと驚いた。今から2000年前までの地層を調べて400年前の地震のことがわかるなど、NHKがそこまでわかるのであれば行政にもぜひ情報を知ってもらい、防災の見直しを考えてほしいと思った。
- 1月13日(金)の「NEWS WEB 24」(総合 前0:00~0:25)という番組についてである。まだ模索段階なのだろうが、間違いなくネット誘導力の強化をねらった番組だと感じた。新聞や雑誌ではできない、NHKならではの番組だと思う。ただ、視聴者への一方的な講義形式なので、視聴者との会話形式に変えてもらいたい。NHKは情報提供者、分析者ではなく、案内役になるべきだと思う。ソーシャルメディアもうまく取り込んでほしい。今後に期待している。

(NHK側)

「NEWS WEB 24」は、全国から提案して、記者やディレクターがチームを作って立ち上げた番組だ。深夜0時という遅い時間だが、この時間は少し肩の力を抜いて、いろいろ実験ができると思ったので、あえてこの時間に編成した。インターネットと共存していい番組になっていけばと思っている。

- 1月13日(金)の特報フロンティア「迷惑かけずに逝きたい～急増する“遺品整理”予約～」は、人生の最期を安心して送るために、また遺品がごみにならないように財団に生前から遺品整理を頼むという話だった。ただし、法的に整備されているわけではないので、公的なシステムが構築されればよいが、財団がそれを請け負うということにはまだまだ問題が多いと思った。
- 特報フロンティア「迷惑かけずに逝きたい～急増する“遺品整理”予約～」は、核家族化が進み、ひとりで老後を過ごす人たちの最期の憂いの解決だと思った。実際、遺品を捨てることは心情的にも、物理的にも難しいものがあると思うので、この番組を見て家族と暮らしていても生前に決めておくことは悪くないと思った。昔は、遺品

分けなどもできただろうが、今は心や人とのかかわり方、環境や社会情勢も変わり何かがゆがんでしまったようにも感じる。深くいろいろなことを考えさせられる番組だった。

- 1月14日(土)のなが☆スペ でんでらフライデー 女子会スペシャル「知ってた？長崎のオンナの子」(総合 前10:05~10:53 九州沖縄地方)では、独身女性652人に結婚や理想の男性像についてアンケートを行い、分析していた。その中で、結婚相手の男性に求める収入は、40%の女性が400万円以上、さらに40%の女性が600万円以上であると取り上げられていた。つまり80%位の女性が、男性に経済的な枠をはめて婚活をする、というような先入観を持たせてしまった番組だったと思う。このような取り上げ方をするのであれば、女性は経済的に自立しているのかということもデータで示してもらいたかった。また、男性へのアンケートでは、さまざまなファッションで登場した女性に順位をつけるものがあり、女性を商品化しているように感じられた。自分の好みのファッションを選ぼうというような構成ならもっとよい番組になったと思う。
- 1月14日(土)の「NHK海外ネットワーク」という番組の中で、沖縄そばがブラジルで普及している様子が紹介された。もともとは日本から移民した人たちが食べていたが、ブラジルの庶民の食べ物としても定着したそうだ。出演者の紺野美沙子さんが言っていたように、沖縄そばがブラジルに定着するまでの様子を、成功物語としてドラマ化してもよいのではないかと思った。
- 1月15日(日)の「NHKとっておきサンデー」では、NHKスペシャル「原発事故 謎は解明されたのか」(12月27日放送)を放送していた。丁寧な解説で、とてもわかりやすかった。人間は都合の悪いことは考えない傾向があるので、問題の根底にあったのは組織事故ではないかと指摘されていたのが印象的だった。
- 1月15日(日)のエル・ムンド ウィンタースペシャル「世界のトップシェフが大地に挑んだ4日間~COOK IT RAW in 石川~」(BS1 後3:00~3:49)は、「COOK IT RAW」が、食を通して自然を考えるイベントであったので関心を持って見た。世界のトップシェフが石川県に集まって、山里の食材で純粋に料理を楽しむところがよかった。知識はインターネットでも得られるが、映像の美しさや料理を食べている人が喜ぶ表情などはテレビの方がはるかに伝わるというこ



とを実感した。

- 1月15日(日)のNHKスペシャル シリーズ 原発危機「知られざる放射能汚染～海からの緊急報告～」は、こういう番組をつくってほしかったのだと言える素晴らしい内容だった。人間が起こした原発事故により、魚が汚染され、それをえさとして食べている動物の命が脅かされるといった問題にやるせなさを感じた。今回のような番組を通して、原発の問題については何度も考えを深めていかなくてはいけないと思った。
- NHKスペシャル シリーズ 原発危機「知られざる放射能汚染～海からの緊急報告～」の中で、京都大学で行ったシミュレーションによると2年2か月後に東京湾が最も汚染されるのではないかと言っていた。このような話を聞くと、常に長期的な展望で考えていかなければならないと思った。
- 1月16日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「子どもを鍛える、母の給食管理栄養士・佐々木十美」は、本来の味にこだわる日本一の給食というテーマで、久しぶりに自然体でいい番組だったと思う。佐々木さんは、材料費の上限がある中でも、北海道の旬の食材を使って手間暇かけて、子どもたちの味覚、感覚を形成し、大人になっても思い出すような給食をつくりたいと言っていて、とても素晴らしいと思った。プロフェッショナルとは「信念を持って、自分にできる範囲内の最大のことをすること」だと言われていたが、これは管理栄養士でなくてもすべての人に響く言葉に感じられた。
- 1月17日(火)のクローズアップ現代「子どもが語る大震災(2)ぼくらは大津波を生きた」も提言番組という位置づけになると思う。NHKの提言番組は、視聴者にとっても感動的に映るのだが、その後当事者や視聴者にどんな波及効果があるのかをぜひ追跡調査してもらいたい。
- 沖縄放送局のニュース番組で、本土復帰40年を記念して、沖縄で活躍している女性たちを取り上げて紹介している。沖縄は女性が非常に活躍している地域でもあるので、とてもよい企画だと思った。
- 九州沖縄地方向けの「NHKニュース おはよう日本」で年明けに放送された「今年にかける」というコーナーは、各地域放送局が参加していて大変おもしろい。どん

どんチャレンジして地域性を出した番組にしてほしい。

- 「NHKニュース おはよう日本」の女性アナウンサーについてである。「まちかど情報室」のコーナーなどで日常会話のような少しくだけた話し方を導入していて非常に身近に感じられる。ニュースを視聴者にとって身近な存在にしたいという努力が感じられて評価できる。
- 1月1日(日)付けの新聞に“視聴率”と“視聴質”という興味深い記事が出ていた。NHKには視聴率に左右されることなく質の高い番組を制作してほしいと思う。
- 小学校も外国語教育があったり、中学校の教科書が変わったり、武道が必修化したり、今、教育分野は注意深く見守る時期なので、ぜひ長期的に取材をお願いしたい。

(NHK側)

みなさんがおっしゃるようにNHKらしい番組を今後も制作していきたい。ここ数年いろいろと実験的な番組を制作してきたが、それを踏まえたうえで、もう一度原点に戻ってしっかりやっていきたいと思う。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成23年12月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

12月のNHK九州地方放送番組審議会は、15日（木）、NHK福岡放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、事前に視聴した、福岡発地域ドラマ「NHK北九州放送局開局80周年記念—オヤジバトル!」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、1月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                     |
|------|-------|---------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）        |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （（株）西日本新聞社監査役）      |
| 委員   | 下竹原啓高 | （（株）指宿白水館代表取締役社長）   |
|      | 鈴田 滋人 | （染織作家・重要無形文化財保持者）   |
|      | 田中丸弘子 | （（株）佐世保玉屋代表取締役社長）   |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長） |
|      | 原田 緑  | （（株）七尾製菓代表取締役専務）    |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）   |
|      | 古野 隆雄 | （農家）                |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）  |

### （主な発言）

#### <放送番組一般について>

- 11月19日（土）、26日（土）に放送された、土曜ドラマスペシャル「蝶々さん～最後の武士の娘～」（総合 後9:00～10:13）は、関心を持って視聴した。原作はテーマも多く中身の濃い作品だが、2回のドラマに凝縮されており見応えがあった。市川森一さんの脚本と、主演の宮崎あおいさんの演技がともにすばらしく、新しい蝶々さん像を作ってくれた気がした。
- 土曜ドラマスペシャル「蝶々さん～最後の武士の娘～」について、脚本の市川さんが、今の日本人がもっと誇りを持って生きるようにメッセージを残したように感じた。オペラでは悲劇のイメージが強いが、今回のドラマでは、人として守るべきものを守

り通したうえで、誇りを持って自ら死を選んだことがしっかりと表現されていたと思う。非常に感動的なドラマだった。主演の宮崎さんの演技もすばらしく、展開もスピード感がありどんどん引き込まれた。今後も、誇りを持って日本のドラマだと言えるような作品を制作してほしいと思う。

- 11月21日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「不屈の課長、情熱を力に～商社マン・片野裕～」や、11月28日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「突き詰めた先に、美は生まれる～数奇屋大工・齋藤光義～」は、目立たない世界でしっかりと地道に頑張っている人たちに光を当てていて、自分自身も刺激を受けた。大変よい番組だったと思う。
- 11月21日(月)のシリーズ 辛亥革命100年「第1回 孫文 革命を支えた日本人」(BSプレミアム 後10:00～11:30)はとてもすばらしかった。放っておいたら埋もれてしまうような歴史の事実が、非常に綿密な取材で掘り起こされており、大変驚いた。
- 11月24日(木)の「ニュースウオッチ9」で、日米地位協定の見直しについて、キャスターが「沖縄にとっては、不公平感が強い」という表現をしたのが気になった。これは「沖縄にとって」ではなく「日本にとって」であるべきだと思う。沖縄県民にとっては、ちょっとした一言が、非常に傷つくような言葉に感じることもあるので報道のしかたには気をつけてほしい。

(NHK側)

アナウンサー、キャスターの言葉遣いや表現についてはこれまでも注意しているが、視聴者が受ける印象にも配慮して引き続き気をつけていきたい。

- 11月25日(金)のきん☆すた「いちおし食材・料理一本勝負 いりこ編」は、いりこについてバラエティーに富んだ内容になっており、よかった。調理法なども紹介されてとても勉強になった。
- 11月25日(金)のなが☆スペ でんでらフライデー 女子会スペシャル「知ってた？長崎のオンナの子」(総合 後 7:55～8:43 長崎県地方)は、長崎の独身女性の本音が見えて、大変興味深い番組であったと思う。事前のアンケート調査がよくできて

いて、公開番組の中での調査データの表示のタイミングもよかった。街中でのヒアリングの様子映像もあり、しっかり取材されていた。番組の中で覆面座談会の映像があったが、率直な意見を撮影するためとは言え、もう少しスマートな表現方法はなかったのかと感じた。司会の山本美穂さんは元気で明るく大変好感が持てた。

- 11月25日(金)のNHK大分放送局開局70年記念ドラマ「無垢の島」(総合 後7:30~8:43 大分県地方)は、少年と村人との心が通い合うという、一見地味なドラマだが、テンポが非常にゆったりしていて、見終わるとほっと心が温まるようないいドラマだった。ぜひ全国放送してほしいと思う。
- 11月27日(日)のNHKスペシャル シリーズ 原発危機「安全神話～当事者が語る事故の深層～」(総合 後10:00~10:49)は、150人にも及ぶ関係者の証言に基づいて原発の問題点を深く掘り下げた番組であったが、責任逃れとともとれるような証言が続き驚いた。最後に取材デスクが、「原発の“安全神話”を追及してこなかったメディアにも責任があるのではないか」と言っていたのが印象的だった。今後につながる記録として、こういった番組を引き続き放送してほしいと思う。
- 11月27日(日)のETV特集「海のホットスポットを追う」は、NHKらしい、いい番組だったと思う。福島第一原発の放射性物質による汚染は、陸上で除染をして水などで洗い流しているが、その洗った水は海へ流れているので、海の中は深刻な状況となっている。私たち人間が被ばくするのと同じように自然界の生き物全部が被ばくするので、この番組のようにもっと広い視点で考えていく必要があると思った。これと関連して最近気になることがある。それは身近な、スズメなどの生き物が少なくなっていることだ。NHKでもぜひ全国で取材をして、自然界に異変が起きていないか検証する番組を放送してほしい。
- 11月30日(水)のたけしアート☆ビート「高橋智隆」では、高橋さんが一つ一つ細部にこだわりロボットを一人で制作することに驚いた。彼が特任准教授を務める東京大学先端科学技術研究センターの紹介もあり、ふだん知り得ないことを教えてくれるので、大変勉強になった。また、ビートたけしさんの起用も非常によい。
- 12月3日(土)の課外授業 ようこそ先輩「花を贈る・本気を届ける～ランドスケープアーティスト石原和幸～」は、花束をラッピングし、自分の思いを伝えるとい

う授業だった。誰に対して、何の花で、どんな理由で、どんなタイミングで渡すのか、子どもたちが奮闘する様子が描かれていた。子どもたちそれぞれの心模様が描かれ興味深く見た。この番組で、是非担任の教師も子どもと一緒に授業を受ける姿を描いてほしいと思う。そして教育者として何を学び、子どもたちは授業の前後でどのように変わったのか伝えてほしいと思った。

- 12月4日(日)からスペシャルドラマ「坂の上の雲」(総合 後7:30~8:59)の第3部が始まった。物語も佳境に入り、旅順攻防や二〇三高地の戦いの場面では胸に迫るものがある、このようなドラマはNHKにしか作れないと思った。ぜひ今後も、数年にわたってじっくり見ることができる番組を制作してほしい。
- 12月6日(火)の旅のチカラ「64歳シェフ修行 栗原はるみ イギリス・ロンドン」では、栗原さんが通訳を介さず、ロンドンで修行をするために、数年間かけて電話で英会話力を磨いていた。彼女の生き方がかいま見えてとてもよかった。
- 12月9日(金)の「中学生日記」を視聴した。番組が2012年3月で終了すると聞き、久しぶりに見たがいろいろと考えさせられた。この番組の一番のポイントは、一般の子どもたちが演じているところにあると思う。番組を終了する理由として、肝心の中学生が見なくなってしまい放送を続ける意義が薄れたということ挙げているが、番組の視聴層は中学生以外にもいるのではないか。例えば中学生を孫に持つお年寄りや、同世代の子どもがいる親は番組を見ることで孫や子どもの学校での生活を疑似体験できるといった側面もあったと思う。長寿番組をいつまでも続けるのは大変だとは思いますが、新しい番組についてもこうした理念は大事にしてほしい。

(NHK側)

「中学生日記」については、長期間放送してきたが、一度見直すことにした。ご指摘のような理念はこれからの番組においても引きついでいきたい。

- 12月11日(日)のドキュメント20min. (再)「神を操り 神を継ぐ」(総合前 7:45~8:05 九州沖縄地方)は、大分県中津市伊藤田地区に1300年受け継がれている「人形芝居」を伝承する男たちの奮闘ぶりを描いた番組だった。人形遣いと囃子方のそれぞれの練習場面には、希薄な人間関係にある都会人には実にまぶしい人間模

様が描かれており、そんな大人の人間模様の中で、伝承の輪に自ら加わり、横笛に挑戦する中学生の男子生徒の姿に、教育に携わるものとして考えさせられるものがあった。子どもの身近に、いつも模範となる大人が存在し、子どもはその大人の背中を見て学ぶことが、今の教育には必要なことを痛感した。傀儡（くぐつ）の舞と神相撲の場面での20分にも及ぶ、地区の男総出のこっけいな相撲風景もほほえましかった。実際に、見てみたいと心から思った。

- 12月12日(月)の「ニュースただいま佐賀」では、玄海原発の問題やサガン鳥栖のJ1昇格、青春応援団のコーナーなど内容が充実しておりよかった。また、佐賀放送局開局70周年の関連で、2012年3月には記念ドラマも放送予定なので、地域を盛り上げてくれるのではないかと期待している。
- 12月14日(水)のクローズアップ現代「やさしい虐待～よい子の破綻の陰で～」は、子どもによかれと思って過剰なしつけをしたり、がんじがらめのスケジュールを決めたりする親の姿勢が虐待になってしまうということが衝撃的だった。東海学院大学の長谷川博一教授と作家の重松清さんがゲストとして登場したが、もう少し現場で実践してきたゲストに出演してほしいと思った。今は子どもを育てにくい時代だと思うので、子育てを楽しめるような番組も放送してほしい。
- 12月15日(水)のあさイチ「続・食卓まるごと調査」は、放射能の食卓まるごと調査の続編で、以前放送した数値が誤りであったことを詳しく解説していたのがよかった。番組の途中でファックス、メールなどの視聴者の声を紹介するのもとてもよい。
- 指摘したいことが4つある。1つは、インターネット上で動画が簡単に見られる時代において、テレビ番組は、インターネットを含めたさまざまなコンテンツの1つに過ぎなくなるかもしれないということだ。だとすれば、NHKも早く公共放送というよりも、“公共メディア”になる必要があるのではないか。2つめに、総合テレビ、Eテレ、BS1、BSプレミアムそれぞれの波の呼称に一貫性、統合性のあるNHKとしてのブランド戦略はあるのだろうか、という疑問を持っている。3つめは各波のありかたについてだ。BSプレミアムが本物志向の教養・娯楽波という説明が以前あったが、総合テレビでも、Eテレでも、BS1でも、あるいは東京でも、地方局でも、すべて本物を放送しているはずなので、ぜひその点は考慮してほしいと思う。最

後に、九州の各放送局はアジアに近い放送局なので、アジアに向けて九州の情報を発信できるような放送をお願いしたい。

(NHK側)

放送コンテンツを大切にしながら、インターネットサービスなどへの取り組みを充実させていきたい。また、それぞれの波については、もっと視聴者のみなさんにわかりやすい特徴を出していきたいと思う。

- 「MEGAQUAKE 巨大地震」という本を読んだのだが、昨年「NHKスペシャル」の4回シリーズで放送されたものをもとにした本だった。その本によれば、「NHKスペシャル」では昨年、巨大地震が三陸地方を襲う可能性があることを示唆していたらしい。この番組のことをもっと多くの人に知ってほしかったと思った。人は忘れてしまう生き物なので、NHKではこういった番組を記録として残し、NHKにしかできない放送を期待している。

(NHK側)

災害や原発の問題については、引き続きしっかり取材をしていく。また、こういった記録を後世にきちんとした形で残して、国民の安心・安全につながる情報を放送していきたい。

<福岡発地域ドラマ「オヤジバトル！」

(12月9日(金)総合 後7:32~8:45 福岡局制作) について>

- 再婚、親子関係、夫婦、仕事、病気などさまざまな再生がテーマとなっており、最初は盛り込み過ぎではないかとも思ったが、最終的には展開がよく、安心して見ることができた。また、北九州市若松区のエコタウンの役割や作業を、小学生の社会科見学の場面で紹介したことも好感が持てた。エンディングで、トロフィーの文字がよく見えなかったのだが、「ベストオヤジ賞」を受賞したことがはっきりとわかった方がもっと効果的だったのではないかと思う。出演者たちは、北九州の方言もとても上手に話していたと思う。最近のドラマは、今の社会情勢もあるので、考えさせるものとか、絆や生き方を取り上げたもの、涙と感動のあふれるものが多いように感じるが、今必要とされているのは「オヤジバトル！」のような身近に元気を感じさせてくれるものではないかこの番組を見て思った。



- 最初に結婚式のシーンから始まったので、ひきつけられた。カメラアングルがよく、洞海湾の風景、渡船場など若松らしい風景が、ドラマの中で効果的に使われていたと思う。主人公夫婦が悲嘆にくれて、お酒を飲みながら話す場面があるのだが、見ている方もしんみり考えさせられ、夫婦が絆を確かめ合う感じがしてとてもよかった。
- このドラマは音楽ドラマなので、どういう音楽を使うかというのは、非常に重要な要素だと思うが、ブルーハーツの曲が非常によくきまっていた。キャスティングや、羽原大介さんの脚本もよく、音楽・出演者・脚本の三拍子がそろった時点で、このドラマは成功していると思った。随所に北九州の工場の映像が出てきていたが、風景の使い方が非常にうまかった。最後に、子どもたちの社会科見学の案内役の女性が、「北九州市というのは使えなくなった物を再生させる町です。一度だめになった物を捨てない町なんですよ」と紹介するが、家族や人生の再生などをテーマとする中で、ペットボトルを効果的に使っているのだとわかり、終わり方もよかった。
- この番組は北九州放送局開局80周年記念として制作されたということだが、それにふさわしい気合いの入った番組だったと思う。いろいろな困難が出てくるが、それをどう乗り越えるかということ、まるで主人公たちの知り合いみたいな気持ちで見ることができた。印象的だったのは、「鉄やペットボトルでも再生できるのだから、自分たちの人生もリサイクルできる」という言葉だ。また、ブルーハーツの曲も番組に合っていてよかった。北九州の若松の人たちを含めて多くの人たちが、過去と現在、そして自分の人生と重ね合わせて、感動したと思う。ぜひ全国放送してほしい。
- 家族ドラマでもあり、景気低迷する地域を描いたものでもあり、今の社会状況が感じられる作品であったと思う。タイトルだけ見るとかなりテンポのいい展開を予想したが、見始めるとかなり深刻な話が重なったので、少し辛抱強くみるシーンもあった。しかし、ところどころに、吹き出すようなシーンもあり楽しく見ることもできた。一方で視聴者の意識を家庭問題や社会問題へと向けさせるような場面もきちんと表現されていたと思う。北九州市の魅力も十分伝わったのではないかな。エンディングのスナップ写真の映像で、「おやじが元気になれば 家族が元気になる 日本が元気になる！」というような演出がよかった。
- 北九州市の美しい風景が背景として効果的にいかされていたので、地域発ドラマの趣旨がよくとらえられていたと思う。登場人物がそれぞれ個性的で魅力があり、見て

いてさわやかな気持ちになった。いい番組なので、若い世代の人たちにも見てほしいと思った。

- 音楽ドラマということでテンポよく見られると思っていたが、前半30分位は後半につながっていくとは言え、非常に重いテーマが続きドラマの展開が遅い印象だった。しかし、ペットボトル工場でボタンがなくなってから一気に緊張感が増して、引き込まれて見ることができた。ペットボトル再生工場に象徴されるような北九州の地域性や、再生というテーマが全ての出来事につながっていて非常によかったと思う。全体としては、展開がストレートで、先の展開がよめる場面もあったが、地域ドラマのおもしろさを見せてもらったような気がした。

(NHK側)

ドラマの展開がストレート過ぎる、といったご指摘はあるかと思うが、そのストレートさが脚本家・羽原さんのよさではないかと考えたので、その構成を生かして番組を作った。

- 若松と言われてもどこにあるのかわからなかったのが、「大河ドラマ」のように、最後に若松を紹介するようなコーナーがあったらよかったと思う。この番組は、福岡局が大切に育ててきた「熱血！オヤジバトル」という番組をうまく生かしていると思う。演奏も単なるうまさを競うだけでなく、普通のコンテストとは一線を画して審査し、サポートしている家族や友人、あるいは地域のつながりに焦点をあてているところに好感が持てた。このドラマの真の主人公は若松とエキストラの人たちではないかと感じた。ドラマだけでなく、エキストラの人たちに焦点をあてた番組を放送してもおもしろかったと思う。
- 自分に重ね合わせて見ることができた。主人公が「東京にいるときより、生きている感じがする。帰ってきてよかった」と言っていた言葉が印象的だった。主人公たちが、ふるさとのよさや昔の仲間との絆を感じて、問題を抱えながらもバンド活動をしている姿が非常にすばらしかった。73分という短い時間でコンパクトにまとまっていたと思う。ぜひ全国放送してほしい。
- ドラマの大半がスローテンポであり、いろんな問題が盛り込まれていてやや重苦しく感じた。しかし、最後に盛り上がって一気にすべてが解決していくので、先の展開

がわかっているにもかかわらず、大変楽しめる、インパクトのあるドラマだったと思う。ぜひ全国放送して、北九州市若松区から全国に元気を届けてほしいと思った。

- 俳優と子役が熱演しており、「再生の街」をテーマにした地域ドラマをほほえましく見た。しかし、結論が想像できる、一世代前のドラマにありがちな筋書きであり、現代の社会状況や家庭環境を一応反映したものとは言え、違和感を覚えたのも事実だ。現代社会の中で居場所のなくなった男たちが、オヤジバトルにしか生き甲斐を見出せない悲哀を描くようなドラマにしてもよかったのではないかと思った。ストーリーが“ハッピーエンド”すぎるような気がした。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成23年11月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

11月のNHK九州地方放送番組審議会は、17日（木）、NHK福岡放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、事前に視聴した、にっぽん紀行「50歳の運動会～鹿児島 阿久根～」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、12月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （（株）西日本新聞社監査役）            |
| 委員   | 下竹原啓高 | （（株）指宿白水館代表取締役社長）         |
|      | 竹井 成美 | （宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長） |
|      | 田中丸弘子 | （（株）佐世保玉屋代表取締役社長）         |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 古野 隆雄 | （農家）                      |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

<にっぽん紀行「50歳の運動会～鹿児島 阿久根～」

（10月25日（火）総合 後7:32～7:57 鹿児島局制作）について>

- “華の50歳組”という行事が60年も続く伝統行事であるということに感激した。今まで何度も番組で取り上げられたということだが、私は今回初めて知ったので、この行事の歴史も知りたいと思った。佐潟利昭さんを主人公とした人間ドラマのような構成になっていたと思う。登場人物が、学校内で喫煙している場面が少し気になった。しかし全体的には、見終わって気持ちのいい番組だった。
- 阿久根の稲田や港、海岸の風景などがスポット的に番組で取り上げられており、映像が非常にきれいだった。60年以上続いている、“華の50歳組”がなぜ始まったのか、番組内で触れてほしかった。恐らく年によっては、同級生のつながりが濃密な世代と、そうではない世代があり、60年も続けるのは大変だったと想像できるので、これだけ長期にわたって行事を続けられた秘けつが知りたいと思った。佐潟さんをは

じめ、それぞれの50年間の人生をしのばせるようなエピソードが随所にあり、長い生活の片りんみたいなものがうかがえてよかった。漁師町の気風なのか、相当荒っぽい言葉でやりとりをしている場面があったが、その日常的なやりとりの中に、むしろ絆の強さのようなものを感じた。25分という短い番組だったが、ふるさと阿久根のエッセンスが凝縮されていたと思う。単なる“ふるさと紀行物”ではなく、そこに暮らす人たちのふるさとへの思いがにじみ出ていたように感じた。非常によい番組だった。

- 2人の子どもを抱えながら、佐潟さんを中心に地域に根ざしたイベントに対する人間模様が描かれており、番組を見てほほえましく思った。阿久根の方言が、何十年もの時を経て再会する友人たちを見事に結びつけているように感じられ、見ていてほっとした。今50歳というと、ちょうど“新人類”と呼ばれた最初の人たちだと思うので、過去の世代と比較して描くような構成があってもよかったと思う。また、教育的な立場から言えば、少子化や過疎化により学校の統廃合が進む中で、学校が本来の地域のコミュニティーセンターとしての役割を果たしていると思う。その一つの象徴として“華の50歳組”が続いているのではないか。今後このイベントがいつまで続くのか、知りたいと思った。
- 人口わずか2万3千人余りの小さな町で、“華の50歳組”という行事がずっと続いているということに驚いた。運動会に参加できない友人が、帰りたくても仕事を休めないことを電話で語っている場面では、切実な問題を抱えている人がたくさんいることを感じた。番組では、2人の子どもを1人で育てた佐潟さんの人生が描かれており、非常に頼もしく感じられた。構成もうまくできていたと思う。
- 高橋克実さんの語りがよかった。佐潟さんがありのままの生活風景をオープンに出していたことには驚いた。漁師町のざっくばらんな、きっぷのよさのようなものを感じた。夕日の映像や、海辺で子どもが遊ぶシルエットの映像がとてもきれいで良かった。阿久根駅での別れの場面で、佐潟さんが、列車が発車してすぐにきびすを返したのが、意外だった。この場面で絆の深さを表現しているとなれば、少しもの足りなさを感じた。また、学校での喫煙の場面も気になった。阿久根の方言が聞き取りにくかったが、画面下に字幕が出ていたので内容がわかってよかった。
- 「50歳の運動会」というタイトルだけで想像がかきたてられ、心ひかれた。この番組での“運動会”は、“同窓会”という意味合いの方が強いと感じた。佐潟さんた

ちの再会を通して、自分自身が同窓会に参加しているような気持ちで番組を見ることができ、非常によい番組だったと思う。多くの人が自分の人生と重ね合わせて見ることができたのではないか。「そのうちいいことあると思ったけど、あんまりない」「幸せだよ。今日はおまえに会えて。おやじを守れよ」といった言葉がとても印象的だった。この番組は、故郷に錦を飾るような人ではなく、より身近な人を取り上げることで、見た人に「これでいいんだ」と言う安ど感を感じさせるいい番組だったと思う。取り上げたのが男性ばかりだったので、女性も取り上げればもっと重層的な番組になったかもしれない。

- このような行事が60年も続いているのは、大変珍しいことだと思う。佐潟さんが、「そのうちいいことあるかと思ったけど、あんまりない。毎日きついけど、そんな風に言っている場合ではない」と発言する場面があるが、多くの人たちが感じていることなのではないかと思って見ていた。彼の友人が、海をじっと見つめながら、「自分も漁師になっておけばよかった」とつぶやいて、ため息をつく場面が印象的だった。声を掛けても、仕事に追われて帰郷できない友人が紹介されていたが、残念そうな電話の会話からは、ふるさとを見捨てないでほしいというような切ない願いにも感じられるものがあったと思う。もの寂しい場面もあったが、番組全体としては暗い感じにならなくてよかった。
  
- 番組タイトルから視聴者は、“感動的な再会”や“ふるさとのよさを再認識する”といった内容を期待する。しかし冒頭から“山あり、谷ありの50年”というテロップが流れ、「そのうちよいことがあるかと思ったが、何もない」と佐潟さんが発言し、“50歳の運動会”が単なる卒業生の親睦の機会ではないと通告しているように感じた。そして番組の3分の2ほどたっても運動会の場面が一向に始まらないのは不思議だった。制作者の意図があるのかとも思った。また、なぜ同級生の中から、あの3名を取り上げたのか考えさせる構成になっていたと思う。最後の場面では、佐潟さんが“仲間”という言葉は何度も口にするが、改めて強調することで、番組のメッセージ性を高めていったのだと思う。ただ、“華の50歳組”は阿久根市全体の学校で行うのか、卒業生の何名が参加したのかなど、この番組には数字が一切出てこないのもその点は疑問に思った。また、阿久根という地域のテーマを、日本全体の共通テーマへと広がりを持たせるのであれば、ふるさとや仲間だけではない、何か別の仕掛けがほしかった。

- 大変ほのぼのとした番組だと思った。今回、舞台となった阿久根のように、都会に出ていく人、ふるさとに残る人がいる中で、ふるさとを思う気持ちというのは皆同じなのだと改めて感じた。映像も美しく大変温かみのあるよい番組だったと思う。

(NHK側)

短い番組なので、結果的に情報が足りないところがあったように思う。学校での喫煙の場面は、判断に迷ったが、昔は学校というのは、町の人気が気軽に入れるところで、悪気なく喫煙することもあったのではないかという思いから、残すという判断をした。また、佐潟さんが阿久根駅で列車が発車するとすぐに帰った場面については、恐らく彼が、カメラの前で泣くところを見られたくないからではないかと思っている。

(NHK側)

今回いろいろな50歳の方を取材してみると、一筋縄ではいかない人生を抱えた方も多かった。しかし、“普通”の暮らしをしている阿久根の人たちにスポットを当てて、濃密だった人間関係を確認することにより、他の地方都市に暮らす50歳の方たちもそうであるように、「よくも悪くも一生懸命生きてきたけれど、これでまた頑張ればいいのだ」という気持ちになってもらえるような番組を制作できたと思う。少しでもそのように感じてもらえたのが非常にうれしかった。

<放送番組一般について>

- 10月23日(日)のNHKスペシャル「“中国人ボス”がやってきた～密着 レナウンの400日～」は、日本と中国の経済が逆転してしまった現実をよく表現していたと思う。日本企業の危機感が伝わってきて、非常に考えさせられる番組であった。
- 10月26日(水)の歴史秘話ヒストリア「女王さま振り向いて！～最新研究！邪馬台国・卑弥呼のヒミツ～」では、いろいろな研究結果が羅列され過ぎて、素人からするとどれが有力なのか判断がつかなかった。
- 10月31日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「信頼は己の全てでつかみとる～食品スーパー経営者・福島徹～」では、福島さんが、生産者とともにセールスポイントを考えて、商品を作り上げていく姿勢に感動した。「いい品は、いい人柄が作

り出す」という最後の言葉も印象的だった。

- 11月1日(火)のドラマ10「カレ、夫、男友達(1)「危険な関係」は、「龍馬伝」のお龍役で渋さが際立っていた真木よう子さんが、下着姿で執ように演技しているように感じられ演出に疑問が残った。内容的には、現代女性の身近に起きている話題がクローズアップされているのかもしれないが、午後10時台には子育て中の親が見られるような、教育問題を扱ったドラマを放送してほしいと思う。
- 11月2日(水)のためしてガッテン「秋！根菜に大感謝 とっておき裏ワザ百科」は、ニンジン、ジャガイモ、ゴボウなどの根菜類のおいしい調理法が紹介された。また、11月9日(水)のためしてガッテン「生かす！きのこパワー 13倍UP 激うま健康ワザ」でも、きのこのユニークな食べ方を紹介していて、大変勉強になった。NHKの取材力にも感心した。
- 11月2日(水)の歴史秘話ヒストリア「孫の私がかんばらねば！～日光東照宮 徳川家康と家光の絆～」では、番組の途中まで謎解きが興味深かった。しかし、最後の方で、太平の世において生まれた「日光を見ずして結構というなかれ」という言葉に対して、日光を訪れた外国人が「私はもう日光にいるのだから結構という資格がある！」と言ったというエピソードは、興ざめするものだった。
- TPP（環太平洋パートナーシップ協定）を取り上げた、11月3日(木)の双方向解説「そこが知りたい！「激論！TPP」（総合 午前10:05～11:54）」を“双方向”という言葉にひかれて見たが、2つ意味があったと思う。1つは視聴者の意見を随時FAXとメールで紹介しているということ。もう1つは、8人の解説委員が賛否の立場で論じていくという賛否双方向ということ。ただ、視聴者の意見をそのまま紹介することだけで、双方向と言えるのか疑問が残った。また、このように賛否が分かれるテーマというのは、国会議員や識者を集めて討論させるというのが通常のやり方だと思うが、解説委員が二手に分かれて長時間討論するという手法は非常に面白いところだと思った。8人の解説委員は専門分野も違えば、若手もベテランもあり、それぞれの特徴がよく出ていて興味深かった。関心をもって視聴するのが慎重・反対派であるのでしかたがないのかもしれないが、視聴者意見の大半が慎重・反対派であったのが残念だった。また、国際政治の部分では掘り下げがもの足りなかった。



- 双方向解説 そこが知りたい! 「激論! TPP」は、ゲストが視聴者目線で質問をしてくれるので非常にわかりやすかった。本来ならば、何か問題が起こる前に議論すべきなので、議論するための材料となる知識や情報をNHKには放送してもらいたい。
- 11月4日(金)の世界ふれあい街歩き シリーズ・イタリアとっておき(1)「サン・ジミニャーノ」は、カメラワークがすばらしかった。階段を下りる場面でも映像が全くぶれないので、どのように撮影しているのか見てみたいと思った。
- 11月7日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「追い込まれなきゃ、おもしろくない〜脚本家・三谷幸喜〜」では、人生そのものの悲哀も脚本にしていく、という徹底した三谷さんの仕事人間ぶりに大変感動した。番組での彼の言葉一つ一つが、せりふのようで興味深かった。
- 11月8日(火)のクローズアップ現代「限界まで安全を追求せよ 福島・農家の模索」は、除染の問題を取り上げており、大変勉強になった。私たちは長期的に除染の問題を考えていかなければならないと改めて考えさせられた。
- 11月9日(水)の歴史秘話ヒストリア「東北に輝け! 幻の黄金都市〜世界遺産・平泉 奥州藤原氏100年の夢〜」では、藤原清衡がなぜ中尊寺を黄金で建てたのかという謎解きや、その後の源頼朝との関係秘話などが興味深かった。しかし、「中尊寺がなければ、世界は変わったかもしれない。」というようなくだりがあり、ちょっと行き過ぎた演出に感じられ残念に思った。
- 11月10日(木)の小さな旅「ひと筆 よりそって〜福岡県篠栗町〜」で、篠栗八十八か所を取り上げていた。いつも車から見るだけだったが、今回放送されて初めて、各札所は地域の人が維持していることや、札所をお参りした多くの人たちが癒やされ、救済されていることがわかった。身近なところを取り上げてもらい非常によかった。
- 11月12日(土)の週刊 ニュース深読み「TPP どう守る? 私たちの食卓!」でもTPPを取り上げていたが非常にわかりやすかった。本来賛成派と反対派の両方から意見を聞いていく番組だったと思うが、出演していた東京大学の教授同士が激論になり、むしろTPPの混迷状況を反映しているようで面白いと思った。終わり方が

いまひとつはっきりしないところもあったが、このような際どいテーマではかえって、きれいにまとめていくような番組よりもおもしろい結末になったのではないかと思った。

- 11月12日(土)の課外授業 ようこそ先輩「笑顔のマジック 届けよう～マジシャン マギー審司～」では、子どもに寄り添うマギー審司さんの授業がとてもよかった。美容院を津波で流された母親を元気づけるために、その息子がみんなの前で手品を披露する場面がとても感動的だった。この番組では毎回、担任の先生が出てこないが、先生から見て子どもたちが課外授業を受けた後どう変化したのか、話をきいてみたいと思った。
- 11月12日(土)の旅のチカラ「ナッシュビル 28歳のテネシーワルツ 歌手・植村花菜」では、紅白歌合戦に出演するほどの歌手が、自分で苦労しながら徹夜で歌を作っている場面が描かれていて大変興味深かった。
- 先日、プロ野球のクライマックスシリーズを見ていて思ったことだが、テレビの時計表示が、得点表示と重なっていて見づらいので、得点表示をずらせないものかと思った。
- 仕事で海外に滞在していたので、NHKワールドでニュースを見た。今回滞在期間が長かったこともあり、海外で日本語の放送を見るとほっとして、気持ちが和んだ。
- 「実践！英語でしゃべらナイト」は番組制作者の意図がよく見える番組である。語学だけでなく、語を楽しむ“語楽”へとパラダイム転換した番組であり、視聴者と一緒に英語を通して異文化を楽しむコミュニケーション型の番組だからこそ人気があるのだろう。他の番組とは違い、地域や日本にとどまらず、コスモポリタンの視点を持っているところも大変興味深い。さらに、随所に“病みつきになる仕組み”が取り込まれている点も高く評価できる。また、ビジネスチャンスに直結するようなアイデアを提供することで視聴者の心をとらえて離さないのだと思う。「実践！英語でしゃべらナイト」と「Jブンガク」は、英語で世界の文化情報を受信すると同時に英語で日本の文化情報を発信するという、いわば、“双方向”の番組構成となっているように感じる。こうした番組は放送のみならず、インターネットを通じて世界に発信していくべきだと思う。NHKが通信と放送が融合した、“公共メディア”と呼ばれ

る日が来ることを期待している。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成23年10月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

10月のNHK九州地方放送番組審議会は、20日（木）、NHK福岡放送局において、8人の委員が出席して開かれた。

会議では、事前に視聴した、NHKスペシャル「脳がよみがえる～脳卒中・リハビリ革命～」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、11月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （（株）西日本新聞社監査役）            |
| 委員   | 下竹原啓高 | （（株）指宿白水館代表取締役社長）         |
|      | 鈴田 滋人 | （染織作家・重要無形文化財保持者）         |
|      | 竹井 成美 | （宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長） |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 原田 緑  | （（株）七尾製菓代表取締役専務）          |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |

### （主な発言）

<NHKスペシャル「脳がよみがえる～脳卒中・リハビリ革命～」

（9月4日（日）総合 後9:00～9:49 福岡局・報道局制作）について>

- 鹿児島大学病院の川平和美教授が、長い時間をかけて蓄積された技術を公開していたことに驚いた。その勇気には脱帽する。体のまひしていた部分が動き出すメカニズムが、科学的に図表などで説明され、よくわかった。理化学研究所のBMIという技術も未来に夢を描ける最先端の技術で、大変驚いた。脳はほめられたがっていて、すかさずほめたり、具体的にほめると、リハビリでもより効果を発揮するというのが印象的だった。番組で取り上げられていた男性患者の“まだやりたい”という気持ちを大切に治療する姿勢には感動した。番組の構成もすばらしいものであったと思う。
- 番組を見て、特に関心を持ったのは、脳波でロボットを操作するBMIという技術で、脳科学は相当進んでいると感じた。元NHK解説委員の藤田太寅さんが番組の進行役を務めていたが、実体験をもとに率直な驚きや感動を伝えていてわかりやすかった。男性患者がリハビリの効果をあまり感じられないときの落胆ぶりや、効果が少し

ずつ感じられた時の喜びがひしひしと伝わってきて非常によかった。実際に川平法がどの程度普及していて、医学の世界でどのように受けとめられているのか補足があれば、もっとよい番組になったと思う。“脳はほめられたがっている”という話があったが、脳というのは我々の知らないたくさんの可能性を秘めていると改めて感じさせられた。取材の綿密さという点でも、非常によい番組だったと思う。これからも地域の枠を超えてこのようなすばらしい番組を制作してほしい。

(NHK側)

川平法は公的医療保険の対象になっており、国が認めている治療法である。川平教授自身は、日本リハビリテーション医学会の理事も務めていて、非常に権威ある先生なので、川平法が特異なものであるということはない。

- 藤田さんが自ら体験し、脳卒中の最前線の治療法を紹介しているところがとてもよいと思った。藤田さんと男性患者は2人とも右脳にダメージが起きた場合の例だと思うが、左脳がダメージを受け、言語障害がおきた場合にはどのような治療法があるのか触れてほしかった。また、川平教授のもとで勉強した理学療法士が、リハビリ法をきちんと習得できたのか、川平法が他の病院にも広がっているのかどうかについても知りたかった。男性患者は自宅に帰ったあともかなり回復していたが、自宅でもできるリハビリ法を何か実践していたのか、家族はどのようにサポートしたのか気になった。川平法のような最前線の治療法がどんどん広がればよいと思う。とても興味深い番組だった。

(NHK側)

川平教授は、自分の治療法を広めるために定期的に講習会を開いている。特に若い理学療法士から非常に注目されている。川平法で治療する病院もだんだん増えている。ただ、川平教授の治療法は教授自身の高い技術力によるところもあるので、どれくらい伝達していけるのかというところが大きな課題になっている。

また、男性患者は自宅に帰った後も、しっかり自宅でできるリハビリ法に取り組んでおり、自分なりに工夫して実践していたリハビリもあって、より効果が持続しているようだ。ただ、番組でも紹介しているが、川平法は万能ではない。比較的症状が軽い方、運動機能がそれなりに残っている方には有効だが、そうではない方には効果が表れにくいので、番組では場合分けをして紹介した。

- この番組を見て、医療、科学の進歩に希望の光を感じた人がたくさんいたと思う。7年前脳卒中になり重度の障害が残った患者さんが、日々新しいリハビリの技術がないかと新聞を読んでいた姿を見て、NHKでも新しい医療技術を紹介するシリーズの番組があればよいと思った。川平教授の講習で理学療法士がリハビリ法を学んでいたが、タイミングや刺激する箇所がずれると効果がないということだったので、技術というか、技に近いリハビリ方法を正確に学んでいる人がどのくらいいるのか気になった。実際に講習を受けている理学療法士のコメントや、技術の普及をもっと具体的な取り組みとして知ることができればよかったと思った。脳はほめるとリハビリ効果上がることを紹介する場面で、理学療法士のほめ方がわかりにくかったので、もっとわかりやすくほめているところがあればよかった。また、子どもや若者が眠るときに出る、記憶を固定する脳波があり、脳が壊れると年齢に関係なくまたその脳波が出始めることや、ほめられると脳が活性化することなどに改めて驚かされた。記憶を固定する脳波が子どもと若者だけにしか効果がないのが残念だ。
- 広がりをもったテーマだと感じたので、重くなり過ぎないかと最初に心配した。常に可能性が見えてくる番組であればいいと思って視聴したが、まさにその通りになってよかった。リハビリ法の進歩だけでなく、それと同時に周りの人間がいかに患者を支えていくかという技術と心の兼ね合いがよく表れていた番組だと思う。藤田さんの「脳はいつでもよみがえる。生きる喜びもいつでも取り戻せる」という言葉に象徴されるような番組で、非常によかった。今回は患者を中心とした構成だったが、違う角度からもこのテーマで番組を制作してほしい。
- 川平教授のあれほどすばらしい技術が、惜しげもなくテレビで放送されたことに驚いた。蓄積されたノウハウをどのように普遍的に普及させていくのか、誰がやっても同じような効果が得られるようなノウハウが普及していくのか疑問に思った。例えば、川平教授が開発した技術を練習できる機械などがあればいいと思う。そうした機械を通して、長年にわたって蓄積した研究に対する何らかの報酬があればいいのではないかと思った。BMIという技術も興味深く、どんどん新しい技術が開発されていることに改めて驚かされた。非常にすばらしい番組で、こういった番組がもっと多くの人に見てもらえるといいと思う。
- 番組構成や内容から、テレビ番組というよりも教育科学映画を見ているような感じがした。藤田さんの進行と男性患者の笑顔がすばらしかった。少し硬い番組だったので途中で退屈を感じる場面もあったが、男性患者が出てくると表情や人柄にとっても和まされた。脳卒中そのものが起こる原因や予防法について番組の中で取り上げてもらえたら、さらによかったと思う。

- 自分も脳卒中になったという藤田さんが番組を進行していたので、説得力がありテーマがすんなり視聴者の中に入っていったと思う。最後に男性患者が「人生は半分終わったと思っていたのに、まだやれるという生きる自信がわいてきた」と言っていたが、これを聞いて現在リハビリ中の方の多くがすぐにでも川平教授のリハビリを受けてみたいと思ったのではないかと思う。ぜひ機会があれば再放送してほしい。
- 若く健康な人には重たいテーマであり、普通はあまり関心を持たれないような番組だと思う。しかし、脳卒中の後遺症に苦しむ人、その家族や関係者にとっては光明とも言える番組であると思われる。また高齢者にとっても見過ごせない番組である。NHKだからこそ取り組めたものだと感じる。番組では先端技術の進展を感じ取ることができ、特に作業療法だけでなく、脳に働きかける脳科学療法は、大変説得力があり未来に対して多くの期待を抱かせるものであった。特に印象に残ったのは「脳はいつもほめられたがっている」ということである。子育てや、職場のモチベーションアップにも大いに参考になると感じられた。大変良質な番組であった。
- 丁寧に制作されていたと思う。進行役に自身も脳卒中患者である藤田さんを起用し、脳のメカニズムを科学的に説明していたのは好感が持てた。ただ、視聴者は単純明快な結論を求めがちなので、科学的な精確さを追求すればするほど、その背景にある事情を説明することになり複雑で難渋になりかねない。しかし、この番組では、藤田さんの冷静な視点が組み込まれていたため、視聴後の印象もよかった。さらに精確な医学的事実も知ることができてよかった。川平教授と同種の“まひした体に対して効果的なアプローチ”が他にもあるのならば紹介してもよかったのではないかと思う。

(NHK側)

番組でも紹介した通り、ほめるということも大事だが、家族や周りの人が患者のことを常に気にかけていると、リハビリの効果が非常に上がると言われている。男性患者の「絶対によくなってやる」という思いもちろんあるが、今回は放送で取り上げられることもあり、よりリハビリの効果が出たのではないかと思う。今後も九州から今回のような先端研究をどんどん全国、できれば海外にも発信していけるような番組作りを続けていきたいと思う。

<放送番組一般について>

- 8月30日(火)の直伝 和の極意 これであなたも着物美人「まずは着物でお出かけ！」では、講師の安田多賀子さんの穏やかな進行がよかった。着物の模様の持つ意味などを、着物を紹介するときにもっと掘り下げて紹介してもらえたら、さらによかったと感じる。
- NHKネットラジオ「らじる★らじる」が順調にスタートしているので、ぜひNHKの地域放送局の番組が視聴できるようにしてほしいと思う。
- 最近注目されているネットラジオを体験して、その可能性に非常に関心をもった。NHKネットラジオ「らじる★らじる」で国会中継を聴いたが、非常に音がよくて驚いた。それまでのラジオのイメージが変わり、改めて魅力を感じた。またネットラジオは、災害時の伝達手段としても可能性を感じる。ネットラジオはスマートフォンでも聴けるということだが、スマートフォンの今後の普及を考えるとかなりのラジオリスナーが新たに出てくるのではないかと感じる。今の若い世代はラジオを聴く機会があまりなかったと思うが、今後は若い人がスマートフォンでラジオを聴く、という新しいリスニングスタイルが登場するのではないかと感じる。ネットラジオをパソコンで利用すると、画面に番組の情報が出てくるのも興味深い。曲名などを見ながら聴けるので、新たな可能性を感じた。視聴エリアが全くないことにも驚いた。メディアは通信と放送の融合が本当にどんどん進んでいることを、ネットラジオを通して体験した。新しい情報伝達手段として、災害時にも役立つ有効なメディアなので、どんどんPRするべきだと思う。
- 9月16日(金)のNHKスペシャル「生活保護 3兆円の衝撃」(総合 後10:00～10:49)は、生活保護を受けている人をねらう闇の社会を描く内容も含まれていて、どのように取材したのか舞台裏を知りたかった。
- 9月18日(日)の日曜美術館「雨の夏草 風の秋草～坂東玉三郎 酒井抱一をよむ～」では、映像の持つ美しさとともに、語りのもつすごさに大きな力を感じた。玉三郎さんの言葉に「十分な修業をしても技術が見えただけではだめで、命を削る修業をして、その中で無心になったとき、天からの声が聞こえ、それが手を動かし、額を



かかせるのだ」という言葉があり、非常に美しい言い方で語られている。番組の中で非常に強く印象に残った。

- 宇宙に関する番組が秀逸だった。9月18日(日)にBSプレミアムと総合テレビで6時間近く宇宙関連の番組を放送していたが、特に「世界初・生特番 宇宙の渚に立つ」(BSプレミアム 後5:00~6:00、総合・BSプレミアム 後7:30~7:58)は、映像がとても美しく、NHKならではの番組だと思った。再編集して放送されるということなので楽しみにしている。
- 「世界初・生特番 宇宙の渚に立つ」に出演していた女性アナウンサーが、研究者が苦勞して撮影した映像を「すごい映像が撮れちゃったんです」と表現していたが、研究者に失礼ではないかと感じた。もう少し配慮ある表現を心がけてほしい。
- 「世界初・生特番 宇宙の渚に立つ」では、宇宙飛行士の古川聡さんと同じ、宇宙ステーションの窓から地球を見ている映像があり、自分が宇宙飛行士になったような気持ちで見ることができて感動した。地球が神秘的で、すばらしい光景だった。
- 9月19日(月)のきょうの料理「一品入魂 本格 赤飯」では、赤飯一品を丁寧に紹介していてよかった。料理番組は新しい料理を紹介することが多いと思うが、このような取り上げ方もよい。そして「いま伝えたい料理の力」というテーマで、みそ汁をだしのとり方から丁寧に紹介していた。地味ではあるがとても内容のある取り組みだと思った。今後の番組で大事に受け継いでもらいたい。
- 9月20日(火)のあさイチ「スゴ技Q キッチンでできる！お手軽燻製(くんせい)」では、煙は殺菌効果があって日持ちする、スモークしたものは1か月ほど保存できるということはわかったが、煙が体に害を与えないものなのかについての情報を付け加えてほしかった。
- 9月20日(火)のコズミック フロント～発見！驚異の大宇宙～スペシャル「大冒険！はやぶさ 太陽系の起源を見た」(BSプレミアム 後9:00~10:29)は、日本の宇宙開発の実力を示した感動の番組だった。
- 9月25日(日)の日曜美術館「現在(いま)を生きる美～第58回 日本伝統工芸

展～」では、元サッカー日本代表の中田英寿さんが出演して、伝統工芸について語っていた。海外で活動する中で日本のことを聞かれてよくわからなかったから、伝統工芸の世界を見てみたいという気持ちで関わるようになったそうだが、そのエピソードだけで番組に非常に大きな膨らみが出た。そして言葉の持つ力を非常に強く感じた番組だった。

- 9月25日(日)のNHKスペシャル「クニ子おばばと不思議の森」は、焼き畑農業の一年がとても美しい映像で語られており、4,000年前からの命の循環が克明に描かれていてよかった。カタツムリ(カタツムリの声:菅原文太)に語らせる演出も光っていた。
- 9月29日(木)のセカイでニホンGO!「セカイが愛するニホンのラーメン、サシミ」は、気楽に見られる雰囲気がよい。いろいろな国の、いろいろな分野の人が出演している中で、日本人はどう思っているのか、議論するのがおもしろい。
- 10月1日(土)の週刊 ニュース深読み「どう進めるの?“除染”」は、視聴者の目線に立って番組が作られていてよかった。どの地域にどの程度除染が必要になるのか、私たちにも知る権利があると感じた。NHKだからこそ、このように問題提起する番組を放送して、番組を見た人たちがそれぞれの地域で議論する、ということも大事ではないかと思った。
- 10月2日(日)の明日へ 再起への記録「ガレキの町の小さな一歩～岩手・大槌小学校6年生～」(総合 後4:10～4:58 九州沖縄地方)や、10月1日(土)の「続・また仲間たちと歌いたい」(総合 後4:45～5:28)、10月11日(火)の「響け!笑顔のスイング～気仙沼 小中学生ジャズバンド～」(総合 後10:55～11:21)は、学校教育に携わっている者として非常に興味深い内容なので、いつも同じ時間帯で見られるとよい。
- 10月2日(日)のNHKスペシャル「巨大津波 その時ひとはどう動いたか」は、宮城県名取市の閑上地区で700人近い方が亡くなったことを踏まえて、住民から聞き取り調査をしてわかったことを放送していた。非常時には、現実をなかったことにしてしまう心理作用や、生命の危機が迫っても他者をあえて助けにいくといった心理作用が、心の重圧を軽減するための作用であるという事実が印象に残った。

- 10月8日(土)の「夢色音楽フェア」(FM 後0:15~2:00 大分県地方)は、大分放送局が開局70周年を迎えて、地域のイベントと一緒に取り組んだものだが、大変活気が感じられてすばらしかった。
- 10月9日(日)のNHKスペシャル 東日本大震災「“帰宅困難 1400万人”の警告」は、首都直下型の地震時に動いてはいけない原則と、帰宅する人たちに起こりうる危険にどう備えていくかといくことを考えさせてくれた番組だった。遠方から東京に来ていて、帰宅困難になった人は右も左もわからないところで、どうするべきなのか、そういった人たちのことも取り上げてほしい。この番組の中で、千葉県浦安市のテーマパークの対応が取り上げられていた。時間が短かったので、もっと掘り下げて危機管理体制の話を知りたい。
- 10月10日(月)の「執念~小澤征爾 76歳の闘い~」(総合 後10:00~10:48)は、とても感動的だった。最後の場面は、小澤氏の要求に対してコントラバス奏者が非常に苦勞して演奏する場面ただけに、小澤氏の表情だけで終わるのではなく、コントラバス奏者の映像も重ねて見たかった。
- 10月12日(水)のためしてガッテン「ついに皆伝!京料亭に伝わる昆布ダシの奥義」は、大変興味深い内容だった。仕事の関係で、おいしいだしのとり方をいつも気にしていたが、番組の中で科学的に分析していたのが非常におもしろく、我々の業界でも大変参考になった。京都の料亭の1箱100万円もする昆布のだしの味が、わずか1時間でできるというおもしろい番組だった。
- 10月14日(金)の「あさいち」では、日本初の女性報道写真家が紹介されていた。現在97歳でもすごく魅力的できれいな方だった。男女共同参画が叫ばれて以降、男性の仕事の領域に「初の女性」として挑戦した人たちの、その後の活躍ぶりや人生について紹介してほしい。
- 10月15日(土)の週刊 ニュース深読み「“ギリシャ危機”が暮らしを直撃?!」では、アナウンサー2人が“父兄”という言葉を使っていたが、最近は“保護者”で統一されているはずなので、正しい言葉遣いを心がけてほしい。
- 沖縄では先週まで世界のウチナーンチュ大会という5年に一度の催しが開催され

ていたが、沖縄放送局のニュースでは、その催しに向けての報道が長期にわたって、丁寧に行われていたのがとてもよかった。特にニューヨークの空手道場の道場主が、空手の発祥の地・沖縄にお弟子さんを連れてやってきたというニュースが明るい話題でよかった。

- 10月16日(日)のE TV特集「この世の名残 夜も名残～杉本博司が挑む“曾根崎心中”オリジナル～」は伝統を違う視点から見ることのおもしろさを存分に感じた。文楽の本当のよさ、可能性を感じさせてくれる番組だったので、新たな展開があれば、ぜひ取材してほしい。
- 10月17日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「“生きたい”ただその願いのために～血液内科医・谷口修一～」では、血液内科医の谷口医師が紹介されているが、白血病の治療に取り組む谷口医師の姿が感動的であった。名医と言われる谷口医師の治療を受けても、番組で紹介された患者の容態は劇的に改善することがなく、亡くなった。しかし、その無念さを越えて次の患者の治療にあたる谷口医師の姿こそ、視聴者の共感を得られるものだと思う。
- 10月18日(火)のゆうどきネットワーク「ゲームセンターや保育園がデイサービス参入 そのワケは」では、デイサービスのさまざまな形の新しい取り組みを知ることができてよかった。外に出ることがめっきり減った高齢者が、番組に出てきたスポーツジムなどに行けば、新しい望み、目標を持つことができるのではないかと感じた。
- 10月18日(火)のよる☆ドラ「ビターシュガー」では、40歳を前にこれから自分が中年になって、この後の人生をどう送っていけばよいのかという悩みに直面する女性たちの不安な人生模様を非常にビビッドに取り上げていて、おもしろい番組だった。
- 10月19日(水)のあさいち「キラキラ40 セックスレス 拒否する女性たち」では、ベールをかけられた領域で、そのベールが外されたことで、多くの人が正確な知識、情報を知りたがっているテーマであることがよくわかった。なかなか正しい報道、知識が得られない中で、みんなもがいていたような状況だったのだと感じた。

- あさいチ「キラキラ40 セックスレス 拒否する女性たち」は、ある意味非常にオープンでよかったが、朝放送するという事に疑問を感じた。見たくないと思っている人もいると思うので、違った時間帯に放送してもいいのではないかと思う。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成23年9月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

9月のNHK九州地方放送番組審議会は、15日（木）、NHK福岡放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「平成23年度後半期の国内放送番組の編成」および「平成24年度の番組改定」について、また、「平成23年度後半期の九州沖縄地方の番組」および「放送番組の種別」について説明があった。

続いて、事前に視聴した、特報フロンティア「12歳の“白熱教室”～考える力を育む授業～」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、10月の番組編成の説明が行われ、視聴者意向および放送番組モニターの報告については席上配布をもって説明に変え、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 副委員長 | 豊田 滋通 | ((株)西日本新聞社監査役)            |
| 委員   | 下竹原啓高 | ((株)指宿白水館代表取締役社長)         |
|      | 鈴田 滋人 | (染織作家・重要無形文化財保持者)         |
|      | 竹井 成美 | (宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長) |
|      | 西大八重子 | (フィニシングスクール西大学院学院長)       |
|      | 原田 緑  | ((株)七尾製菓代表取締役専務)          |
|      | 平田トシ子 | (北九州市男女共同参画審議会会長)         |
|      | 古野 隆雄 | (農家)                      |
|      | 松原 孝俊 | (九州大学教授 韓国研究センター長)        |

### （主な発言）

<「平成23年度後半期の国内放送番組の編成」および  
「平成24年度の番組改定」・について>

- 「BSアーカイブス」を非常に楽しみにしている。番組を選ぶ際の基準はあるのか。視聴者の要望も取り入れてもらいたい。
- BS1とBSプレミアムの明確な違いがわかりにくい。BS1がニュース・スポーツに特化したもの、BSプレミアムが本物志向の教養・娯楽とうたっているようだが、本物志向というのは多様なので理解が難しい。何か明確な軸になるものがBSプレミアムにも必要ではないのか。

(NHK側)

今年の4月からBS2波になり、BS1については、国際情報とスポーツに特化した番組を放送している。BSプレミアムについては、自然や美術、劇場シアターなど7つのジャンルを中心に総合テレビとは一味違うプレミアム感を感じていただけるような本物志向の教養・娯楽番組を放送している。NHKとしても視聴者のご期待により応えられるような番組を今後も編成していきたいと考えている。

- 「歌うコンシェルジュ」を夜間に放送することはできないのか。次の日の番組紹介を夜間に放送すると昼間に仕事をしていても録画して番組を視聴することができるのでよいと思う。

(NHK側)

夜間の視聴好適時間帯に番組PRばかり放送することは好ましくないのだが、どのような時間帯に放送するのが効果的か今後さらに検討していきたい。

- 韓流ドラマが好きで「宮廷女官 チャングムの誓い」以来ずっと見ているが、現在総合テレビで放送中の「イ・サン」は、BSプレミアムで放送後、総合テレビでも同じように日本語吹き替え版で放送をしている。BSプレミアムは原語で、総合テレビは吹き替え版で放送するなど区別して放送してほしい。
- NHKの衛星放送の役割とターゲットの話があったが、その視点の中にアジア各国に日本のよさを伝える観点が必要だと考える。グローバル化が進む中で、日本の文化やソフトウェアをもっとアジアに発信するという積極的な姿勢を番組の編成にも示してほしい。

(NHK側)

BS1は午後5時台・6時台について、アジアの文化・生活情報ゾーンの見直しを行っていく。衛星放送は現実的にアジアでも視聴できるが、海外向けには国際放送で力を入れていくのでその点をご承知いただきたい。

- 平成23年度、「週刊こどもニュース」を廃止して、ファミリー向けとして「週刊ニュース深読み」が始まったが、この改定をどう総括しているのか。

(NHK側)

「週刊 ニュース深読み」については視聴者の方に受け入れられていると考えているが、演出については子どもでもわかりやすいように工夫していきたい。

<特報フロンティア「12歳の“白熱教室”～考える力を育む授業～>

(7月22日(金)総合 後7:30~7:55 福岡局制作)について>

- 非常にいい番組だった。私自身は、教育現場の現状がよくわからないので、純粋に授業の内容だけを見た。子どもとの対話を重視し、子ども同士でほめ合う時間を作るなど、工夫されている先生の授業はよく理解できた。
- 一般の人が教育現場に現状としてどのような問題があるのかということと比較して見られる構成になっていれば、もっと先生の授業がクローズアップされて、価値観が見えてきたのではないか。番組の切り口や見せ方がいまひとつ足りないような気がしたので制作者の思いをもう少し番組に反映した方がよい。
- 北九州市立貴船小学校の菊池省三先生の授業は対話式講義と呼ばれるものだが、番組内で対話式講義の問題点にも言及し、バランスのとれた番組構成にしてほしかった。たとえば、先生の授業に賛同して第2、第3の菊池先生が出てきているなどといった広がりや番組の中に盛り込めばもっと共感が得られたのではないだろうか。
- 対話式になればなるほど与えられる知識の総量が少なくなるので、受験を考えた親の要望に沿えない場合もあり、対話式講義は賛否両論だという観点も意識して番組を制作して欲しかった。教育委員会が菊池先生の授業をどう評価しているのかによって、公的な評価もわかり、この番組の狙いがよりはっきりとしたのではないかと思う。
- 現代の教育問題をクローズアップしていたのはよかった。ただ、あまり全員と対話しているところだけをクローズアップしすぎると、教育現場の受け止め方は賛否両論だと思う。
- 社会科の学習で大仏のことが取り上げられていたが、菊池先生は何を教えたかったのかという教育の基本が描かれていなかったため、指導方法だけがクローズアップされると、学習内容面で疑問が生じる。



- カメラが回っているところだけを切り取ると、子どもたちと先生の本来の姿を伝えきれないこともありうるので、日常の姿をキャスターがインタビューなどで引き出すなど、編集には慎重であってほしかった。
- NHKは視聴率にとらわれずに、このような教育に関わる問題についても取り上げてほしい。
- 菊池先生が教育者として情熱をずっと持ち続けていた先生だということを感じたし、先生と子どもたちは長い時間をかけて信頼関係を築いてきたのだと画面を見るだけでも感じる事ができた。番組の中で、先生の教育理念や今の教育現場の現状などをもう少し掘り下げてほしかったところではあるが、今後もこのような教育番組を多く制作してほしいと思う。
- 放送に向けて関係各所に放送の許可を取るのはなかなか大変だったと思う。その苦労を思うと、熱心に取り組んだのがわかる。教育問題を取り上げるのは本当に難しいと思った。菊池先生は子どもたちの答えをどんどん引き出す相づちをしていて、この手法がもっと広がってほしいと思った。いい番組だったと思う。
- テーマがすばらしいと思う。徹底的に考える、自分の頭で考えるというのが、今一番教育に欠けていることではないか。私もこういう先生に小学校のときに会っていたら人生が変わっていたと思う。
- 気になるのは、菊池先生は算数や理科など他の教科を教えるときも対話形式で授業をしているのかということだ。別の言い方をすれば、こういう考える授業が、国語や算数にどう影響を与えているのか、その辺りを番組で取り上げるともっとわかりやすかった。
- この対話式講義は、誰にでもできるものではなく、菊池先生だからこそできるものなのではないかと思った。
- いろいろな単語を覚えたり、算数の問題を解くことも重要だが、まず人として何をしなくてはいけないかということに光を当てて、菊池先生のように子どもを教育するという事は大事だと思う。
- 文部科学省の規定などあるかもしれないが、独創的に考えていくことを貴船小学校で学んだ子どもたちはすばらしい子どもになると思う。私のような教育とは全く無縁

の場所にいる人間に改めて教育の大事さを考えさせてくれたすばらしい番組だった。

- 貴船小学校として、菊池先生のスキルを使って、他の子どもにどういうふうに接しているのかというのを知りたい。全国的に評価されているということだが、実際北九州市の教育委員会にどう思われているのか番組で取り上げてほしかった。そういう内容が放送されると、これから本当に教育が変わっていくのではないかと、私のような子どもを持った親も安心できると思った。
- 「12歳の“白熱教室”」というタイトルからもっと活発な議論をしているところを想像していたので、そういった場面があまり見られなかったのが残念だった。
- 学校現場の取材が難しくなってきた中で、よく取材していると感心した。非常にユニークな、面白い取り組みなのだが、恐らくここに菊池先生が至るまでには、相当いろいろな試行錯誤や悩みなどがあつたと思う。25分という短い番組なのでなかなか難しいと思うが、ここに至るまでのプロセスも知りたいと思った。また、教育委員会にどのように映っているのか知りたいと思った。異端とされているのか、あるいはそこに注目している人たちがいるのか、そういうところにも関心がある。
- 子どもたちのコミュニケーション不足を解消するために、徹底的に考える対話の授業に力を注いでいる菊池先生のような先生がいて、子どもを学校に預ける親は安心したのではないかと。現在の多様化した子どもたちの心をつかむ授業のやり方として、この番組を全国放送して、先生、PTAの方々に視聴してほしいと思った。

(NHK側)

菊池先生にあこがれている若い教師の方々がいて、今同じような授業は広がり始めている。今回は短い期間だけの取材だったが、今後継続取材もして子どもたちのドキュメンタリーなども多く制作していきたいと思う。

<放送番組一般について>

- NHKネットラジオ「らじる★らじる」というサービスが9月1日(木)から始まったが、大変よい試みだと思う。サービスの提供エリアが日本国内に限定されているので、早急に海外でも視聴できるように改善してほしい。また提供する番組は全国向け共通番組となっているが、各地域の情報を放送するようにしてほしい。保存ができな

いのも残念だ。今後視聴者は、テレビ番組のインターネット配信を求めていると思うので「らじる★らじる」での評価も踏まえて、着実に次のサービス提供を考えてほしい。

- 7月29日(金)のNHKスペシャル 未解決事件 F i l e . 0 1 グリコ・森永事件「劇場型犯罪の衝撃」(総合 後7:45~8:43)や、9月11日(日)の日曜美術館「よみがえる地底の記憶~世界記憶遺産・山本作兵衛の炭坑画~」をととても興味深く見た。また、8月6日(土)から放送していた「第93回全国高校野球選手権大会」での、スポーツアナウンサーの実況中継はすばらしく、他局の追随を許さないものだった。
- 8月3日(水)のNHKスペシャル「封印された原爆報告書」(総合 4日(木) 前0:15~1:09)、8月6日(土)のNHKスペシャル「原爆投下 活(い)かされなかった極秘情報」(総合 後9:00~9:58)、8月8日(月)の「二度と原爆を使ってはいけない~ナガサキを見た 占領軍司令官~」(総合 後10:00~10:48)、8月14日(日)の「圓の戦争」(総合 後9:00~9:58)は、いずれも戦後66年の知られざる資料に基づくもので、NHKならではの取材力がいかされたすばらしい番組だった。
- 8月7日(日)の100年インタビュー「ジャーナリスト・立花隆」(BSプレミアム 後0:00~1:29)は、相当長い番組だったが、科学の基本は議論をぶつけ合うことだということところが印象に残り、迫力ある番組だった。
- 8月8日(月)の温故希林~樹木希林の骨董(とう)珍道中~ 第1回「器」は、ゆっくりとした独自の生活スタイルを持っている樹木希林さんの生き方が見え隠れして、各地で出会う人たちの会話も楽しく、骨董に対するイメージを軽やかにしたように思う。続編を期待する。
- 8月13日(土)の「世界の名峰 グレートサミッツ エベレスト~世界最高峰を撮る~(前編・後編)」(BSプレミアム 後7:00~8:29、後8:30~9:59)は、ハイビジョンカメラで撮影された映像がすばらしく、カメラを抱えながらどのように撮影されたのかメイキングも見たいと思った。
- 8月28日(日)の日曜美術館「夢のルドン 傑作10選」は、私が大好きな画家のルドンを取り上げており、興味深く見た。ゲストの舞踏家、田中泯さんは自分の思い

を語っていて非常に印象深かった。この番組には、取り上げる作品の解説を求めているわけではなく、ゲストの感想や、その方自身の言葉で感動を語ってもらうような構成を期待する。最近映像は非常に美しくなっているのに、コメントが気になることがある。NHKは言葉に対する非常に大きな影響力があると思うので、持っているノウハウをぜひいろいろな場面でみせてほしい。

- 8月28日(日)のNHKスペシャル「日本人イヌイット 北極圏に生きる」(総合 後9:00~9:58)は、生きるということを考えさせられ、大変感動した。私たちはふだんスーパーなどで食材を買って生活しているが、イヌイットはどの季節にどこに獲物がいて、どういう行動習性だからどのように捕まえるのか、というところまで代々伝えていって、それを実践している。小鳥をつかんで殺す場面などはあまり見たくないシーンだったが、私たちにいろいろなことを考えさせてくれる教訓となって、非常によい番組だった。
- 東日本大震災から半年ということで、NHKが節目をどう報道するのか注目して見ていた。質・量ともに十分な内容だったと思う。9月1日(木)の「震災に負けない お元気ですか 日本列島」は、NHKが震災報道の防災訓練を行っている様子を伝えており、非常に興味深かった。その中で、改めて震災直後に大津波が平野を襲っていくシーンを撮ったヘリコプターの取材現場の話があり、公共放送として非常に意味のある災害報道であった。また、その教訓が直後の台風12号の報道で生かされたのはよかった。
- 9月1日(木)のNHKスペシャル「巨大津波が都市を襲う～東海 東南海 南海地震～」(総合 後10:00~10:49)や、9月2日(金)のサイエンスZERO「原子炉で何が起きていたのか ～炉心熔解・水素爆発の真相に迫る」では、半年たってようやく科学的に当時の津波のメカニズムや真相が明らかになってきたと思うが、それが非常にわかりやすかった。今後もわかりやすい震災報道を節目節目には放送してほしい。
- 9月4日(日)の白熱教室JAPAN 慶応義塾大学 第1回「日米関係を考える」は、大学生に対して出したテーマが沖縄の米軍基地だったので、全国的にもそういったテーマを考えてもらう良い機会になったと思う。

- 9月5日(月)の「日本美術の1万年～魂の縄文アート 土偶～」(BSプレミアム 後9:00～9:57)は、出演者が本当に土偶を制作し、焼き方も当時のまま再現していたのでとても印象に残った。また、手間暇かけて制作した土偶を最後には縄文人のように壊す場面があり、縄文人の精神性がとても興味深かった。しかし場面展開が早くあわただしい感じがしたのが残念だった。
- 9月6日(火)の明日へ 再起への記録「豊饒(じょう)の海よ蘇(よみがえ)れ～宮古・重茂漁協の挑戦～」(総合 後10:00～10:48)は、復興にかける漁協の皆さん、地元の方々の必死の思いが伝わるよいドキュメンタリーだった。今後も被災地の皆さんの復興にかける姿を描く番組を多く制作してほしい。
- 9月9日(金)のニュースで九州工業大学の教授が学生と不適切な関係を持って懲戒解雇されたニュースを取り上げていた。解雇された教授が否定しており、そのことも踏まえて対応すべきと感じた。

(NHK側)

大学側が記者会見という形で公表したのを踏まえて対応した。解雇された教授の言い分もしっかりと取り上げて報道するという判断だった。

- 9月9日(金)の「ニュースウオッチ9」では、宮城県石巻市の漁協のニュースを取り上げていた。石巻の漁協のブイが茨城県大洗の海岸に流れ着いたので、大洗漁協のトラックで石巻まで届けに行くという話題であった。復興を後押しするさまざまな話題の中では小さなことかもしれないが、漁師同士の心の絆が感じられ、うれしいニュースだった。
- 9月10日(土)の佐賀イズム「原発のある街で」(総合 後6:10～6:35 佐賀県域)は、地方独自の視点で制作されていて非常に興味深く、また考えさせられる番組だったと思う。ぜひ継続して取材をしてほしい。ちょうどこの頃、九州電力のやらせメール問題があったので、その内容に触れていないという意味では少しもの足りなさを感じた。取材としては大変な労力と気遣いが必要だと思うので、佐賀だけでなく九州全域で取材ができるような体制を作って、もっと深く突っ込んだテーマで今後番組も検討してほしいと思う。

- 9月11日(日)の「明日へ～震災から半年～」(総合 前7:45～8:10)は、東日本大震災から半年間の現状について、少しずつでも着実に復興しているのだということを映像で見せてもらい大変勉強になった。
  
- 9月12日(月)の体感！グレートネイチャー「大接近！地球最大の溶岩湖～アフリカ大陸～」(BSプレミアム 後4:00～5:27)は、映像と音楽に迫力があって良かった。9月14日(水)の「ぐるっと8県 九州沖縄」は、鹿児島県の霧島茶を紹介していた。4種類の霧島茶を湯飲みに入れて紹介していたのだが、おそらく茶葉の製法が違うだろうと思うのでその説明があったらよかったと思った。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成23年7月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

7月のNHK九州地方放送番組審議会は、21日（木）、NHK福岡放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、事前に視聴した、E T V特集「カメラマンが見た沖縄戦～隠された戦場の真実～」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、8月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （(株)西日本新聞社監査役）            |
| 委員   | 下竹原啓高 | （(株)指宿白水館代表取締役社長）         |
|      | 竹井 成美 | （宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長） |
|      | 田中丸弘子 | （(株)佐世保玉屋代表取締役社長）         |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 原田 緑  | （(株)七尾製菓代表取締役専務）          |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 古野 隆雄 | （農家）                      |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

< E T V特集「カメラマンが見た沖縄戦～隠された戦場の真実～」

（6月26日（金）Eテレ 後10:00～10:59 沖縄局・制作局制作）について>

- 太平洋戦争の戦時下、住民を巻き込んだ壮絶な沖縄戦を撮影していたアメリカ軍のカメラマンが語った沖縄戦の真実に迫る番組だった。番組を通じて、後世の人たちへ映像記録を残す責任を強く感じた。これは、東日本大震災を後世へどう伝えるかということにも共通すると思った。また、映像記録がプロパガンダとして事実をわい曲する道具として使われることに恐怖を感じた。さらに、映像はアメリカ国内の兵士教育にも使われていて、さまざまな形で戦争の道具になっていることを痛感した。
- カラーで鮮明に映っていることで、当時の状況が手に取るようにわかった。アメリカ兵が民家を焼き打ちにする様子や日本人が折り重なって死んでいる様子など、アメリカ軍にとって都合の悪い映像も鮮明に残っていた。アメリカ軍はベトナム戦争でも

焼き打ちなどをしていたが、沖縄戦後も同じようなことを繰り返していたことを映像が伝えていると思った。

- 日本軍の記録映像はニュース映画として残っているものがあるが、アメリカ軍が残しているような殺害の映像は残っていないのではないだろうか。その一方で、アメリカ軍は沖縄戦に40人の従軍カメラマンを投入して、つぶさに映像を記録していくことを重要視していて、日本とアメリカとの“記録”に対する文化の違いを感じた。
- 長崎に原爆が投下された直後にはアメリカ軍の戦略爆撃調査団が入り、カラー映像で記録を残しており、沖縄戦の映像と共通するものを感じた。アメリカは原爆の効果进行调查した記録を緻密に残していて、ここにもアメリカの映像文化の違いを実感した。
- 戦争を知らない世代が伝える側の多くを占めるようになり、どのメディアも戦争報道が難しくなってきた。しかも、戦争証言を生で聞くことも難しくなってくる中で、どのような切り口で戦争報道を行っていくかがメディアに問われている。今回の番組のように、カメラマンの目線から沖縄戦をもう一度振り返る企画のねらいはよかったのではないだろうか。証言者である元海兵隊伍長のウルフキル氏を発掘した取材力もすばらしく、見応えのある番組だった。
- アメリカ軍上陸初日には日本軍からの反撃がなく、アメリカ軍にとってはまるでエイプリルフールのようなようだったと聞いていた。空爆もあり、読谷飛行場にいた父は爆風でろっ骨を骨折したと聞いた。また、映像の中に子どもを背負って逃げる女性の姿が映っていたが、姉を背負って読谷飛行場に向かった母の姿に重なって感慨深かった。ゆったりと時間が流れるような語りで、それがより私たちに考える時間を与えてくれた。
- “番組で紹介されたシュガーローフの丘の激戦は1か月にもわたり攻防が繰り返されたが、アメリカ軍もしょうすいした大変な戦いであったことが映像を通して改めてわかった。
- この番組を見て記録を後世に残す大切さを感じるとともに、沖縄に生まれ育った私にとっては自分自身の問題として捉えることができ、父や母から聞いていた話が映像として目の前に現れたような気がした。また、ウルフキル氏からしっかりと当時の証言を引き出した取材力に感心した。
- 「E TV特集」を見る前に、6月26日(日)の「ザ・ベストテレビ2011」第



2部「」で放送されたNHKスペシャル「封印された原爆報告書」(BSプレミアム 後2:26~3:21)を見た。アメリカ国立公文書館にある1万ページに及ぶ封印された原爆被害調査報告書に迫ったもので、報告書は原爆の効果を知るため投下直後からの記録をまとめたものだった。「E TV特集」で取り上げられていたアメリカ軍の映像記録と共通する視点があると思った。元海兵隊軍曹のソロビック氏の話によると、沖縄戦のさなか、兵士たちは疲弊して眠れない夜が続き、異常な精神状態になっていく心境が手に取るようにわかった。民家の焼き打ちや積み重なった日本兵の死体、国際法に反した行為など、目を覆いたくなる映像もたびたび使われ、本当に胸が詰まりそうだった。

- これまで家族にも話すことがなかったウルフキル氏の告白は残った映像とともに凄みを増して、語る苦しさや勇気に感服した。
- 時間が解決する面もあるが、時代を超えて許されるものが良心のかしゃくとして残っていく。史実に沿って伝えて、よい面も悪い面も後世に残していく必要があるのではないかと思った。
- 沖縄に上陸したアメリカ軍が18万人もいたことや、民家の焼き打ちを行っていたことなどが鮮明な映像で残っていて、私が持っていた沖縄戦のイメージを覆すような内容だった。まさしく狂気の世界であったことがよく理解できた。また、66年もの間、誰にも語るができなかったウルフキル氏の姿を見て、体験者の癒やされることない苦しみが見えてきた。
- 戦場の真実の後味のよいものではなく、この番組を見て重たい気分になった。ただし、番組冒頭で映し出された沖縄の人々が慰霊碑に手を合わせている姿に救いを感じることができた。また、すべては真実を知ることから始まることを信じたい気持ちになった。
- 副題が“カメラマンが見た沖縄戦”となっていたが、“アメリカ軍”という言葉が盛り込まなかったのはなぜなのかを知りたいと思った。死体など衝撃的な映像が多かっただけに、“アメリカ軍カメラマン”というキーワードがあれば、内容を予測して見る事ができたのではないだろうか。

(NHK側)

初めは沖縄戦を撮影したアメリカ軍関係者に取材するという気持ち

でいた。しかし、取材で話を聞くにつれて、一人の人間として戦場を見つめた思いが強くなったので、「カメラマンが見た沖縄戦」という副題をつけた。

- ほとんど知らなかった沖縄戦のことを自分なりに理解できたような気がした。また、“日本対アメリカ”という構図にとどまらず、ウルフキル氏が戦争の当事者としてカメラを回したことには普遍的な意味があったと思った。この番組を日本人だけではなくアメリカ人や多くの国の人に見てもらいたい。これまで見てきた戦争を語る映画やドキュメンタリーなどよりも真実味もあり、よい番組だと思った。
- これまで沖縄戦の映像を多く見てきたが、この番組ほど民衆が逃げ惑う様子や焼き打ちをする様子などが克明に描かれたものはないと思った。20万もの沖縄に住む人々が犠牲になったことが強く印象に残り、この番組ほど衝撃的な映像は他にないと思った。もっと凄惨な場面はあったと思うが、編集に相当苦労したのではないだろうか。
- 「戦争は人を狂気にして、それに慣れてしまう」と語ったウルフキル氏の言葉が印象的だった。アメリカ兵が死んだ日本兵にピストルを何発も打ち込む映像があったが、仲間の兵士が倒れていく姿を見ると、狂気と化して常軌を逸した行為に走ってしまうことがよくわかり、非常にうまくまとめられた番組だと思った。
- 初めは暗い気持ちになったが、見る回数を重ねるごとに、平和を願う言葉も随所に語られていると思えるようになった。ウルフキル氏らは戦場カメラマンとして使命感を持って戦地に赴いたと思うが、今後はこのような悲惨な映像を撮影することがないよう心から願いたいと思った。
- 死体が山積みになった映像や、殺害した日本兵と一緒に記念撮影をした写真など、凄惨かつ印象的な場面が多くあったが、このような映像に慣れてはいけなと感じた。子どもたちにはそのまま見せると理解できないと思うので、話をしながら、平和について考えることができるような時間を作っていきたいと思った。
- 取材力がすばらしく、非常によい番組だと思った。制作者が丹念に勉強していることが感じられ、大変好感を持った。6月19日(日)のNHKスペシャル「昔 父は日本人を殺した～ピューリツァー賞作家が見た沖縄戦～」と同じく、アメリカ側が持つ記憶の継承をテーマにしている、関連した番組だと思った。戦争は“人間性の崩壊”や“戦場の狂気”として語られることが多いが、ウルフキル氏にとっては語りつくせない

い別の言葉があったのではないだろうか。また、ウルフキル氏を探し出したことに驚いたが、どのように出会ったのかを知りたいと思った。

(NHK側)

まず初めにアメリカの退役軍人やカメラマンのアソシエーションなどに問い合わせ、そこを突破口にして関係する人に次々に連絡して沖縄戦のカメラマンが生存している情報を得ていった。複数候補が上がった中で、最終的にたどり着いたのがウルフキル氏だった。

- 制作者はさまざまところで取材を重ねるうちに力を身につけることができたのではないだろうか。視聴者としては1時間もの番組を見ることになるため、隠された真実を後世に単に伝えるだけではなく、欲を言えば、もっと制作者のメッセージを込めてほしかった。
- 番組の内容が衝撃的で、戦後生まれの人が作っているのは見当がついたが、どのような世代の人が制作しているのか興味が沸いた。ウルフキル氏は戦後66年にして初めて、沖縄戦で当事者として体験した真実を語り始めたが、いろいろなことを考えさせられた。このような難しいテーマである場合、制作者やメディア自身の力量が問われるが、若い世代の人が作ったということに驚かされた。
- ウルフキル氏は家族にも言えなかったような真実を語ったことで、心の中にあった重荷が解けたのかを知りたかった。また、制作者がどのような心持ちで制作したのかも聞いてみたいと思った。
- ウルフキル氏にとって、日本からやって来た日本人に話をすることは非常に重大なことだったのだろうと感じた。自ら殺害した日本人の死体との記念写真を見せることも相当な勇気が要る行為で、覚悟を持って取材に応じてくれたことを感じ取った。ウルフキル氏自身の口からも重荷を下ろすことができよかったですと語ってもらい、こうした番組を制作する重みを感じ、より一層身がひきしまる思いがした。
- 当時は戦争高揚のために撮られたものだが、逆に戦争をなくすためにはどうすればよいかを考えるための素材として使うことができるのではないだろうか。このような制作者のメッセージをナレーションに盛り込むかは別として、そのような心持ちで制作していくと決めていた。
- カラー映像で66年も前のものとは思えないほど鮮明で、沖縄戦のむごさがより一

層際立って感じられた。裏には、戦争を二度と起こしてはならないというメッセージが込められていたのではないかと思った。

- ウルフキル氏の証言は単なる戦争の一場面ではなく、凄惨な戦争の恐ろしさとして映像に込められているのではないかと感じた。その一方で、アメリカ軍の広報活動として撮られた映像に検閲が行われ、戦争の正当化と国家高揚のために利用された実態に驚いた。「もう二度と誰も凄惨な光景を撮影することがないように心から願う」という発言が、ウルフキル氏の苦悩と思いの深さを表していた。映像の力と言葉の強さを感じるよい番組だった。

#### <放送番組一般について>

- ニュース番組に出演している女性アナウンサーはお腹から声が出ていないためか声が裏返ることがある。いわゆる“ながら族”の私にとっては聞きとりやすく、特にお年寄りには伝わらないのではないだろうか。きちんと伝える発声を心がけてほしい。
- 6月12日(日)のこんなステキなにつぽんが「武士の心 石垣とともに～鹿児島県薩摩川内市～」は、60軒ほどの武家屋敷が立ち並んだ薩摩川内市入来町を舞台に、自分が生まれ育った町を愛し、その姿を残していきたいと願う人々の日常を見つめる番組だった。心温まるふれあいやありのままの風景が描かれ、心に響く内容だった。
- 6月18日(土)の「笑う沖縄 百年の物語」(総合 後9:30～10:28)は、歴史に翻弄され続けてきた沖縄で、庶民を勇気づけてきた沖縄の“笑い”を、過去の音源をもとに完全再現し、沖縄の“笑いの一世紀”をたどった番組で、多くの人たちに見てもらいたいすばらしい番組だった。
- 「笑う沖縄 百年の物語」は、いかなる時代においても笑いが明るい未来を切り開いていくというメッセージを与えてくれるよい番組だった。
- 6月21日(火)の食べてニッコリ ふるさと給食「魚うどん給食～宮崎・日南市～」では、麺をトビウオなど魚のすり身で作った“魚うどん”という復活した郷土料理を紹介していて、放送後に実際に食べに行ったほど興味を持った。

- 6月23日(木)のクローズアップ現代「子どもたちが綴(つづ)った大震災」は、被災地の子どもたちが、自身の体験をつづった作文が私たちに投げかけるものとは何かを考える番組だった。スタジオのアナウンサーによる朗読には違和感があり、もう少し見せ方を工夫してほしいと思った。
- 6月29日(水)のクローズアップ現代「我が愛する日本へ～ドナルド・キーン89歳の決断～」は、日本文学を世界に広めた功労者であるドナルド・キーンさんが日本永住を表明した真相や、キーンさんにとっての日本、日本人とは何かに迫った番組で、気になっていたことがわかり勉強になった。
- 6月29日(水)のためしてガッテン「肝臓の健康を守れSP」は、ウコンに含まれる鉄分が場合によっては肝臓病を悪化させることがあると紹介していたが、より丁寧な説明が必要だった。ウコンそのものに問題があるような捉え方をされるような内容だったのではないだろうか。
- 6月30日(木)のニュースでは、全国的な節電の影響もあって、かりゆしウエアが沖縄県外でも人気であることを紹介していた。沖縄で縫製された服を多くの皆さんに利用してもらえることには非常に嬉しく思った。
- 7月1日(金)のなが☆スペ でんでらフライデー「知ってた？長崎の橋」(総合 後7:30～7:55 長崎県域)は、長崎最大の夜の繁華街・思案橋の地下を探検して紹介したり、ふだんなにげなく渡っている橋に秘められた人々の思いや物語を紹介する番組だった。身近なのに日ごろは関心を示されない橋を題材にしたおもしろい内容で、最後まで好奇心をそそられた。ナレーションもさわやかな語り口で、非常に好感を持てるものだった。
- 7月1日(金)のきん☆すた「九州初お目見え！ 驚きの国の宝 大集合」は、九州国立博物館で開催されている特別展「よみがえる国宝―守り伝える日本の美―」に展示される九州初上陸の名品の魅力と美を守る人たちの世界を紹介する番組で、見に行きたいと思わせる内容だった。
- 7月2日(土)の谷村新司のショータイム選「チョー・ヨンピル」は、韓国の国民的歌手であるチョー・ヨンピルさんのヒット曲「釜山港へ帰れ」の誕生の秘密など、今だから話せる秘話をたっぷり伝える番組だった。今も日本を席けんする“韓流”の

原点とも言える存在で、日韓関係の観点からも評価すべき存在であると感じた。この番組が成功していると感じたのは、谷村新司さんがインタビュアーになっていることも挙げられる。旧知の仲だからこそ、チョー・ヨンピルさんの気持ちを引き出せたのではないかと思った。

- 7月2日(土)のNHKスペシャル「果てなき苦闘 巨大津波 医師たちの記録」(総合 後9:00~9:49)は、東日本大震災で巨大津波に襲われた宮城県石巻市で、医療が壊滅的被害を受ける中、地域20万人の“いのち”を一手に支えてきた石巻赤十字病院の医師たちの3か月の苦闘を記録した番組だった。自治体が混乱している中で、医師たちがいかにすばらしい働きをしたかが克明に描かれ、よい内容だった。
- 7月3日(日)に再放送したNHKスペシャル「あなたの寿命は延ばせる～発見!長寿遺伝子～」(総合 後3:50~4:39)は、老化を遅らせ、寿命を延ばす新たに見つかった遺伝子について紹介する番組だった。CGをふんだんに使ってわかりやすく、番組自体はおもしろかったが、紹介したサプリメントが売り切れ状態になってちょっとした騒ぎになった。番組制作は慎重にならなければならないと改めて思った。
- 7月3日(日)のNHKスペシャル シリーズ 原発危機 第2回「広がる放射能汚染」は、東日本に広がっている放射性物質による汚染の実態を独自調査し、そのメカニズムを解明した番組で、興味深い内容だった。
- 7月5日(火)のクローズアップ現代「密着 女川災害FMの3か月」は、宮城県女川町で臨時災害FMを立ち上げた若者11人の、町の復興など問題に直面しながらも、ラジオに向かう姿を追った番組だった。小さなラジオ局を取り上げたこと自体が復興の励みになるのではないかと思った。
- 7月8日(金)付けの新聞に、アナログ放送のカウントダウンスーパーへの苦情が1週間で1万7,600件にも及んだことが掲載されていた。スーパーの文字が大きく、番組が台なしになるので苦情が多かったのだろうと思ったが、アナログ放送終了を知らしめる使命の一方で、もっと視聴者の立場も考えてもらいたいと思った。
- 7月8日(金)のあさイチ「プレミアムトーク 成宮寛貴」は、俳優として活躍する成宮寛貴さんの魅力と謎の素顔に迫るプレミアムトークが中心の内容だった。極貧の中で両親を亡くし、中学卒業後にアルバイトをしながら俳優になった生い立ちから現

在の活躍ぶりまでたっぷりと紹介され、久しぶりにさわやかな番組を見た。

- 7月9日(土)の「NHK海外ネットワーク」では、かつて20年以上も内戦が続いたスーダンにおいて、国家として独立する南スーダンの誕生を祝う様子や遅れるインフラ整備、国家を担う人材不足の状況などを報告した番組だった。国家誕生の瞬間を伝えるのは放送だからこそできることで、独立の息吹や熱気が伝えられ、非常によい内容だと思った。
- 7月10日(日)のサキどり↑「夏が来た!“節電術”大特集」は、電気をほとんど使わないエアコンや、ゴーヤを使った“緑のカーテン”の効果的な作り方など、さまざまな節電術を紹介する番組だった。今の時勢に合った内容で、短期間のうちに取材して作り上げていく制作力に驚いた。
- 7月10日(日)のNHKスペシャル 東日本大震災「“世界最大”の液状化」は、震災の液状化現象によって世界最大ともいわれる被害が出た地域において、震災から4か月でわかった新事実をもとに、液状化に備えるためにいま何が必要かを探った番組だった。初めて知ることが多く、NHKならではの取材だと感じた。
- 7月13日(水)のクローズアップ現代「検証 自衛隊 史上最大の災害派遣」は、被災地での活動で存在感を増した自衛隊が機能不全に陥った市町村の役割を補い、原発事故では想定にない任務も行うなど、“史上最大の災害派遣”となった舞台裏を検証する番組だった。自衛隊の活動が非常に細かく紹介され、改めて勉強させられた。
- 7月13日(水)のためしてガッテン「血液からツヨくなる!熱中症で死ぬもんかSP」は、常識を覆す本当の熱中症対策を特集したもので、新しい知識をもらったような気がした。
- 7月13日(水)のたけしアート☆ビート「平田暁夫」は、モード界の先駆者である帽子デザイナーの平田暁夫さんをビートたけしさんが訪ね、自由な発想で新しい帽子の世界を切り開き続けている秘密を探り出す内容で、帽子の魅力と手間のかかる製作工程をかいま見ることができた。
- 7月15日(金)の特報フロンティア「炭坑(ヤマ)が“世界の記憶”になった～山本作兵衛の記録画～」は、日本で初めてユネスコの記憶遺産に選ばれた福岡県筑豊の

炭坑夫・山本作兵衛が描いた記録画が、なぜ“世界の記憶”になったのか、その理由に迫る番組だった。これを機会に、文化遺産などの特集番組だけではなく、記憶遺産に関する番組を制作してほしい。

- 特報フロンティア「炭坑(ヤマ)が“世界の記憶”になった～山本作兵衛の記録画～」は、住んでいる筑豊地方の話題ということもあり興味深く見た。山本作兵衛の記録画よりも前に、筑豊の炭鉱遺跡群自体が世界遺産の登録を目指していた時期があっただけに、記録画が登録されたことを意外に思った人も多いのではないだろうか。
- 7月15日(金)のきん☆すた「九州熱中学園 めざせ島一番！闘牛にかける青春～鹿児島県徳之島～」は、闘牛に青春をかける高校生の姿を追った番組で、素朴な若者に好感を持てる内容で、ほほえましく感じた。
- 7月16日(土)の「生中継 祇園祭宵山～京都が一番熱い夜～」(総合 後7:30～8:43)は、京都・祇園祭の豪華な装飾品、独特のリズムの祇園囃子など、最高潮を迎えた宵山のにぎわいを生中継で伝える番組だった。祇園祭を満喫することができ、NHKならではの番組だと思った。
- 7月18日(月)の「大科学実験スペシャル やってみなくちやわからない！」(総合 後7:30～8:43)は、時速140キロで引く巨大テーブルクロスや、ラクダが卵の上に乗る内容など、やってみなければわからないスケールの大きな実験に挑戦する番組で、とても興味深かった。
- 7月20日(水)のためしてガッテン「門外不出！料亭おかゆ 秘技・奥義一挙大公開」は、家庭でおいしいおかゆを作る方法を紹介する内容で、冷めてもおいしいおかゆの作り方を知るとともに、常識を打ち破ることが紹介され、非常にためになった。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局



## 平成23年6月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

6月のNHK九州地方放送番組審議会は、16日（木）、NHK福岡放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「国内放送番組の種別の基準」と、平成23年度国内放送番組および九州地方向け地域放送番組の「番組の種別」について説明があった。

続いて、事前に視聴した、きん☆すた「びっくり仰天！九州沖縄のイチバン大集合」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、7月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （(株) 西日本新聞社論説委員長）         |
| 委員   | 内柴 正人 | （九州看護福祉大学客員教授）            |
|      | 鈴田 滋人 | （染織作家・重要無形文化財保持者）         |
|      | 竹井 成美 | （宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長） |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 原田 緑  | （(株) 七尾製菓代表取締役専務）         |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

<きん☆すた「びっくり仰天！九州沖縄のイチバン大集合」

（5月20日（金）総合 後8:00～8:43 福岡局・佐賀局制作）について>

- 九州沖縄のイチバンにこだわり、各地の珍しい風景や人々を地元リポーターたちが体当たりで伝える生放送番組だった。内容は、熊本県美里町の“日本一の石段”がある寺、福岡県太宰府市に住む96歳の“日本一強いおじいさん”、“800体のえびす像”がある佐賀県佐賀市、東日本大震災の“市民ボランティア”の四部構成だった。イチバンの話が続いた後に“市民ボランティア”の話が入った点が異様に感じるとともに、付け足されたような印象があった。
- 番組の種別としては、住んでいる方々を紹介する教養的な要素もあれば、“九州沖縄のイチバン”を知らせるといった報道の要素もあった。

- “日本一の石段”のコーナーで訪れた寺は、下着を持っていけば判を押してもらえる寺で、下着としてブリーフを取り上げていたが、肌着でもよかったのではないかと、ややデリカシーに欠ける内容だったのではないかと思った。
- 九州の元気を見せる番組としてよかったと思うが、内容が多すぎるのではないだろうか。“日本一の石段”を紹介したコーナーでは、寺の歴史的な背景を知りたかった。また、“日本一のおじいさん”では、96歳の方がボウリングの達人で活躍している姿を見て元気をもらうことができた。“800体のえびす像”のコーナーでは新人リポーターのキャラクターが非常におもしろかったが、えびす像自体についてもっと深く知りたいと思った。
- 前出のコーナーに対して、“市民ボランティア”の部分が浮いているように見えてしまった。番組の最後に「小さな学校大きな夢」という子どもたちが絵を持って夢を語るコーナーがあるが、手作り感や温かみがあってよかった。
- 「きん☆すた」は九州沖縄という広い地域を毎回違った視点で紹介していると感じているが、今回の番組は、2部構成にして1つのコーナーをもう少し掘り下げたほうがよいのではないかと思った。“日本一の石段”のある寺では、8世紀に開山した由緒ある寺で、下着に判をもらえばなぜ三途の川を安心して渡ることができるのかを知りたかった。石段を通した人生訓を語った案内人の夫婦は適任で、頂上までの高さが東京スカイツリーとほぼ同じであることにも驚いた。それだけに、このテーマをもっと掘り下げてほしかった。
- “日本一強いおじいさん”のコーナーでは、一緒に登場した81歳の男性ボウラーにとって、96歳の方があこがれの人であることに感銘した。元気の秘けつとして、昼寝と若者と交流することを挙げられたが、6月12日(日)のNHKスペシャル「あなたの寿命は延ばせる～発見！長寿遺伝子～」で、寿命を延ばすサーチュイン遺伝子は粗食によって発動するものであると言われていたこともあり、この方の食事についても知りたいと思った。
- 全体を通しては、それぞれのコーナーに登場するレポーターが好感を持てる人ばかりでよかった。また、“市民ボランティア”については、震災関連以外の番組で取り上げたことで、より多くの人が存在を知ることができたのではないだろうか。福岡から現地へ行くまでの費用や時間など具体的な情報を知ることができ、ボランティアの原点が心の中にすっと入ってきた。

- “800 体のえびす像”のコーナーでは、佐賀市内に数多くのえびす像があることを知ることができたのは有意義で、今後えびす像を巡る旅に出かけてみたいと思った。
- 熊本県が細川護熙知事時代に“日本一運動”に取り組み、その代表格として美里町（旧中央町）に“日本一の石段”が誕生したのは知っていたが、映像として見たのは初めてで非常に感慨深かった。
- “日本一強いおじいさん”では、ボウリングのピンをひもでつるしている昔の珍しい映像が効果的に挿入され、番組により深みが出ていたと感じた。
- “800 体のえびす像”は観光素材として非常によいのではないかと思ったが、広報があまり行き届いていないようで、積極的に売り出すべきだと感じた。
- この番組は、地域の魅力を再発見する番組としてもよいのではないかと思った。九州には興味深いものが多い。NHKのネットワークを生かして、各地のユニークなものをこれからも発掘してほしい。
- 番組全体を通して、手作り感や進行の穏やかさに好感を持つことができ、司会やゲスト、リポーターなど全員が自然体で出演しているように感じられてよかった。また、取材者の表には出てこない真剣さや心意気が感じられた。認知度はこれから伸ばしていくのだと思うが、大事に育ててほしい番組だと思った。
- 単純に娯楽番組として見ればおもしろかったと思うが、“イチバン”の定義が各コーナーともバラバラであったため、違和感が付きまとってしまった。“日本一の石段”のコーナーでは、スタジオトークのまとめが下着に判を押す話になってしまい、石段の数が日本一でお参りが大変だという本質から離れてしまったと感じた。また、“800 体のえびす像”の話は興味深く、もう少し早く知っていればと感じさせるほどの素材だったが、宝くじが外れたことがトークのまとめになっていて本質から離れてしまい、肩すかしにあったような印象を受けてしまった。一つ一つのエピソードはおもしろいが、全体として伝えなかったことがわからなくて、少し残念だった。
- コーナーのテーマをそれぞれ挙げるとすれば、“日本一の石段”はふるさと自慢、“日本一強いおじいさん”は健康長寿、“800 体のえびす像”はえびすの富だと感じた。最後の“市民ボランティア”のコーナーは、それまでの流れからすれば確かに違和感があるが、あえて盛り込んでいるのだと思った。

- リポーターの1人に韓国出身のタレントを起用したことは、若者や韓流ドラマのファンをつかむためや、韓国人の視点を導入するためだと思った。これによって、アジアを身近に感じられる雰囲気を作ったり、アジアのパワーを取り込んだりするねらいがあったのではないだろうか。また、キャラクターがいわゆる“天然”の新人女性リポーターも起用していたが、比較的真面目なえびす像の話題だったので、“天然”キャラの人をあえて真面目なネタに当てたのだろうと感じた。いずれもリポーターの起用が効果的だと思った。
- この番組は、NHKだからこそ制作できる番組だと思った。例えば、3,333段もある“日本一の石段”を広く知らしめることができたのは有意義であると感じた。地域住民のアイデンティティーの醸成という役割を担うためにも、ふるさと自慢や地域再発見の番組として独立させてもよいのではないだろうか。また、“日本一強いおじいさん”のコーナーでは、96歳になっても尺八やボウリングに励む姿を見て、私もあと40年頑張ろうという気持ちになった。以前放送されていた「百歳バンザイ！」とは違った視点の内容だと思った。
- ところで、大学で教えている学生72人にこの番組を視聴してもらいアンケートを取った結果、実際に見たことがある学生は誰もいなかったが、番組を知っていたのが5人で、いずれも地下鉄などの広告を見て知ったということだった。また、視聴した学生のうち、4分の3がおもしろくないと回答したのだが、これは番組の中に若者向けの素材がないことが理由ではないだろうか。素材の中に流行のコンテンツを加えれば、若者に振り向いてもらえるのではないかと思った。
- “市民ボランティア”の話題は非常に興味深く、もっと詳しく知りたいと思った。
- “日本一の石段”は子どものころに登ったことがあるが、そこに寺があることは知らなかった。石段の数が日本一なので、寺の御利益は“必勝祈願”だと思ったが、“長寿”であって少し残念だった。“必勝祈願”の要素があれば、部活動で指導している学生を連れてきてお参りさせたいと思ったが、石段を日々登ることも部活動も続けることも、ともに大事であると番組を見て改めて感じた。
- 肩ひじを張らずに、楽しみながら視聴する番組だと思った。ただし、オープニングのVTRでコーナーすべてを紹介してしまうとネタを明かしてしまうことになるので、慎重に取り扱ったほうがよい。そうそうたるスタジオ出演者も使いながら、引き付けられるような工夫をしてほしい。

- “800 体のえびす像”のコーナーでは、住民が皆えびす像に感謝をしていることが驚きで、改めて勉強させられた。コーナーそれぞれにオチがあり、詳しい解説も加えられていて、おもしろい番組だと思った。
- “市民ボランティア”のコーナーは、それまでの流れと比較すると異質であると感じるが、九州各県から被災地に向かうボランティアについて、一つの番組として制作すればよいのではないだろうか。
- ゲストとして美容家の I K K O さんが出演していたが、NHKも民放も、最近のテレビ番組では、I K K O さんのようなキャラクターを持つタレントが出演している番組が多く、個人的にはあまり好きではない。
- 日本一というくくりで、さまざまな場所や人が特集されているが、特に感動や驚き、喜びを感じさせる演出になっていないと思った。3,333 段もある石段は確かにすごく、東京スカイツリーとほぼ同じ高さであることには感心したが、どのような目的で作られたのか詳しく説明してほしかった。また、三途の川を渡る際に、“奪衣婆（だつえば）”という下着を奪う神がいるといわれることは初めて知ったが、その神についておもしろおかしく番組で取り上げてほしかった。コーナーの最後で、長崎に 8,888 段の木製階段があると紹介していたが、それとの比較も盛り込めばよりよい内容になったのではないだろうか。
- “日本一強いおじいさん”のコーナーでは、超人的なボウリングの腕を身につけるために行った鍛錬や努力を見たかった。また、“800 体のえびす像”のコーナーの内容は通りいっぺんの情報で、あまり印象に残らなかった。最後に取り上げられた“市民ボランティア”のコーナーは、脈略のないまま始まったが、興味本位のボランティア参加であれば、被災地にとってはありがたい迷惑なのではないかと思った。
- 日頃の心の負担を吹き飛ばすような楽しい特集だと思った。オープニングの紹介 V T R を見るだけで期待感が高まり、ゲストもおなじみの I K K O さんで、気持ちを開放できそうな番組になるのではないかと感じられた。
- 最後に“市民ボランティア”の話となり、スタジオ全員の笑顔が消え、硬直したような雰囲気になってしまい、番組の始まりと終わりで全く違う気持ちを抱いてしまった。“九州沖縄のイチバン”と“市民ボランティア”は別の番組にしたほうがよかったのではないかと思った。

- “日本一の石段”は、高齢者の健康維持にも石段が利用されていて、高齢者が関心を持つような場面が多かったと思った。“奪衣婆”の話はおもしろく、階段数の話題だけで終わらなかった点がよかった。
- “日本一強いおじいさん”のコーナーは、高齢者にとっては勇気をもらえるような気持ちになったのではないだろうか。また、リポーターが韓国出身のタレントで、流ちょうな日本語と様になっているリポーター姿に感心した。
- “800体のえびす像”は、新人リポーターの爽やかな表情と予測できない話し方が新鮮でおもしろかった。スタジオでの宝くじ当選発表は盛り上がり、大いに気持ちが開放された。

#### <放送番組一般について>

- 私は、地域に根づいたNHKの広範囲な取材力を動員して、一芸に通じた人の紹介番組を制作してほしいと常々思っている。有名人の伝記や偉人伝などと異なり、市井に生きる人々の市民力や民衆力を発信して、大震災で落ち込んでいる人々を元気にして、地域を激励してほしい。
- アイドルグループのAKB48のメンバーが司会を務めている「カケダセ！」は、10代後半を中心としたリスナーを応援するラジオ番組だった。若い人たちが聞いているのだと思うが、私たちが聞くと、どうしても発音や話し方が気になってしまう。美しい日本語を伝えられるような番組をぜひ制作してほしい。
- 「NHKニュース おはよう日本」の中で午前7時45分から県内と九州・沖縄地方のニュースがあるが、福岡局の看板アナウンサーの野村正育さんが担当すればこの時間帯の視聴率はもっと高くなるのではないだろうか。また、野村さんに若手アナウンサーの指導をしてもらって、語る力を向上させてもらいたい。
- 震災関連番組では、今後の復興への道筋について語られることが多いが、子どもに希望を持たせてどのように守っていくかという面にも焦点を当ててほしい。被災地の子どもたちを救済するような取り組みが九州でも始まっていると思うが、そのような取り組みがあればぜひ紹介してほしいと思った。

- ラジオ第2放送の「気象通報」は、気象庁予報部が発表した日本全国各地と周辺近隣諸国主要都市の天気や気温、船舶からの天気、漁業気象概況などを発表する番組である。天気や気温のコーナーでは、まず日本国内を紹介した後、サハリン、韓国、台湾、中国などを紹介して、フィリピンのラワグまで紹介する。ラワグの気象通報を知りたいと思う人は、ほとんどいないのではないだろうか。なぜ今も続けているのかがとても不思議に思った。
- 世界記憶遺産に登録されることになった炭坑画家・山本作兵衛さんの記録画について、NHKの番組でも早く取り上げてほしい。
- 来年は長崎大水害から30年目の節目の年である。およそ300人が亡くなるという大災害だったが、30年も経てば記憶はどんどん薄れてしまう。節目にきちんと報道していくのは非常に大事だと思うので、来年には、全国または九州・沖縄向けの放送で長崎大水害を振り返る番組を制作してほしい。
- 5月20日(金)の特報フロンティア「子どもたちに夢を～東日本大震災 医師の格闘～」には、子どもたちに夢を与えるべく北九州市の医師が被災地で奮闘する姿が描かれていて、とても興味深く感じた。
- 5月21日(土)の「おはようサタデー九州沖縄」の“サタデートーク”は、鹿児島県奄美大島出身の歌手・中孝介さんと元ちとせさんへのインタビューで、2人が結成したユニットの紹介や、音楽への情熱やふるさとへの思いを聞くコーナーだった。島唄は自分で作り上げていくもので、先生の指導のとおり歌うのが島唄ではないという視点が新鮮だった。教育とは先生の模倣から始まると思っているので、違う世界をかいま見た気がした。また、東京や大阪のコンサート会場よりも、島で歌うときのほうが緊張すると言われていたのには驚いた。
- 5月21日(土)に再放送された旅のチカラ「家族の厨(ちゅう)房 再生のレシピ～中国 北京 狐野扶実子～」(BSプレミアム 前7:45～8:42)は、料理プロデューサー狐野扶実子さんが北京の隠れ家レストランに受け継がれる西太后レシピを求めて旅をする番組だった。番組構成自体は魅力的には思えなかったが、西太后の料理を出している店があることは非常に興味深かった。いわゆる田舎町のレストランだったが、とても新鮮な感覚で心に残った。

- 5月22日(日)のNHKスペシャル「クジラと生きる」は、400年以上も前から鯨を糧に生きてきた和歌山県太地町に、海外の反捕鯨団体が常駐し、いわば国際紛争といえるものの舞台と化した模様や、異なる価値観を前に揺れる人々の半年を見つめた内容だった。反捕鯨団体の人たちを反感を覚えたが、番組の中ではそのような表現が出てこなかった。クジラと日本の食の文化の面を取り上げて、問題点をもう少し掘り下げればよかったのではないかと思っただが、非常に考えさせられる番組だった。
- 5月23日(月)の近代中国に君臨した女たち「西太后 王朝の幕を閉じた“悪女”」(BSプレミアム 後7:30~9:00)は、清王朝末期に半世紀にわたって君臨した西太后の人生に迫った番組だった。西太后の権力を誇示する上での策略はあるが、肖像画を世に出すときに、自分の絵はカラーであるのに対して、息子の光緒帝は白黒で出したというところがおもしろく感じられた。また、西太后の最期の言葉の中に“二度と女性に国の政治を取らせてはならない”というくだりがあるが、その意味をゲストがそれぞれ解釈していて興味深かった。西太后が主人公の「蒼穹の昴」というドラマがあり、史実に基づき西太后の実像に迫るこのような番組があり、いろいろな視点から西太后を取り上げられてよかった。
- 5月28日(土)の週刊 ニュース深読み「主婦の年金 それで結局どうなるの？」では、年金制度の見直しについて取り上げられていた。知識を増やすだけでなく、女性として老後の年金を考える機会にもなり、とても意味のある内容だった。
- 5月29日(日)に再放送されたNHKスペシャル ホットスポット 最後の楽園 第4回「ニュージーランド 飛べない鳥たちの王国」(総合 後4:40~5:29)は、ニュージーランドではかつて島のほとんどが水没し生物は一掃されたという説が近年発表され、飛べない鳥がどう生き延びてきたかという謎に迫る番組だった。なかなか行くことができないような場所が舞台で、非常におもしろかった。
- 6月3日(金)の特報フロンティア「もういちど あの山の下で~大野木場小学校卒業生たちの20年~」は、1991(平成3)年6月の雲仙・普賢岳大火砕流で被害にあった小学6年生たちの20年を、当時のインタビューや映像を交えて追った番組だった。普賢岳に目をそらさずに地元で生きてきた人や、一度は山から離れたが再びこの地で生きようとする人たちなど、さまざまな20年が描かれ、災害の恐ろしさと希望を見せてくれたような気がした。



- 6月3日(金)のASIAN PASSION～アジアを駆ける日本人～「幸せの国のサッカー～ブータン代表の日本人監督～」(総合 後8:00～8:43 九州・沖縄ブロック)は、ヒマラヤの小さな王国ブータンのサッカー代表監督に就任した、Jリーグ・大分トリニータの元コーチ・松山博明さんの奮闘を追った番組だった。経済活動よりも、ゆとりを持った生活の中に幸せを追求するという国民性もあり、選手を鍛えていくこと自体が難しい中で、松山監督が生きがいを見出して、じっくり選手を育てていく様子がよく描かれていた。日本を理解してもらうためには、政治面の交流よりも、このようなスポーツや文化面での交流がより効果的だと思う。日本がアジアに理解されるためにも、九州・沖縄地方だけではなく、全国で放送する価値がある番組だと思った。
- 6月4日(土)のドキュメンタリードラマ「1991 雲仙・普賢岳～避難勧告を継続せよ～」(総合 後9:30～10:44)は、20年前の雲仙・普賢岳大火砕流の際に何が起こったのかを、当時の映像や当事者たちの証言をもとに再現したドラマだった。大火砕流の経験がなかった当時の研究者や防災担当者の苦悩があり、未経験の災害への住民の戸惑いを感じとることができた。また、忘れたころにやってくる自然災害への防災体制を構築する課題を再認識し、災害の種類こそ違おうが、大震災の津波という災害にも共通する問題で、考えさせられる番組だと思った。
- ドキュメンタリードラマ「1991 雲仙・普賢岳～避難勧告を継続せよ～」は、私も興味深く見た。ドキュメンタリードラマというスタイルで、実際のニュース映像を使った検証ドキュメントと再現ドラマで構成され、記録映像の迫真性と劇的な展開が一緒になっていて、非常によい番組だった。大火砕流によって43人が亡くなり、NHKをはじめ多くの報道関係者も含まれていたが、報道機関の使命と安全管理を含めた取材のあり方を見直す大きな転換点だったというナレーションがあり、今の大震災の取材のあり方にも直結する話だと思った。また、ドラマの中で、大きなテーマになっているのが避難勧告と解除をめぐる葛藤だったが、当時の島原市長の鐘ヶ江管一さんと九州大学地震火山観測所所長の太田一也さんを中心として、非常に苦悩しながら、一部を解除していく様子がよくわかった。
- 6月4日(土)の佐野元春のザ・ソングライターズ「トータス松本 Part 1」は、歌手の佐野元春さんが聞き手となって、ソングライターをゲストに招いて対談を行う番組で、ウルフルズのボーカル・トータス松本さんがゲストであった。ウルフルズの名曲「ガッツだぜ!!」は、実は外国曲から連想して作られたものであることを初め

て知った。

- 6月5日(日)のNHKスペシャル シリーズ 原発危機 第1回「事故はなぜ深刻化したのか」(総合 後9:00~9:58)は、危機的な状況が続く東京電力福島第一原発事故の事態はどのように深刻化し、官邸、東京電力、専門家はどう動いたのかを、当事者たちの証言と内部資料をもとに検証する番組だった。震災発生直後、原発に関する報道が少なかったのではないかと思い、原発のそばに住む地域の人たちが正確な情報を得られなかった悲しさを感じた。
- NHKスペシャル シリーズ 原発危機 第1回「事故はなぜ深刻化したのか」は、官邸や原子力安全・保安院、原子力安全委員会や東京電力の現場との情報伝達が円滑にできなかった5日間の混乱と戸惑いが時系列で紹介されていて、とても興味深く、緊張感を持って見た。
- 6月6日(月)から始まった「チャレンジ! ホビー 馬で大地を駆け抜きたい!」は、初心者向けに乗馬の基本的なテクニックを教え、馬場の外に出て草原を走る“外乗”に挑戦する全4回のシリーズの番組で、チャレンジャーは俳優の永井大さん、講師は元オリンピック代表コーチの石黒建吉さんだった。講師の石黒さんは何もしなくても馬のすべてがわかる人で、素晴らしい人を解説者として人選したと思った。
- 6月7日(火)のドラマ10 下流の宴(2)「崖っぷちの母」は、理想の家庭を築いたはずが“中流”から“下流”に転落する崖っぷちに立たされる専業主婦の戦いを描いたドラマだった。今の若者と親世代とのやり取りの中で、親から見れば若者の姿が異星人に見えてしまう点には共感するものがあった。また、重要な役どころとして沖縄出身の女の子が登場するが、沖縄の発音やイントネーション、暮らしがよく描かれていて、沖縄の人間として納得することができた。
- 6月10日(金)の特報フロンティア「新燃岳 土石流災害を防げ」では、新燃岳の土石流災害に備えた高齢者向けの対策が大事であることが描かれていた。また、6月11日(土)の週刊 ニュース深読み「津波からどう逃げる? 100年後にも伝えたい防災意識」は、震災後に全国の自治体で見直しが行われている避難計画について伝える番組だった。今後課題を考えていく上で、これらの番組は大変興味深かった。

- 6月10日(金)の「きたきゅうのうた」(総合 後7:30~8:43 北九州地方)は、北九州局開局80周年記念事業として行われた北九州市を題材にした歌の最終公開選考の様相を収録した番組だった。100曲以上の応募から書類選考された7曲から「きたきゅうのうた」を選ぶもので、7組の参加者は、渋みのある中年男性や地元で活動している音楽グループ、高校生、親子などさまざまだった。歌の内容も、北九州のシンボルである若戸大橋や関門橋、平尾台、旦過市場、市の花であるヒマワリ、最近人気の夜景スポットである工場群など、地元に基づいたものばかりだった。それぞれの曲の前には、歌にまつわる地域や思いなどを紹介する映像があり、北九州を存分に満喫することができて、北九州人ではよかったと思えるほどよくできた番組だと思った。ただし、司会の男性アナウンサーと女性キャスターの服装がアンバランスであるのが少し残念だった。
- 6月11日(土)のNHKスペシャル 東日本大震災 第2部「“製造業王国” 東北は立ち直れるか」(総合 後9:00~10:13)は、震災で被害を受けた製造業立て直しの課題は何か、克服するためには何か必要なのか、東北の現場取材から探っていく番組だった。半導体を中心に東北が日本や世界の製造業を支えてきた歴史と現状が紹介され、次の希望として、次世代蛍光灯へさまざまな人たちがチャレンジする様子が描かれていて興味深かった。また、官邸や現場、スタジオの三元中継で復興が進まない理由を討論していたが、今考えなければならないことが取り上げられ、震災発生から3か月後に、現状がきちんと描かれた番組が放送されたことは意義深いと思った。
- 6月13日(月)のディーピープル「人型ロボット開発者」は、日本をリードする3人の人型ロボット開発者がトークバトルを展開する番組だった。以前放送されていた「プロジェクトX 挑戦者たち」や「プロフェッショナル 仕事の流儀」では、一組織やある人物の活躍に焦点を当てていたが、「ディーピープル」では、その道の3人の専門家による論戦でとても新鮮に感じられた。今回は、2人の専門家の意見の対立が予測不能な展開で、緊張感があり番組としてはおもしろいと思ったが、それと同時に本音で語る難しさを感じた。また、スタジオ司会の関根勤さんがVTRの間にコメントを出すのが、それが雰囲気や和らげる作用があり、非常によいと思った。むしろ3人のトークの中にも司会者がいて、話を引き出す働きをしたほうがよいのではないかと感じた。
- 6月13日(月)に再放送されたNHKスペシャル シリーズ 原発危機 第1回

「事故はなぜ深刻化したのか」（総合 前1:30～2:30）は、東京電力の内部資料や関係者の証言などが次々と紹介され、衝撃的な事実が明るみになり、非常に驚いた。事故発生から3か月が経ったが、まだ収束していない中で、経済界を中心に原発必要論も飛び出すような事態になっていることに危機感を覚えた。単に情報としてだけでなく、記録としても残していく必要があり、今後も取材を継続してこのような番組を放送してほしい。

- 6月14日（火）のクローズアップ現代「原発事故と日米同盟」は、原発事故の初動対応を巡り、日本に対する米国の不信が高まっていた日米外交交渉の舞台裏に迫る内容だった。アメリカの原子力規制委員会（NRC）の安全管理に関する権限の強さと日本の弱さがクローズアップされていて、とても興味深かった。また、番組を通して震災直後の福島第一原発の現場を知ることができてよかった。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成23年5月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

5月のNHK九州地方放送番組審議会は、19日（木）、NHK福岡放送局において、11人の委員が出席して開かれた。

会議では、事前に視聴した、きん☆すた「スター☆にしきの そこに島があるかぎり～長崎県小値賀島～」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、6月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （(株)西日本新聞社論説委員長）          |
| 委員   | 内柴 正人 | （九州看護福祉大学客員教授）            |
|      | 下竹原啓高 | （(株)指宿白水館代表取締役社長）         |
|      | 鈴田 滋人 | （染織作家・重要無形文化財保持者）         |
|      | 竹井 成美 | （宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長） |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 原田 緑  | （(株)七尾製菓代表取締役専務）          |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 古野 隆雄 | （農家）                      |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

<きん☆すた「スター☆にしきの そこに島があるかぎり～長崎県小値賀島～」

（4月22日（金）総合 後8:00～8:43 福岡局・NHKプラネット九州支社制作）

について>

- 島で流れる時間や住む人の優しさ、美しさを感じることができて、心がほっとする番組だった。「鶴瓶の家族に乾杯」と内容が少し重なるので、そこがもったいないと思うが、ふだんあまり見ることができない離島を取り上げるのはよいと思った。スタジオのデザインが明るくて若々しく、気持ちを豊かにさせるような番組だったのではないかと思った。
- 小値賀島に住む家族や世代間の温かいつながりを感じることができる番組で、アポなしの訪問が奏功していると思った。錦野旦さんの「空に太陽がある限り」が流行し

た当時は高度経済成長期で、登場した島の人たちも若かった。最後に錦野さんが歌ったコンサートでは島の人たちが当時を思い出すかのように喜んでいて非常によい雰囲気だった。離島といえば、美しい風景や名物などが強調されるが、この番組ではそこに住む人との普通のふれあいが描かれていてよかった。

- バラエティー番組としては家族そろって楽しめる内容だと思うが、紀行番組としては、途中から見ると離島であることがわからなくなるような構成で残念であった。アポなしの旅であるということだが、最後のコンサートは仕込みが必要だと思うので、やや違和感があった。また、スターの訪問に驚く住民の反応が、いわゆるお決まりのパターンの繰り返しで、見ていてしらけてしまう感じであった。
- 小値賀町では最近、古民家の再生やアイランドツーリズムに力を入れていて、“長崎の教会群とキリスト教関連遺産”の一つである旧野首教会などもあり、小さな町ではあるがいろいろな話題がある。しかし、この番組では、そういった話題性のあるものが登場せず、小値賀らしさをどこに求めたのか疑問に思った。
- 「きん☆すた」のねらいとして、家族そろって楽しめるバラエティー的な要素を追求しているのか、それとも、昨年度までの「九州沖縄スペシャル」で放送していた硬派な要素をめざすのか、今のところはっきりしないと感じている。
- 司会のガレッジセールに親しみと好感を持つことができる和気あいあいとした番組だった。しかし、今回の企画は錦野さんの個性によって成り立ったものだと感じた。今後続けていけば「鶴瓶の家族に乾杯」のように多くの人から愛される番組になるのではないかと思う。
- アポなしと言いながらも現地でのコンサートはどのようにしてできたのか疑問に思った。コンサートを開くために地元の方々と交渉している場面も見せてくれると、本当にアポなしであることが実感できたのではないだろうか。
- 番組の最後の小学生が将来の夢を絵に書いて見せるVTRは、子どもたちの元気とキラキラとした希望を感じることができてよかった。
- 番組の内容を目次のようにして紹介したオープニングVTRは、全体の流れを知ることができてよかった。また、現地の食べ物を錦野さんがおいしそうに食べていた場面が印象に残り、自分も食べてみたいという気にさせられた。

- 島の女性たちの気の利いた発言が印象に残った。アドリブだと思うが、表現力はどのようにして培われたものかを知りたいと思った。高校のソフトテニス部の生徒との会話もおもしろく、島の子どもたちにカルチャーショックを感じるほどだった。いかに住みやすい島であるかを理解することができて、今後島を訪れる人が増えるなどの経済効果が期待できるのではないかと思った。
- 島での生活に誇りを持って暮らしている人たちを見ることができて心の底から癒やされた。島を離れる校長先生を慕って別れの際に海に飛び込む中学生の姿や、素朴な島の人の気持ちが伝わってきて、すばらしい番組だと思った。かつての大スターが島に来たということで、人を集めなくても一日のうちに口コミで情報が広がって、コンサートにも多くの人が集まったことは理解できた。東京一極集中で都会を見て暮らしている人が多い中で、田舎再発見という観点から捉えれば、非常によい番組だった。
- 利益や利便性だけではない“本当の豊かさとは何か”を考えるうえで、東日本大震災後のタイミングで島の人々の生活を紹介するこのような番組を放送することはよいと思った。錦野さんと島という組み合わせも非常に合っていて、今後シリーズとして続けていくうえで、どの島を訪問するかが成功の要因になると感じた。何度も放送することで視聴者の脳裏に焼きつき、定着してくればよいと思うが、一方でアポなしで突然訪問することがパターン化されて、新鮮さや驚きを保っていけるかどうか心配である。
- 「鶴瓶の家族に乾杯」の九州版であると思った。アポなし訪問であるので、編集のしかたによって視聴者を引き付けることができるかが決まるのではないだろうか。今回は島の食べ物や牛が道路を歩く姿などがのどかで印象には残ったが、全体を通した大きなテーマがあればよいのではないかと感じた。
- 番組の最後に小学生が将来の夢を書いて見せるVTRでは、一般的にありがちな“スポーツ選手”や“先生”などが出てきた。島ならではの“漁師”や“畜産業”などが出てくるのかと期待していただけに、目立った地域性がないことが少し残念だった。今後、「スター☆にしきの そこに島があるかぎり」の企画を放送する際には、訪れた島の小学校の授業の様子も紹介してほしい。
- 全国放送にも「小さな旅」や「こんなステキなにつぼんが」などさまざまな旅番組があるが、主人公が訪れる際には“アポなし”や“人を集める”という演出手法がある。「スター☆にしきの そこに島があるかぎり」でも、このような要素を入れて作られているのだろうと感じた。また、訪問するのが有名人であることで、訪問先の人

たちは驚き、いろいろなおもてなしをしてくれる。さらに、同じ旅番組ではあるが、NHKと民放とでは手法がどう違うのかなど、興味深い面が多くあった。

- 地域で頑張る人たちへの応援歌のような番組だった。見たら元気になるような内容で、それが制作意図の一つであったとも感じた。
- 大学の学生にもこの番組を見せたが、実際に放送を見たのは誰もおらず、同種の番組を見るかという質問に対して見ると答えたのは僅かだった。男女問わず幅広い世代の人たちに見てもらいたいと考えるのであれば、若者にどう見せるかを工夫していく必要があると感じた。個性のある芸能人が気ままに離島を旅するという設定の中で、若者の胸をときめかせるようなメッセージがあればよいのではないだろうか。離島ならではの要素を訴えて、若者を島に向かわせるようなメッセージがあってほしいと思った。
- このような旅番組を見る際に、おいしいそうな食べ物が紹介されたらメモをしたり写真を撮ったりして、実際に現地に行ったりインターネットで取り寄せたりしている。今回も小値賀島の人たちがふだんのようなものを食べているのかをもっと知りたかった。今後、行ってみたいと思わせてくれる場所を番組で見つけられたらよいと思った。
- 船で帰る際に、地元の中学校の校長先生が離任する場面に出会えたのはよかった。先生を慕った生徒が海に飛び込んだ場面など非常に盛り上がりがあり、楽しく見ることができた。
- 「鶴瓶の家族に乾杯」の九州版でも構わないと思った。かつてのスターが離島に行くことで地元が沸き、地域活性化にもつながっていくのではないだろうか。委員から出た意見も踏まえて、今後続けていってほしい。
- オープニングVTRの作り方がよく、わくわくするような演出だった。内容は、島の人の温かさや優しさが、これほど幸せな気分になれるのかということを実感させられた。また、昭和のよき時代に戻ったかのような居心地のよい場面が多かった。時間がゆっくり過ぎていく島に、突然非日常的な有名人が登場して、驚く島民の姿が印象的で、視聴者自身がそこに立ち会っているような錯覚する楽しさがあった。全体的に快適なテンポで番組が展開された。
- 錦野さんの島民目線での会話や人間味あふれる姿には、視聴者を最後まで引き付け



るものがあった。小値賀島の人たちの明るさや人なつっこさも際立っていて、錦野さんとの絶妙な掛け合いは楽しかった。別れの港の場面では、偶然にも離島する校長先生や生徒たちが海に飛び込むシーンもあり、願ってもないエンディングだったと感じた。充実感に包まれ、余韻が残り、地域を元気づける番組だと思った。

#### <放送番組一般について>

- NHKスペシャル「ホットスポット 最後の楽園」は、世界の絶滅の恐れがある珍しい生物が集中するホットスポットについて、その6か所の貴重な動植物や大自然のドラマを記録した大型シリーズ番組で、ナビゲーターが歌手の福山雅治さんで、番組が華やいでいるように感じた。しかし、映像はこれまでも見たことがあるような印象で目新しさはあまり感じられず、視聴者の期待に十分には応えられていないのではないだろうか。ナビゲーターには映像にならなかつた状況や印象を補完して語ってほしいという印象を持った。ただ、福山さんが動物の食べている木の葉を味わい感想を語るシーンは、現地の雰囲気を感じることができてよい演出だと思った。自然ドキュメンタリー番組である一方で、福山さん自身のドキュメンタリーとも捉えることができ、ファンにとっては福山さんの新たな側面を発見することができたのではないだろうか。
- 「ひるブラ」の全国各地からの中継に東京のスタジオからもう1人小窓を使ってコメンテーターを絡ませる演出は、視聴者をないがしろにしているように感じる。中継先のゲストとアナウンサー、東京のスタジオのコメンテーターの3人だけで進めている感じがあり、不満である。以前の「生中継 ふるさと一番!」の手法のように、中継だけで地域を紹介するほうがよい。なぜスタジオのコメンテーターを登場させたのか疑問に思う。
- 2人の子どもと一緒に教育テレビの「ピタゴラスイッチ」など子ども向け番組を見ることが多く、よい番組だと思っている。
- 「ほっと@アジア」は、アジアの今を早くより深く伝える番組で、「Hello@アジア」のコーナーでは、衛星中継やインターネット回線を使い、アジア各地のホットな情報を在住者が生で伝えていて、これまでにない手法だと思う。インターネット回線を使う手法を九州でも取り入れたらよいのではないだろうか。

- 震災被害を受けた東日本にNHKの機能が一極集中していることを考えると、本部機能を分散させてバックアップ体制を取り、リスト管理を早急に着手すべきだと提案したい。
- 4月21日(木)・28日(木)に前後編で再放送されたサイエンスZERO「人工知能がクイズ王に挑戦!“ワトソン”誕生」は、アメリカで人気のクイズ番組で人間のチャンピオンに勝利したコンピュータ“ワトソン”について、人工知能誕生までの試行錯誤を追った番組だった。以前、コンピュータがチェスで人間に勝った話題は知っていたが、さまざまな知能が必要となるクイズで人間に勝ったことに技術の驚異的な進歩を感じた。また、人工知能の発展が進むほど、人間が勉強をしなくなるのではないかという恐れも生まれ、大きな問題提起をしたと感じた。
- 4月22日(金)の特報フロンティア「なぜ“SOS”は届かなかったのか～口てい疫・感染拡大の実態～」(総合 後10:00～10:40 九州ブロック<一部地域を除く>)は、宮崎で口てい疫感染の疑いが確認されてから一年の節目に、感染拡大に至った経緯について検証する番組だった。見えないウイルスへの行政の対応の遅さ、犠牲になった牛や豚の多さ、国の防疫指針の不備、現場の声が国や県に届かないなど、東日本大震災にも共通するものを口てい疫の問題からも読み取ることができた。
- 4月22日(金)のなが☆スペ でんでらフライデー「知ってた?ちゃんぽん」(総合 後10:00～10:45 長崎県域)は、長崎県内の知られざる秘密を調査する番組で、初回は長崎名物の一つであるちゃんぽんを取り上げていた。“知られざる”とうたっているだけに、しっかりと取材され、中身が充実していて好感が持てる番組だった。週末にリラックスして気軽に見る番組としては好適で、女性アナウンサーの仕切りがよく、時間を忘れて楽しむことができた。特に印象に残ったのは、ちゃんぽんを一躍全国区に広めた大型チェーン店の鐘の秘密を紹介したコーナーで、とてもおもしろかった。ゲストのコメントも軽快で、番組イメージに沿った話が展開されたと思ったが、番組終盤に漁業不振や高齢化の問題などの深刻な話題が入ったことで、それまで楽しく進んでいたちゃんぽん談義の着地点が見えなくなったのが残念だった。
- 「若冲ミラクルワールド」(4月25日(月)～27日(水) BSプレミアム 後9:00～10:29、4月28日(木) BSプレミアム 後8:00～9:29)は、江戸時代に驚異の細密画を描いた伊藤若冲の魅力を探る番組だった。放送前から期待していたが、期待にたがわぬ内容で、これからも美術系の番組に力を入れてほしい。

- 通常の番組は複数回再放送するものもあるが、毎年4月29日に生中継している「全日本柔道選手権」（教育 後4:00～5:03、総合 5:03～5:30）の再放送がなく残念だと感じた。柔道自体が国際化して、海外では学校教育の中に柔道を取り入れる国もある中で、日本では国民の人気もなくなりつつある。民放では柔道をショーのように取り扱う放送局もあるが、NHKでは柔道家そのものにスポットを当てて、視聴者がオリンピック選手について理解できるような番組を制作してほしい。また、来年にはロンドン夏季オリンピックを控える中で、「全日本柔道選手権」などで蓄積した過去の映像を使いながら、世間一般が柔道についての知識を醸成することができるような企画を展開してほしい。
- 4月29日(金)の「完全生中継 英国ロイヤルウエディング」（BS1 後5:30～9:50）は、カメラワークがすばらしく、撮影技術の手本になるような計算しつくされた映像で構成されていたと思った。
- 4月29日(金)の「完全生中継 英国ロイヤルウエディング」（BS1 後5:30～9:50）は、英国のウィリアム王子とキャサリン・ミドルトンさんの結婚式の模様を、ウェストミンスター寺院での壮麗な式典やバッキンガム宮殿までの華やかなパレードをロンドンから完全生中継した番組だった。伝統ある英国王室の王位継承者の結婚式を見る価値はあったと思うが、4時間にもおよぶ長時間中継の必要性があったのかは疑問に思った。
- 4月29日(金)のししまるTV「大津波襲来 その時大分は…」（総合 後6:10～6:44 大分県域）は、東日本大震災を受けて大分県沿岸部12市町村に行ったアンケートをもとに、津波に対して私たちがどのような備えをするべきかを考える番組だった。その後、NHKが問題提起したことによって、行政が避難場所や避難経路の見直しを始めており、今後も啓発を続けてほしいと思った。
- 4月30日(土)深夜の「今夜も生でさだまさし - 皆のもの！連休じゃ 佐賀っでよし！ -」（総合 5月1日(日)前0:20～1:55）は、歌手のさだまさしさんが視聴者から寄せられたはがきを中心に展開しているラジオのようなテレビ番組で、この日は佐賀局からの生放送だった。今回は地元・佐賀からの放送ということもありじっくり見たが、トークを中心とした内容は新鮮で、おもしろみを感じた。また、本部と佐賀局のスタッフが一緒に生き生きと仕事をしていて、特別な空気感を生みだしており、NHKが全国に持つネットワークが生かされていると思った。

- 5月2日(月)のディープピープル「胃がんのスーパー外科医」について、私自身も腹くう鏡手術を経験したが、開腹手術との違いやそれぞれの長所・短所を知ることができた。また、出演していた3人がみんな仕事を愛し、医療機器を大切にしていることがよくわかり、ためになる番組だった。
- 5月2日(月)のディープピープル「胃がんのスーパー外科医」は、胃がんの手術で世界最高レベルの手腕を誇る名医3人が、より安全で確実な手術法について語り合う番組で、医療を受ける側の理解にもつながり大変よかった。
- 5月2日(月)のディープピープル「胃がんのスーパー外科医」は、開腹手術と腹くう鏡手術についての議論が興味深く、今後は革新的な手法である腹くう鏡手術が発展していくのではないかと思った。また、技術以外の話題も出たが、手術で心が折れそうになる中でも新しい発見があると言われたことに感銘を受けた。
- 5月3日(火)の「憲法記念日特集 大震災、そして政治は～この難局を乗り越えるために～」(総合 前10:05～11:30)は、出演した6人のコメンテーターが震災で何が問われているかをさまざまな角度から語る番組だった。興味深い内容だったが、もう少し憲法そのものについて取り上げてほしかった。新聞ではかなり細かい内容が特集されている。NHKでは震災報道にシフトしているのはわかるが、社会問題の取り上げ方が少ないと思った。
- 5月4日(水)の追跡! A to Z スペシャル「謎の国際強盗団 ピンクパンサーを追え」(総合 後6:10～6:44)は、国際強盗団ピンクパンサーについて独自に入手した捜査資料や元メンバーへの取材から謎に包まれたその実態に迫る番組だった。世界中が追っている強盗団に接触して大丈夫なのかと思うとともに、その信ぴょう性に疑問を感じたが、これまでのNHKの番組とは違う面を見ることができたと思った。番組がよい方向へむかうことを期待したい。
- 5月4日(水)の頭がしびれるテレビ「神は $\pi$ に何を隠したのか」(総合 後10:00～10:43)は、円周率“ $\pi$ ”がテーマだったが、数学のおもしろさを知ることが学校教育の場でしかないので、このような番組があるのはよいことだと思った。本当に“頭がしびれる”番組だった。

- 5月5日(木)「別冊 あさいち おいしい闘技場決勝大会」(総合 前8:15~9:35)は、全国の若者たちがふるさとの誇りをかけて熱い料理対決を繰り広げてきた番組で、今回は予選を勝ち抜いた山形・三重・福岡の3チームによる決勝戦だった。審査員である和食・イタリアン・中華の3人の料理人が何を基準に評価するかが難しいと思ったが、各地の特産品を使った料理でふるさとをどのように表現するかがおもしろかった。
- 5月5日(木)「別冊 あさいち おいしい闘技場決勝大会」の決勝に至るまでの経過を知りたいと思った。福岡チームが優勝したが、いちごを使った料理がきれいで、専門学校生らしさと技術の高さに感心した。若い世代が真剣な表情で料理に取り組んでいて、今後の番組制作における可能性を感じることができる番組だった。こどもの日に若者が頑張る番組を放送したこともよかった。
- 「別冊 あさいち おいしい闘技場決勝大会」をこどもの日である5月5日に放送したのはタイムリーだと思った。“アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト”のように今後全国各地や世界に輪が広がり、大会が続いてほしいと感じた。

(NHK側)

「おいしい闘技場」は仙台局が2年にわたって制作してきた番組で、東北の各県どうしで対戦したり、東北と他の地域のチームが対戦したりしてきた。今年2月には青森チームと福岡チームとの対決を九州沖縄地方向けにも放送したが、数回行われてきた予選の中で特に評価が高かった3チームが「別冊 あさいち」として決勝大会で対戦した。もともとは3月21日(月)の予定だったが、震災特別編成により5月5日(木)に延期して放送することになった。

- 5月5日(木)の「ニュースウオッチ9」では、大越健介キャスターによるノーベル化学賞受賞者の野依良治さんへの取材の中で、野依さんが東京電力福島第一原発の事故に対して“想定外という言い訳をしてはならない”と断言していた。初動対応や先を読む力、技術の判断基準を誤ってはいけない、という説得力のある言葉に感銘した。
- 5月7日(土)のNHKスペシャル「巨大津波 “いのち” をどう守るのか」は、巨大津波はどのように発生し海岸に押し寄せたのか、各地で撮影された映像と証言から検証する番組だった。岩手県釜石市や宮城県の仙台平野を津波が襲う実際の映像を

見せながら、その間に人々はどう行動していたのか、命を守るために何が必要なのかなど、避難のあり方や津波そのもののメカニズムについてわかりやすく検証していると思った。私たちが思っていた以上に津波のことを知らないことが浮き彫りになった。千年に一度の大災害と言われているが、今回の震災で起こったことを、映像を通して千年後の人たちに伝えていかなければならないと感じた。

- 5月8日(日)のNHKスペシャル「浮世絵ミステリー 写楽～天才絵師の正体を追う～」は、鮮烈な役者絵を残しながら正体を巡ってさまざまな説が出されてきた謎の絵師・写楽について、ギリシャで発見された絵によって正体解明に迫った番組だった。能楽師説が有力になり、正体に迫ることができ、ギリシャで見つかった絵をきっかけにして、ドミノ倒しのようにどんどん謎が解ける展開に魅了された。
- 5月12日(木)のタイムスクープハンター「のろしを上げよ！」は、名も無き庶民の姿をリアルによみがえらせる歴史エンターテインメント番組で、平安時代、緊急信号を伝えた「のろしの番人」を密着ドキュメントしていた。以前放送されていた番組で、今回から復活するというので楽しみにしていたが、期待どおり臨場感があり、非常によかった。
- 5月15日(日)E TV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図 福島原発事故から2か月」は、東京電力福島第一原発事故発生直後から、第一線で活躍する科学者たちとともに詳細な放射能汚染地図を作成してきた内容と、調査過程の中で出会った人々の混乱と苦悩を伝えた番組だった。詳細な放射線量を国が公表せずに情報の信頼性が問われる中で、独自で地域を回って収集したデータをもとに放射線量を示した地図を作ったことには意義があると思った。非常に印象に残った番組で、今後も継続して取材してほしい。
- 5月16日(月)の「あさいち」では、“見逃される…女性の病気”と題して、出産後の女性から40代・50代を中心に見逃されがちな病気について伝えていた。自分の病気を誰にも相談できない人が多い中で、この番組で紹介することによって助けられている人がいるのではないだろうか。「あさいち」だけでなく、他の時間帯の番組でも取り上げてほしい。
- 5月18日(水)の歴史秘話ヒストリア「関ヶ原、奇跡の敵中突破！～九州最強・島津兄弟の生きるチカラ」は、南九州の戦国武将である島津義久・義弘兄弟が発揮した

生き残るたくましさについて迫った番組だった。「島津の勝ち戦では自分は何もしていません。勝利はすべて弟や家臣の働きによるものです」という義久の言葉で番組が締められていて、殺伐とした世の中で、心がほっとするような内容だった。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局

## 平成23年4月NHK九州地方放送番組審議会（議事概要）

4月のNHK九州地方放送番組審議会は、21日（木）、NHK福岡放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、事前に視聴した、特報フロンティア「大震災 九州の原発は」を含め、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、5月の番組編成の説明、視聴者意向および放送番組モニターの報告が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

|      |       |                           |
|------|-------|---------------------------|
| 委員長  | 南 慧昭  | （南陽山 勝光寺 住職）              |
| 副委員長 | 豊田 滋通 | （(株)西日本新聞社論説委員長）          |
| 委員   | 下竹原啓高 | （(株)指宿白水館代表取締役社長）         |
|      | 竹井 成美 | （宮崎大学教授 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園長） |
|      | 田中丸弘子 | （(株)佐世保玉屋代表取締役社長）         |
|      | 西大八重子 | （フィニシングスクール西大学院学院長）       |
|      | 原田 緑  | （(株)七尾製菓 代表取締役専務）         |
|      | 平田トシ子 | （北九州市男女共同参画審議会会長）         |
|      | 古野 隆雄 | （農家）                      |
|      | 松原 孝俊 | （九州大学教授 韓国研究センター長）        |

### （主な発言）

<特報フロンティア「大震災 九州の原発は」

（4月14日（木）総合 後8:00～8:42 福岡局・北九州局・鹿児島局・佐賀局制作）

について>

- タイムリーな企画で、鹿児島県・川内原発の関係者と周辺住民、有識者、自治体、東北からの避難者と、さまざまな視点から構成されていた。生放送ということで討論形式を期待していたが、スタジオのやり取りとVTRの構成で、生放送らしさを感じられなかったのが残念だった。
- 佐賀県・玄海原発のEPZ (Emergency Planning Zone・緊急時計画区域)は大事な視点であると思ったが、EPZ圏外ではあるが玄海原発からは50キロ以内の距離にある福岡都市圏の話が全く取り上げられなかったことに疑問を感じた。また、玄海原発では福島第一原発2号機と同じプルサーマルを導入しているので、プルサーマルの



実態も取り上げてほしかった。なぜ玄海原発がプルサーマルを日本で初めて導入したのかを取材すれば、原発問題が抱える本質により近づくことができたのではないだろうか。

- 防災対策の見直しが番組の大きなテーマであったと思うが、多くの視聴者が知りたいのは、九州の原発が安全であるか否かということだと思う。東京電力福島第一原発の事故を踏まえて、原発の安全性や危険性を検証することが大事であったと思うが、電力会社やコメンテーターの発言は一般の人には分かりにくい内容だったのではないかと思う。九州の原発の安全性を肯定する側と否定する側の意見を出して、対立軸を鮮明にして展開すべきだったのではないだろうか。
- コメンテーターの発言は一般の人には分かりにくいという意見が出たが、特に「想定外」という発言に対しては、キャスターが、生番組ならではのもう少しつっこんだ話を引き出してほしかった。
- 九州内で稼働する原発については今最も知りたいことであり、タイムリーな企画であると感じた。E P Z 圏内外の自治体による防災対策の見直しが行われていたが、一つの市町村のレベルを超えた話であることを痛感した。また、福島第一原発の関係者に取材していた点が印象に残る番組だった。
- 自治体同士の連携や、今回の大震災のように被害が広範囲に及ぶ災害に対して、各県がどう取り組もうとしているのかを知りたかった。E P Z 圏内に原材料の生産地を持つ企業の取り組みも取材してほしかった。
- 大変良いタイミングで番組を制作したと思う。ただし、生放送であるならば、視聴者も巻き込んだ議論を展開してほしかった。
- 原発の「安全神話の崩壊」「国策の見直し」「情報公開」という視点で番組が構成されていたと思った。改めて取り上げたことは評価したいが、これらの視点は北海道でも本州でも同じで、地理的に近いアジアとの関係性など九州ならではの観点を盛り込んでほしかった。
- 一企業が自治体や電力会社にアプローチしてもなかなか難しいが、NHKが指摘していけば相手側の動きが早い。公共放送としてしっかりと取材して、問題提起することが大事であると思った。全体を通じて時宜を得た内容であったと感じた。

- 原発の「安全神話」が崩れたという印象を持ち、川内原発関係者のインタビューを聞いて、本当に大丈夫だろうかと疑問に思った。原発周辺の避難ルートがどのような経緯で設定されたのかを追究してほしかった。
- 今後も継続して取材してほしい。川内原発の周辺地域の避難路として、原発の横を通るルートしか確保されていないという問題点なども追究してほしい。
- 近年、ニューギニアやスマトラ島沖地震で大津波災害が発生しているが、それぞれ災害を克服して復興への歩みを進めてきた。九州で災害が起きた場合、これらの海外の事例を当てはめるとどのようなことが想定されるかを追究してほしかった。
- 想定外では済まされない事態が今起こっているが、九州にある原発では想定が甘いのではないかと感じた。また、地震や津波だけでなく、原発事故を通してエネルギー問題をどうしていくか考えさせられる内容だった。
- 視点が全方向で番組としての主張がないと感じた。また、福島第一原発関係者に関する話をもっと深めて展開してほしい。政府の指針があるがために、かえって周辺自治体の危機管理や電力会社の対策が遅れてしまうのではないかと感じた。
- 福島第一原発の事故を受けて、九州において原発を取り上げた番組を放送したことは重要であると思った。鹿児島県の川内原発と佐賀県の玄海原発について、住民、行政、事業者など関係者の声に、専門家の解説を交えてうまく構成されていて、多くの問題点と今後の対策が提示されていた。安全や安心が得られるところへの情報提供を込めて、これからもこのような特集番組を放送してほしい。
- 福島第一原発の事故後に、多くの専門家が想定外の事態であるという認識を示していることに驚きを感じる。川内や玄海の原発における地震や津波の想定があまりにも低く、むしろ原発を推進するための基準ではないかとも思える。原発に限らず、大きな災害につながる可能性がある政策について、情報公開の現状や行政のあり方を取材し、番組作りに生かしてほしい。

#### <放送番組一般について>

- 連続テレビ小説「てっぺん」の中で、主人公の祖母は娘の分骨の場で正装をしていたが、一方で主人公がジーンズをはいていたのに違和感があった。放送による視聴者

への影響は大きいので、服装の細かいところにも配慮してほしい。

- 最近、アナウンサーの発声が良くないと感じることがある。いわゆる“ながら視聴”では音だけの視聴になり、発音が悪いと分からないことが多い。映像はCGなども活用して素晴らしいものが放送されていると思うが、音声については、これまで以上にアナウンサーの発声練習をしてほしい。また、生放送番組の中で“ぶっちゃけトーク”という表現を使っているアナウンサーがいて、とても残念だった。NHKには美しい言葉で伝える最前線を担ってもらいたいと思った。
- 昨年1月から3月にかけて4回にわたって放送された「NHKスペシャル MEGAQUAKE 巨大地震」は、巨大地震のリスクとどう向き合っていけばよいのか、地震研究の最先進地・日本から伝えるドキュメンタリーシリーズであったが、実際には番組を見ることができなかった。最近、新聞書評欄でこの番組の内容が単行本として出版されていることを知って読んだが、100年周期で起きる太平洋ベルト地帯沖の巨大地震が今世紀の前半に起きると予言していたのには驚いた。さらには、東日本沖のプレート境界で起きる地震がマグニチュード9クラスになる可能性があり、千年に一度の大津波がいつ来てもおかしくない状況であることも番組は予言していた。今回の東日本大震災は想定外であるという言葉がよく聞かれるが、番組を見るかぎり、想定内の地震であったことがはっきりと分かった。番組が予言していた事態が起こるべくして起こってしまったのではないかと感じ、もっと早く多くの人たちがこの番組を見て関心を持っていれば、少しは違う結果になったのではないだろうか。報道機関として、警鐘を鳴らすことは重要な使命であるが、残念ながら警鐘を鳴らしただけで終わっていて、新聞を含めたメディアの限界を感じた。「NHKスペシャル」は良い番組を作っていると思うので、これからも警鐘を鳴らし続けてほしい。
- 先月から今月にかけて2週間以上アメリカのニューヨークに滞在していたが、現地では津波などの災害の映像があらゆる番組で何度も繰り返して放送されていた。このような状況では風評被害を生んでしまうのは当然で、日本のメディアは海外に対して被害の実態を伝えるだけでなく、復興への道筋や日本が安全であることを伝えてほしい。
- 放送の速報ニュースでは事象だけが報道され、それを検証する番組は数週間後にやっと放送されることがある。一方で、新聞や雑誌では検証記事がすぐに掲載される

ことが多く、東日本大震災の報道を通して、活字によって見ないと確かめられないものがあるのではないかと感じた。テレビでは速報性を重視している傾向があるのではないかと思うが、テレビにおいても踏み込んだ内容の番組をすぐに放送してほしいと思う。教育に携わる立場から見て、被災した子どもたちの様子や安否情報があまり見られなかったことも残念だった。

- 震災後の「あさいち」で被災地からの中継に出演していた女性リポーターの中に、白いコートを着ている人がいて、場の雰囲気をおきまえていないと思った。一方で、有働由美子アナウンサーが被災地に入ってボランティアの方と同じ体験をするリポートがあり、共感できる面もあった。
- 福島第一原発事故の状況について、NHKは何も隠していないと前回の審議会で断言していたが、政府や電力会社が事実を隠しているために、結果として事実を報道できなかったことは大震災発生から1か月経って明らかになったのではないだろうか。事故の発生当初から、福島第一原発の事故に対する国際評価尺度はレベル7であったのだと思う。それをすぐに報じることができないマスコミの報道に意味を感じることができない。
- 東日本大震災の海外向けの報道について、海外の報道機関と連携して、日本が安全であることも積極的に報道してほしい。きちりとした報道をすれば、海外での風評被害を防ぐことができると思う。
- 東日本大震災の発生直後、鹿児島県の沿岸においても津波警報が発令された。県内ではあらゆる面で影響を受けたが、実際には呼びかけほどの津波が押し寄せることはなく、気象庁の警報発表の基準を疑問に思った。この基準を検証して、安全である場所と危険である場所を見極めて伝えるように努めてほしい。
- 東日本大震災発生直後の報道では、津波が町を襲う様子の中継で克明に伝えていた。津波が人や車を飲み込みそうになり、目を覆いたくなった瞬間に他の映像が映し出され、あまりに無残な映像を直接伝えないような配慮が見られた。特ダネを伝えることになりがちである中で、報道する側の良心が感じられ、痛みが分かる伝え方だと思った。

- 4月からBSが2波化されたが、それまでの3波のときと比べて、うまく整理され、波が持つ性格がはっきりしてきたのではないかという印象を受けている。4月4日(月)のBSシネマ 山田洋次監督が選んだ日本の名作100本～家族編～「東京物語」や、4月5日(火)のBSシネマ 山田洋次監督が選んだ日本の名作100本～家族編～「二十四の瞳」を見たが、デジタル・リマスター版の画質が非常に良かった。今後、「シリーズ若冲ミラクルワールド」という画家・伊藤若冲の企画もあるそうで、BS放送のグレードが上がっていると感じている。
- 4月上旬以降、新聞の読者室に「BS2のテレビ欄はどこに掲載されているのか」という問い合わせが多く寄せられた。東日本大震災の影響もあったと思うが、BS2波化のPRが不足しているのではないかと感じた。
- 4月は統一地方選挙が行われているが、投票のしかたや投票用紙の書き方を選挙直前に伝えれば、少しでも投票率が上がるのではないだろうか。各県向けの放送でもよいので、選挙制度の理解を深める番組をぜひ放送してほしい。また、投票は午後8時までであるが、当選確実の一報が8時直後に一斉に伝えられるのはなぜなのか疑問に思う。出口調査などの取材の裏付けがあるからだと思うが、開票が始まる前にすでに結果が出ているような気分になってしまう。
- まる得マガジン「自分を磨く立ち居振る舞いスマートなマナー」は、日常生活やビジネス、冠婚葬祭に欠かせないマナーについて、品が良く美しく振る舞えるマナーを短時間で学ぶシリーズ番組だった。シリーズ第6回では、カップやグラスの正しい持ち方を紹介していたが、せっかく作法を教えるのであれば、器にも気を遣ってほしいかった。マナーを番組として取り上げること自体は評価できるので、それぞれの作法のいわれや背景にあるものなど、今後はより内容を深めた番組を制作してほしい。
- 2月27日(日)のMi/D o/R i～緑遊のすすめ～「宮崎・照葉樹の森に遊ぶ～木村晃彦～」は、宮崎県綾町のペンションを運営しながら照葉樹林を案内している木村晃彦さんが自然を満喫している生活を描いた番組だった。都会に住んでいる人は都会がすべてだと思いがちであるが、カントリーライフを提言するこのような番組を今後も放送して都会の人たちにアピールすることで、人口分散や限界集落解消にもつながることができるのではないだろうか。

- 4月4日(月)のクローズアップ現代「どう支える 被災地の子どもたち」(総合 後8:00~8:43)は、東日本大震災によって子どもたちが心に負った深い傷をいかにして癒やしていけばよいのかを考える番組であったが、現状の報告しかなされていないと感じた。先を見据えた提言を番組に盛り込んでほしい。
- 「ニュースで英会話」や「ワンポイント・ニュースで英会話」は、一つの英語ニュースを題材に、その話題に関連した実用的な英語表現を身につけていく番組で、4月5日(火)深夜に再放送された、ワンポイント・ニュースで英会話(2)「汚染水除去に仏が専門家派遣」(教育 6日(水)前1:00~1:05)では福島第一原発事故の話題を英語で紹介していた。非常に興味深い内容で、このような機動性のある番組を深夜だけではなく視聴しやすい時間帯に放送してもよいのではないだろうか。
- 「あさいち」の放送開始当初は審議会での評判があまり良くなかったが、最近仕事で訪れた土地で聞くかぎりでは非常に評判が良い。庶民の目線で番組を作っていて、東日本大震災に関する話題を非常に分かりやすく取り上げている。4月7日(木)には、日本屈指のかつお水揚げ量を誇ってきた漁業基地である気仙沼を復興しようと立ち上がった宮城県気仙沼市の漁協など、前向きに生きる被災地の人々を紹介していて、応援したいという気持ちにさせる内容だった。
- 4月9日(土)の「BS大いなるテレビのフロンティア」(総合 後11:00~10日(日)前0:12)は、4月から2波化されたBS放送について、実験性と冒険性に富んだ足跡を振り返り、BSの魅力伝える番組だった。BS放送が始まって以降の変遷や技術の進歩を知ることができて、有意義な内容だった。
- 4月10日(日)に国立劇場おきなわで「沖縄の歌と踊りのつどい」が行われた。これは、組踊や琉球舞踊など沖縄の伝統芸能を紹介する沖縄局制作番組の公開収録で、長年にわたって沖縄の芸能の発展に貢献してきたと思う。今後の放送にも期待したい。
- 4月11日(月)深夜に再放送されたプロフェッショナル 仕事の流儀「列車は、走るビックリ箱」(総合 12日(火)前0:15~1:03)は、九州新幹線をはじめ、JR九州の多くの車両デザインを手がける水戸岡鋭治氏の仕事に密着し、車両の魅力にも迫った内容だった。水戸岡さんのデザイナーとしての姿勢に感銘し、視聴者に自らの仕事への関わり方を再考させたのではないかと思った。この番組らしい良い内容で、自分も

列車に乗っているような気分させられた。

- 4月12日(火)の猫のしっぽ カエルの手「15年目の春」は、自然豊かな京都大原で営まれるイギリス人女性のベニシアさんの爽やかな暮らしぶりを、美しい映像でゆったりと伝える番組だった。このシリーズはこれまで毎回楽しみにしてきたが、内容をリニューアルして番組が始まりうれしく思った。大原の季節の移り変わりがとても美しく、日本の原風景を見るようで心が落ち着く。単なる紀行番組ではなく、生活に役立つ身近な話や料理のレシピも紹介される点も良い。英会話教師でもあるベニシアさんが大原の情景を英語で語る場面も映像と合っていて、とても心地よく癒やされる。
- 4月12日(火)のにつぼん紀行「ふたり 雪に包まれて～山形・古寺集落～」(総合 後10:55～11:19.30)は、冬の間、孤立状態となる土地で2人だけで暮らしてきた老夫婦を描いた番組だった。山の幸を蓄え、自給自足の暮らしを続ける老夫婦には、限界集落の問題とは一線を画した豊かな時間が流れていて、寂しさや悲しさを忘れさせるような内容で、生きるという原点を考えさせられる良い番組だった。
- 水戸岡さんが出演していた4月15日(金)のきん☆すた「見ると旅が2倍楽しい！九州の鉄道旅SP」(総合 後8:00～8:43 九州沖縄地方)は、音楽界有数の鉄道ファンで発車ベルなどを作曲してきた向谷実さんも登場し、鉄道沿線の穴場情報や、車両デザインに隠された秘密など、旅が楽しくなる情報を紹介する番組だった。向谷さんが列車に乗って司会者と一緒に九州内を旅して、ツイッターの情報を頼りに、現地で食事をする場所を決める企画だった。実際に取り上げられていた店舗は、確かに地元では行列ができるほどの店ではあるかもしれないし、ツイッター情報を頼りにしているとは言え、地元ならではのもっと違う食事ができたのではないだろうか少し残念に思った。
- 4月16日(土)の週刊 ニュース深読み「何が危険？ どうすれば安心？ 広がる放射線への不安」は、福島第一原発事故に関する話題で、放射性物質の危険性や対処法などを専門家が解説していた。この中で、ほうれんそうから暫定基準値を超える放射性ヨウ素が検出されたことを詳しく解説していたが、ほうれんそうだけではなく、人体に影響があるのか否か、一般生活に通じる話も取り上げてほしかった。

- 4月17日(日)の新日本紀行ふたたび「“ごんぞう”の魂～北九州・洞海湾～」(総合 前8:00～8:23 九州沖縄地方)は、かつて北九州市洞海湾で石炭の積み下ろしをしていた“ごんぞう”と呼ばれる人々の魂が今も受け継がれているかを描いた番組だった。コンビナートの夜景や昭和45年に放送された「新日本紀行」の映像も盛り込まれていて良かった。今でも“ごんぞう”の魂が形を変えて残っていることが描かれていて、素晴らしい内容で魅せられた。
- 4月17日(日)の新日本紀行ふたたび「“ごんぞう”の魂～北九州・洞海湾～」は素晴らしい内容で、親子二代で男は働かなければならないという男意気や生きざまを見ることができて良かった。
- 4月17日(日)のBSシネマ 山田洋次監督が選んだ日本の名作100本～家族編～「めし」は、林芙美子さんの未完の絶筆「めし」を映画化して、けん怠期にあるサラリーマン夫婦の日常を独特の演出で描いた作品だった。60年も前の映画だが、現代社会にも通じる視点多く、心に残った。
- 4月19日(火)から始まったドラマ10「マドンナ・ヴェルデ」は、作家の海堂尊さんの作品をドラマ化したもので、子宮を摘出した産婦人科医の娘のために代理出産を決意する母親の視点で描かれた内容のドラマだった。同じ海堂さんの小説で、娘の視点から描かれた「ジーン・ワルツ」と表裏一体でおもしろく、海堂さんの作品のファンとしては今後が楽しみである。
- 4月19日(火)から始まったドラマ10「マドンナ・ヴェルデ」は、娘の代理出産を決意する母と娘を描いたドラマで、非常に興味深かった。昔は10組に1組が不妊と言われていたが、この番組は種の保存という議論から制作されているのかと感じた。産まないという人生の選択肢を提言するところまで展開するのか、今後が気になり、早く続きを見たいと思った。

NHK福岡放送局  
番組審議会事務局